

置県百年

富山県

蜀鼎白紙

富山興

ごあいさつ

本年は、富山県の置県百年の年であります。県民の皆様とともに、この大きな歴史の節目に巡り会うことができたいことを、心から喜び合いたいと存じます。

明治十六年五月九日、石川県から分県して以来この百年は、「水とのたたかい」から「水の利用」へと大きな転換が図られるなど、富山県の近代化への基礎づくりの世紀であったと思います。この間、県の発展のために尽くされた多くの先人に対しまして、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

私たちはいま、本県の良き歴史と伝統を生かし、新しい時代への限りない発展を期して、富山県の第二世紀へ力強い第一歩を踏み出さなければなりません。

このため私は「活力にあふれ、発展する富山、温かい心に満ちた美しいふるさと」の実現をめざし、また二十一世紀に向けて、県民の皆様とともに、「日本一の健康・スポーツ県」、「日本一の花と緑の県」、「日本一の科学・文化県」の三つの目標に挑戦していく決意であります。

激動と混迷を続ける厳しい内外情勢のなかで、県づくりの前途は決して平坦ではありません。県民の皆様すべての参加と連帯のもとに、輝かしい明日の富山県を築くため、勇気と情熱をもって努力していききたいと思っております。

記念誌『置県百年富山県』は、現在の富山県を築き育ててきた先人の遺業をしのび、現在をみつめ、さらに未来に向かって飛躍する、県民の皆様への心遣いなるよう、懐かしい思い出の写真を中心に編集制作したものであります。

皆様の座右にあって、末永くご愛読、ご参照いただければ幸甚であります。

昭和五十八年五月九日

富山県知事

中 沖 豊



百年たちました またここに新たな気流





石川縣第一師範學校檢閱

越中地誌略

三宅少太郎編輯

明治十二年

一月發兌

石川縣

學校用

益智館藏梓

越中略圖



明治十一年一月発行の教科書「越中地誌略」の巻頭地図。石川県時代の越中全図で、新川・婦負・砺波・射水の四郡が色分けされている。日本海側が下になっているのが、面白い。

北緯三十五度三十分十五秒
西經二度三十分四十六秒



□	名邑	○	温泉
⊕	神社	⊕	度標
●	郵便局	△	村
⊓	山	⊓	瀑布
〰	支道	○	驛路
〰	本道		

目次

ごあいさつ	1
カラー写真 雨晴海岸から見た立山連峰	2
カラー写真 越中国略図 (明治十二年一月発行)	4
1 藩から県へ (明治元年～十六年四月)	8
維新の成立と版籍奉還	8
廃藩置県から新川県設置	9
郡・町村行政組織の改正	10
石川県となって	11
自由民権運動の先駆	12
分県運動の展開	13
2 富山県となつて (明治十六年五月～二十八年)	16
新しい県政のスタート	16
初期県会のがた	17
真宗王国のエネルギー	18
たかまる自由民権運動	18
産業の発展	19
市町村の誕生	19
テ・レーケと治水策	20
架橋と賃取橋	21
活発な北海道移住	21
3 近代化へのあゆみ (明治二十九年～四十五年)	26
農業の改良	26
日露戦争	28
伸びゆく産業経済	29
新天地を求めて海外に雄飛	31
治水工事と消防設備の充実	32
電力県のめばえ	33
地域のひろがり	34
カラー写真・県花(チューリップ)	35
4 電力・工業の進展 (大正時代)	36
北陸線の全通と交通網の拡大	36
一府八県連合共進会開く	37
工業の進展	38
電力の時代	40
知事の英断	41
大正寸描	42
軍備縮小	43

特集

文明開化	14
新しい文化の導入	14
教育の百年	22
教育こそ繁栄の道	22
報徳教育から生涯学習へ	24
大正デモクラシー	44
大衆運動のたかまり	44
庶民文化の開花	45
自動車・蓄音機・そしてラジオ	46
盛り場のモダンイズム	47
スポーツの百年	54
伝統的な武道／越中相撲の黄金時代	54
新しいスポーツの普及	55
戦時下のくらし	64
欲しがりません勝つまでは	64
耐乏の日々	65
新生のいぶき	72
モンペからスカートへ	72
芸術の百年	80
漢学と漢詩人たち／大正の地方文芸誌／大正作家の双壁／児童文学	80
芥川賞・直木賞の作家たち／郷土研究雑誌「高志人」／俳諧から俳句へ	81
歌壇と詩壇／疎開文化	82
絵画	83
彫刻・工芸	84
越中浄瑠璃／多様化する演劇	86

5 ゆれ動く日々(昭和元年～十四年).....	48	不況にあえぐ人びと...48	富山市周辺の工業化すすむ...49
	53	労働者の祭典「メーデー」	報徳教育県...50
			富山と満州...51
		カラー写真	県鳥(ライチョウ).....
6 統制の時代(昭和十五年～二十年八月).....	58	さようなら贅沢品...58	太平洋戦争へ突入...60
	63	言論統制と学徒動員...61	富山大空襲...63
7 混乱から開発へ(昭和二十年九月～三十二年).....	66	混乱から立ち直りへ...66	民主化への脱皮...68
	70	復興への足音...69	全国に先んじて総合開発へ...70
		カラー写真	県木(タテヤマスギ).....
8 日本海時代へ(昭和三十三年～四十七年).....	74	富山新港の開港...74	建設ブームの到来...76
	79	生活環境の変化...79	
		カラー写真	県獣(ニホンカモシカ).....
9 躍進する県勢(昭和四十八年以降).....	88	オイルショックの克服...89	生活・福祉の充実...91
	93	国際化時代を迎えて...93	
ひらけ富山新世紀.....	94		
	95		
置県百年記念事業(行事・施設・出版).....	96		
	98		
歴代知事・歴代議長・あとがき.....	99		
資料提供者／編集者.....	100		

人物誌	国重正文.....	17
	安田善次郎.....	28
	大矢四郎兵衛.....	34
	正力松太郎.....	74
	山田孝雄.....	86
	松村謙三.....	93
富山県年表	明治元年～十六年四月.....	9
	明治十六年五月～二十八年.....	17
	明治二十九年～四十五年.....	27
	大正時代.....	37
	昭和元年～十四年.....	49
	昭和十五年～二十年八月.....	59
	昭和二十年九月～三十二年.....	67
	昭和三十三年～四十七年.....	75
	昭和四十八年以降.....	89

1 藩から県へ

明治元年（十六年四月



北越戦争へ富山藩士出陣
明治元年7月、北越征討の官軍に加わって、富山藩兵・金沢藩兵が進発



藩印
版籍奉還から、廃藩置県まで使われた。



富山藩加増祝賀の町民行列
元年7月29日、富山藩は北越戦争の戦功により、5千石加増。
各町競って、山車をつくり、華やかな祝賀行列をした。

維新の成立と版籍奉還

慶応三年（一八六七）十月、徳川幕府は大政を奉還。十二月、王政復古の大号令が発せられた。
明治二年六月、各藩が版籍を奉還したので、幕藩体制が崩れ去った。富山・金沢両藩においては、旧藩主が知藩事に任命された。また、職制など諸制度が改革された。
三年十月、富山藩参事の林太仲が突然、藩内の寺院を各宗派別に一カ寺に合併する「合寺令」を出したので、宗教界に大混乱を起こした。翌年、政府がその行過ぎをたしなめたため、その令を撤廃したのでおさまった。



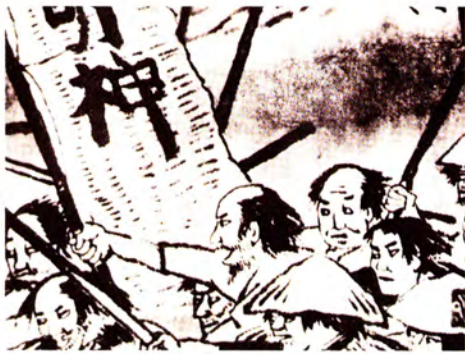
富山城二階御門
藩政時代の面影を留めている。



富山藩へ預けられたキリシタンの人びと
3年、政府は初め、キリシタン禁制方針により、信徒を数藩に預けた。長崎、浦上信徒を受け入れた富山藩では、笹倉村（現婦中町）の妙順寺などに収容した。



合寺騒ぎの絵
合寺令の指揮をとる林太仲



むしろ旗をたてて押し進む一揆軍



新川県庁舎
4年11月魚津郡代役所あとにできた新川県庁舎



新川県印
4年につくられた。



ばんどり騒動
2年の夏は、長雨続きで、とくに新川地方は大凶作。塚越村(現立山町)の忠次郎らが一揆を起こしたが、金沢藩兵が出勤して鎮圧。塚越にある忠次郎記念碑



高岡銅器・象嵌花瓶
名工横山弥左衛門の作といわれ、おそらく幕末か明治初期の制作であろう。彫金の技術、仕上げの加工は、まことに見事である。



勇助塗・山水花鳥図茶棚
2代目石井勇助の作。高岡漆器の代表的作品。父の技法をうけて出藍の誉れがあり、縹漆を開発した。

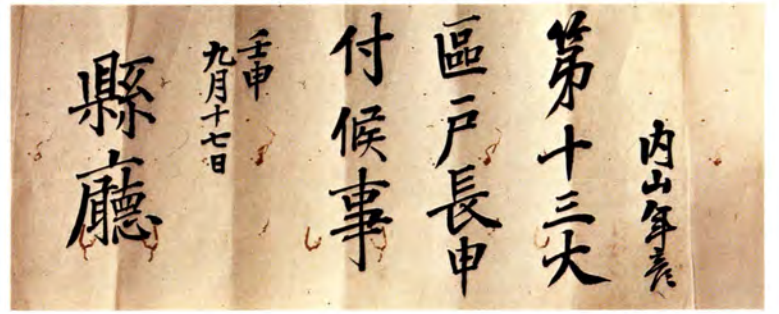
廃藩置県から新川県設置

明治四年七月、廃藩置県により富山藩が富山県になり、四月後、新川県となり、魚津町に県庁を移した。六年八月、県庁は富山町に復帰した。ついで九年、石川県に統合。十三頁の図のごとくめまぐるしい変遷を重ねた。

維新以来の国策にしたがって、市民平等・戸籍法・学制・徴兵制などの新制度、暦制・税制の改革、殖産興業・文明開化の奨励などを実施して、近代化への歩みを進めた。とくに教育・産業・生活が洋式化された。

八年ごろから、まず福光・八尾の製糸工場の数カ所が機械化され、生糸は海外貿易の花形となった。また、高岡の銅器・漆器、井波の彫刻は、万国博・内国勸業博などに出品して賞を受け、海外に名声をあげた。なお、富山売薬も広貫堂などの会社が設立された。

西暦	年号	できごと
一八六八	明治元	富山・加賀両藩、北越戦争に出兵
一八六九	明治二	●版籍奉還 加賀藩主前田慶寧、富山藩主前田利同、知藩事に任命 ○加賀藩閔所を廃止○新川地方ではばんどり騒動発生○水橋町有志、常願寺川河口にはじめて架橋 富山藩一宗一寺の合寺令強行○浦上切支丹四二名を富山藩領二九カ寺に預けこれに改宗を強制○十村制度廃止、里正となる○加賀藩、黒部奥山立入禁止を解除
一八七〇	明治三	●廃藩置県 七月富山藩領(婦負郡、新川郡の一部)を富山県に、金沢藩領(新川郡の一部、射水郡、砺波郡)を金沢県とする。十一月、富山県を廃し新川県(新川、婦負、砺波三郡)を置く。県庁は魚津町に設置、射水郡は七尾県に編入
一八七二	明治五	加賀の有志、開通社を結成、信越連帯針ノ木新道開削に着手。(一年、明治天皇これを御嘉賞。一三年ごろ維持困難となり廃道)
一八七三	明治六	●学制発布 越中全域を新川県とし、大区小区制実施 里正などを廃し、戸長、副戸長などをおく○初めて泊町に郵便局をおく○立山の女人禁制解除(ただし、婦人の本格的立山登山は大正八年ごろから) ○飛越国境神通川籠の渡を木橋に改架
一八七五	明治八	県庁を魚津から富山城跡へ移転○各地で小学校創立○新川県小学校教員講習所創設(富山県師範学校の基)
一八七六	明治九	●地租改正実施 伏木港に汽船入港○種痘院設置○福光に製糸工場創設
一八七七	明治一〇	新川県を廃し、石川県に統合○広貫堂創設○富山町大法寺で展覧会開催(廃藩後初の展覧会)
一八七八	明治一一	●西南戦争 海内果ら相益社を結成、県下最初の雑誌相益社談を小杉町で発刊○西南戦争に越中人も出兵○薩軍捕虜長谷場純孝ら富山で服役○地租改正にからみ砺波農民騒動○電信線の架設着工
一八七九	明治一二	天皇、北陸巡幸○第二百二十三国立銀行設立、翌年開業○五郡に郡役所設置○砺波郡天田越・婦負郡安養坊に新道建設○越中越後境に境川橋架橋○初めて魚津町に電信開始○英人サトウ、針ノ木新道より立山登山を試む
一八八〇	明治一三	石川県会開く(県会のはじめ)○県下にコレラ大流行○富山総曲輪の濠埋立地に西本願寺説教場、翌年東本願寺説教場開設(富山東西別院の基。総曲輪商店街の端緒)
一八八一	明治一四	富山商法会議所創設○稲垣示、北立社結成○富山病院内に医学所をおく○稲垣示ら越中の有志四〇七九名、国会開設の請願書の執筆を願う
一八八二	明治十五	●国会開設の詔 島田孝之、北辰社結成○米人宣教師ウイン富山で説教(本県プロテスタント布教の始)○公美社、本県最初の新聞、越中新誌発行 北立自由党、越中改進黨結成○飛騨道路竣工



戸長任命書 5年9月に発令した戸長辞令



戸長役場発行の領収書 湯村ほか19カ村(山田村)の 戸長役場から出された。



笹川村 (現 朝日町) 戸長役場の看板

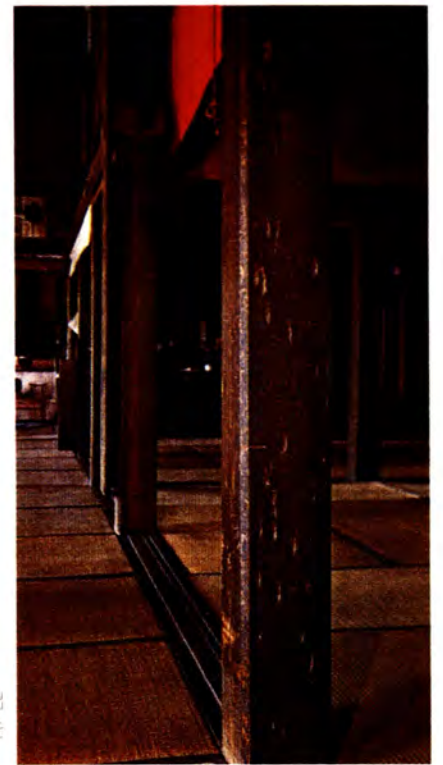
郡・町村行政組織の改正

明治二年三月、藩政時代の郡奉行を廃して郡宰を任命した。翌三年九月、十村制を廃して郷長を置き、翌月、里正と改称。ついで五年六月、従来の行政区の単位を改めて、大区小区制を設けた。大区には戸長を、小区には、副戸長を置いた。十一年には、「郡区町村編成法」により、町村に戸長を置き、戸長役場を設けた。

また、八年に地租を改正したが、小作人側には、税率に対する不満があった。このため、十年二月、砺波地方の農民が一揆を起こした。

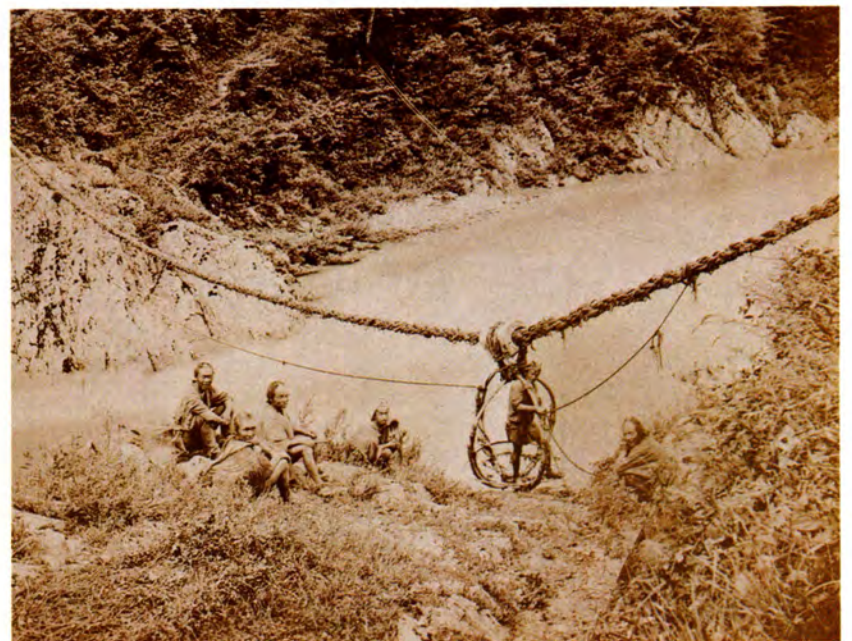


地券2種
8年に本県の地租改正を実施。土地所有者に地券を交付して証明書とした。右は12年、石川県発行。下は分県独立後に富山県が発行



砺波農民騒動のきずあと
地租改正に不満の砺波地方農民が、10年に戸出町永安寺で催された説明会で、郡長らに暴行を加えた時の、本堂の柱のきずあと

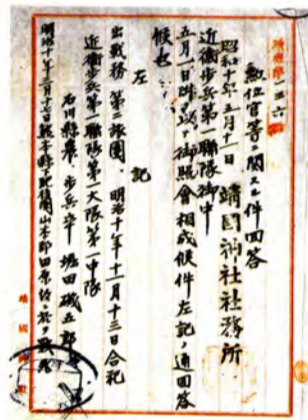
五箇山最初の鉄鎖つり橋
8年に当時の下梨村長、水上善三郎が私財を寄付し、村民の協力のもと対岸の大島村へかけた。これが五箇山地方が開けるきっかけとなった。



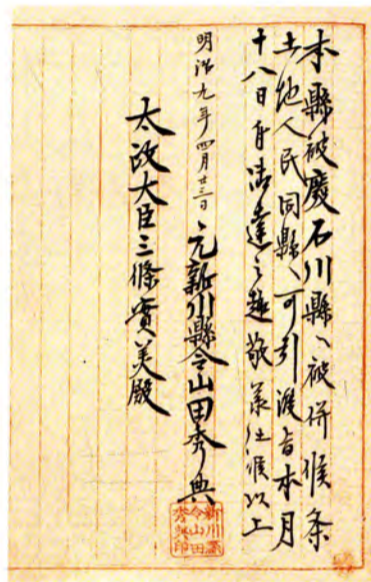
籠の渡し
明治の初めごろ、五箇山庄川溪流には、まだ、藩政時代の名残りを留めた籠の渡しがあつた。場所は上平村新屋



明治天皇巡幸の錦絵
 明治天皇は11年9月28日に新潟県からお入りになり、当時の県民の感激は大きかった。



西南戦争の戦死証明書
 10年、赤倉村(現 小矢部市)出身の堀田磯五郎が田原坂の激戦で戦没。靖国神社から発行された文書



石川県への引継書
 9年4月13日、元新川県令山田秀典から提出された、太政大臣宛の文書

石川県となって

明治九年四月、新川県(越中全域)が石川県管下に入り、十二年に第一回の県会が発足。その後、県会では土木費の予算計上について、越中側が治水に、加賀・能登側が道路に、それぞれ優先を主張し合ったが、越中側の要求は通らなかった。かくて、次第に越中の分県独立への要望が高まった。十一年の秋、明治天皇の北陸巡幸があつて、本県を通過された。その際、交通通信などの発達が進められた。十年前後から、地主・商人などの資本蓄積の増大、士族救済に交付された多額の金禄公債の運用などのために、銀行や貸預金会社が各地に創設された。十二年に本県最初の、第百二十三国立銀行が開業した。



第百二十三国立銀行本店
 12年、富山町に開業。17年に第十二国立銀行と合併し、後に今日の北陸銀行の母体となった。(富山市50年史絵巻から)



本県最初の紙幣
 第百二十三国立銀行が発行



金沢博覧会の錦絵
 7年、兼六公園内の成巽閣で、北陸最初の博覧会が開催され、各町村からも出品して、受賞が多かった。



座繰り製糸
 機械製糸以前は、座繰りて、釜の煮え湯の中に繭を漬けて、糸口を取り出し、糸枠に巻きとつた。

自由民権運動の先駆

国内に、自由民権運動や、文明開化の思想が高まりつつあった折、県内では、明治七年ごろ、小杉で開智社書店主増田伝七、海内果らが、雑誌「相益」(のちの「相益社談」)を刊行。また、高岡の大橋十右衛門(三水)が越中義塾を創設した。

十三年、二口村(現大門町)の稲垣示は、高岡に北立社を結成。国会期成同盟に入り、石川県側代表の一人として太政大臣に国会開設請願書を提出して活躍。十五年に北立自由党を結成して自由民権運動に尽した。

同じく十五年、般若野村(現高岡市)の島田孝之らが越中改進黨を結成。さらに北辰社を創立して政治活動に奔走した。

十六年三月、高岡の瑞龍寺において、新潟(越後・佐渡)・石川(越中・加賀・能登)・福井(越前・若狭)三県の民権家の大集会「北陸七州有志大懇親会」が開かれた。「自由万歳」の旗が山門にたてられ、集まるもの四百余名。自由民権を求める北陸の活力が、盛りあがった。



海内 果の生家



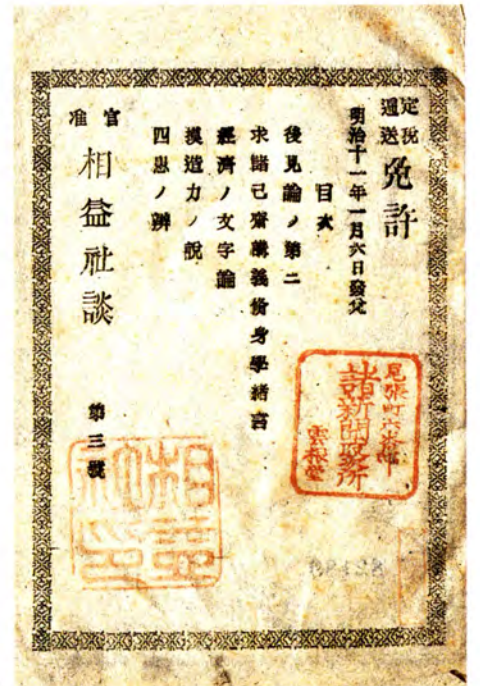
稲垣 示 (1853~1902)
二口村(現 大門町)出身。
自由党の民権運動の先覚者。
とくに国会開設運動に活躍



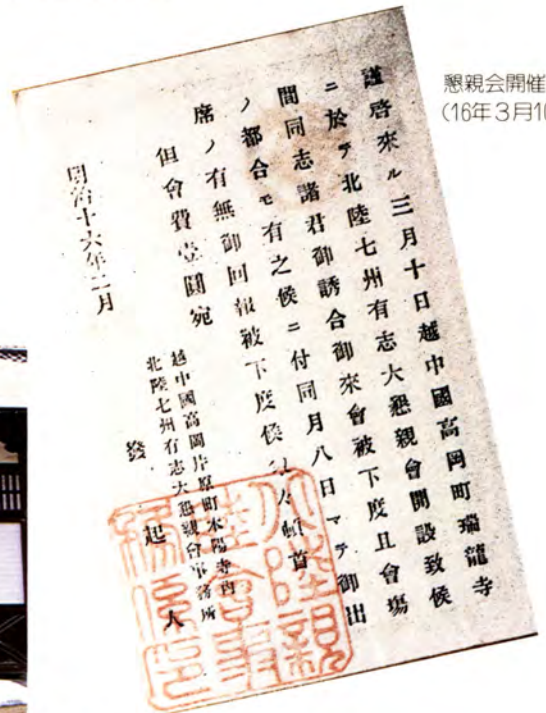
海内 果 (1850~1881)
老田村(現 富山市)出身。明治
初年の言論界の先覚者。穏健で
実践的啓蒙思想家



自由新誌
15年に金沢で発行。編集は稲垣示が中心となり、板垣退助らの自由民権思想の普及につとめた。



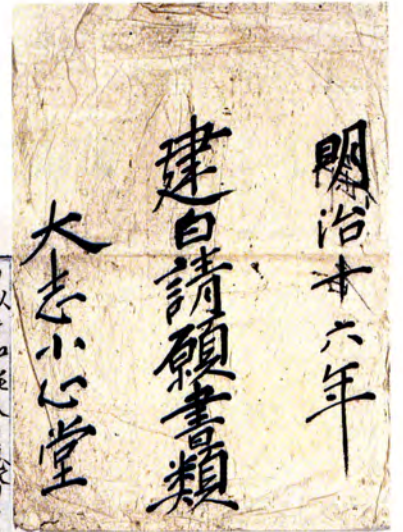
相益社談
10年11月創刊の、海内果主宰の啓蒙雑誌。越中の新聞雑誌の先駆であった。



北陸7州有志大懇親会会場
16年、高岡の瑞龍寺法堂で、自由党の北陸連合をめざして開催。昭和58年3月、同所でこれの百周年記念大会が開かれた。



分県陳情のため上京した代表者たち
中央が米沢紋三郎、右が入江直友（1854～1915）



分県建白書の写しと書類袋
15年夏、米沢紋三郎が五十里（現 高岡市）の岳父宅で苦心して起草した。

ヲ以テ加能人ノ急務トスル道路ノ開鑿ハ
越中人ニ何ノ利益モ無ク越中人ノ必要ト
スル堤防ノ築造ハ加能人外之ヲ無用トシ
其他百般甲ニ便ナル者乙ニ適セズ此レニ
益スル者彼レニ害アリ前般後陸光枝右橋
到底真正ノ政務ヲ辨ズルニ違アラザルナ
年ノ久シキ一藩治下ニ在リテ尚我越中國
人情風俗ノ加能兩國ニ同シカラザルハ地
理形勢体感利害大ニ異ナル所アルニ由ル
ニ非ズシテ何レヤ此ノ如ク大ニ異ナル所
アリ施政モ亦自ラ異ナラザル可ラザルナ
リ然ルラ今強テ同一縣治ノ下ニ統轄ス是

米沢紋三郎（1857～1929）
入膳村（現入善町）の出身。
本県分県独立運動の中心人物。
越中自治党や越中改進黨の結成に努力。
のちに衆議院議員に2回当選



島田孝之（1850～1908）
般若野村（現 高岡市）の出身。
越中改進黨創始者の1人。県会議員、衆議院議員に当選して政界に活躍。
分県運動に尽力した。

分県運動の展開

十五年夏、分県運動推進の会合が富山で開かれ、投票で入善の米沢紋三郎を委員長、富山の入江直友を副委員長に選んだ。生地（現黒部市）の田村惟昌、高岡の大橋十右衛門、伏木の藤井能三、般若野（現高岡市）の島田孝之らも、心をあわせて奔走した。

同年九月、米沢らは分県の建白書をたずさえて上京。内務卿山田顕義ら政府高官に陳情。参事院にいた磯部四郎、司法省の石埼謙も、別途、分県の建白書を元老院に提出した。その熱意は政府を動かした。また、十二月、参事院総会において、分県が適当であると報告された。かくして、翌十六年五月、待望の富山県の独立が実現するのである。

分県ノ件審査スル左ノ如シ
石川縣下越中國ヲ割キ富山縣ヲ置クハ地勢ニ應シ人情ニ適シ大小宜キヲ得タルモノト認定ス
長崎縣下肥前國ヲ割キ佐賀縣ヲ置キ鹿兒島下日向國ヲ割キ宮崎縣ヲ置クハ是亦適宜ノ分割ト認定ス
右ニ由リ別紙報告案ノ通ニテ可然式上申儀也
明治十六年四月廿五日
参事院議長山縣有朋
太政大臣三條實美殿

参事院の上申書
富山県の分県を適当と認めた書類（一部省略）

富山県への うつりかわり



明・4・7・14(廃藩置県) 藩が県になる



明・2・6・17(版籍奉還) 富山藩（婦負郡の全部と新川郡の1部）がそのまま富山藩に、加賀藩がそのまま金沢藩になる



越中(4郡)と加賀・能登



明・16・5・9 富山県設置



明・9・4・18 石川県となる(同年8月敦賀県の廃止により、越前7郡も石川県に入ったが、14年2月福井県設置により分離)



明・5・9・29 七尾県が廃され、射水郡が新川県に入る



明・4・11・20 射水郡を七尾県に、新川・婦負・砺波郡で新川県設置

文明開化

つりランプ
5～6年ごろから、行灯(あんどん)に代って出現した石油ランプ



街灯
10年前後から、県下の主要町通りの辻に設置された、石油ランプ灯

明治44年の暦
5年、太陰暦を廃止して、太陽暦を採用。
新姿の商店が配布したもの



ちよんまげの洋風姿
頭はちよんまげ、和装、手に洋傘、履物は靴。明治初期の福光の男性



明治初期の洋装
福光町のハイカラ家庭の父子

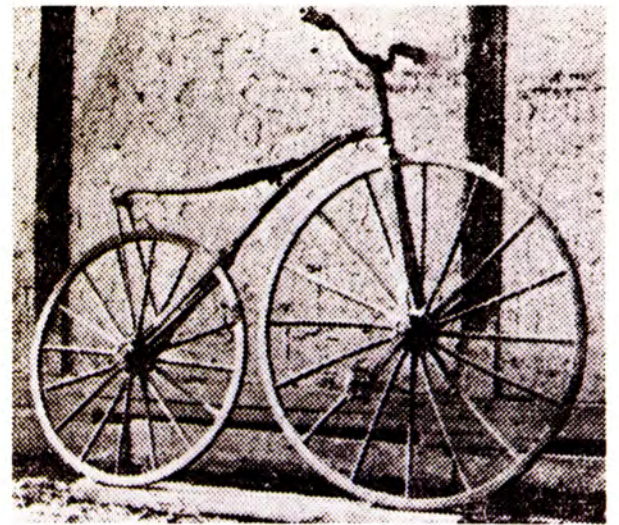
新しい文化の導入

明治維新を迎えて、政府が西洋文明をとり入れる方針をとったので、新しい社会風潮をもたらし、制度・経済・風俗などにわたって、文明開化の啓蒙が推進された。特に衣食住の洋風化が著しかった。

明治四年に散髪・脱刀令が出て、男子のちよんまげが散髪に変わっていった。「ザンギリ頭をたいてみれば、文明開化の音がする」という流行歌が出た。また、「牛肉を食べると角が生える」「石鹼を使うと魔法のために姿が消える」などの、迷信さえ伝えられた。

その後、本県でも新生活の奨励が進められたので、まず、学校・役所の洋館建、官吏・教員の詰襟着用、知識人家庭の洋風化がひろまった。洋食の普及はやや遅れたが、物好き・新しがりやが「すき焼」を試みて、肉の匂いをただよわせ、大衆の眉をひそめさせた。

かくて、当初は奇異と矛盾を感じたが、徐々に洋式文化の合理性が受け入れられて、東京・大阪などの文明開化が、年をおって地方の生活のなかに浸透していった。



明治前期の木輪自転車
初めて移入されたころのもの

人力車
4年に大阪で発明されたが、7～8年ごろから、県内の主な町に登場。官吏、医者などが利用



郵便制度初期のはさみ箱
この箱2個を天秤棒の前後につるして、郵便を運んだ。

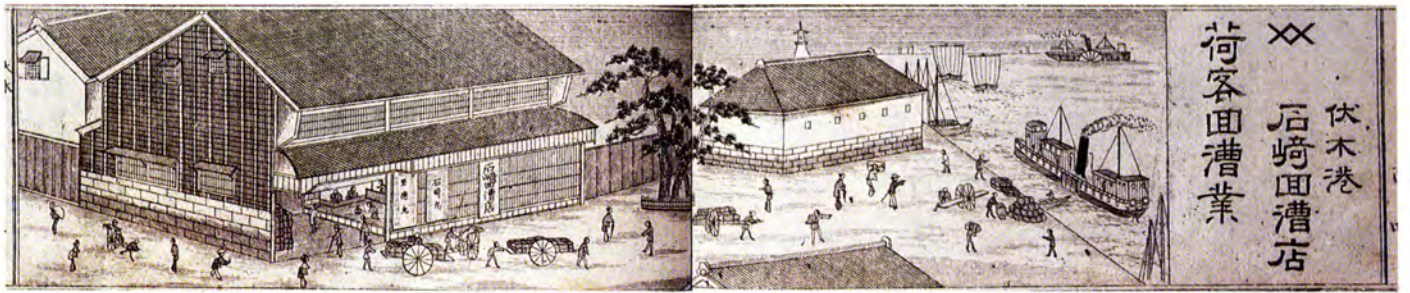


明治初期の1銭と1銭5厘の郵便はがき



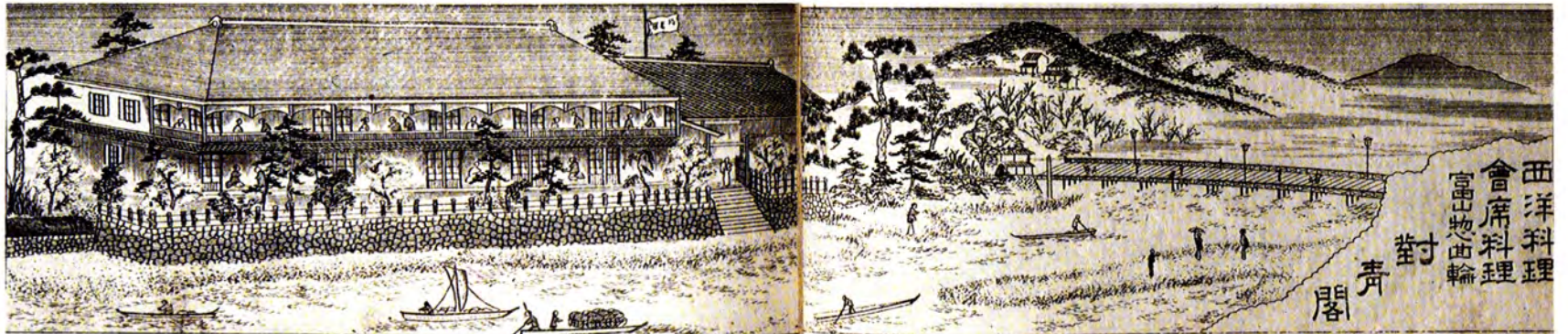
電信機 当初のころのモールス式印字機

明治初期の伏木港岸壁
 絵図の汽船は、石崎回漕店
 所有の「石崎丸」で、英国製



洋食の料理屋

明治初期神通川の畔に営業
 していた対青閣。西洋料理
 も出したので珍しがられた。
 建物も洋風2階建



明治の時計広告

最新流行の時計を手を持つ紳士の姿。
 和田文次郎編「砺波誌」所載

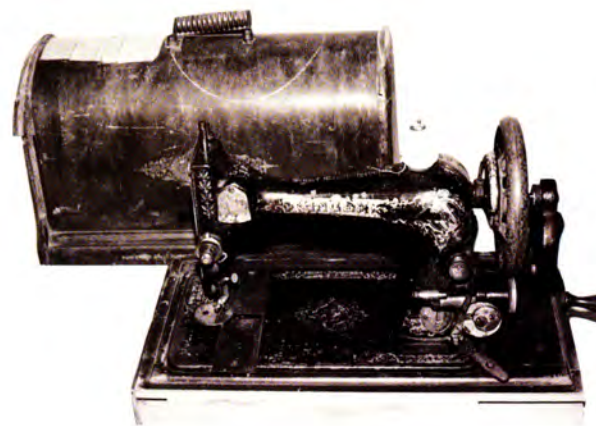
10年前後の神通川舟橋風景絵図

橋詰に客持ちの人力車、羅卒(巡査)の
 制服姿、そのほか新旧とりどりの文明
 開化風俗が見られる。



申義学校 (現 石動小学校)

8年に今石動町(現小矢部市)に建築
 された小学校舎。最新式洋館にする
 ため、請負大工はるる神戸へ出
 張。異人館などを見て調べてきたと
 いう。



手まわしミシン

わが国へ初めて渡来したのは明治元年。そのころ
 高岡で使用された、アメリカのシンガー社製品

2 富山県となつて

明治十六年五月〜二十八年

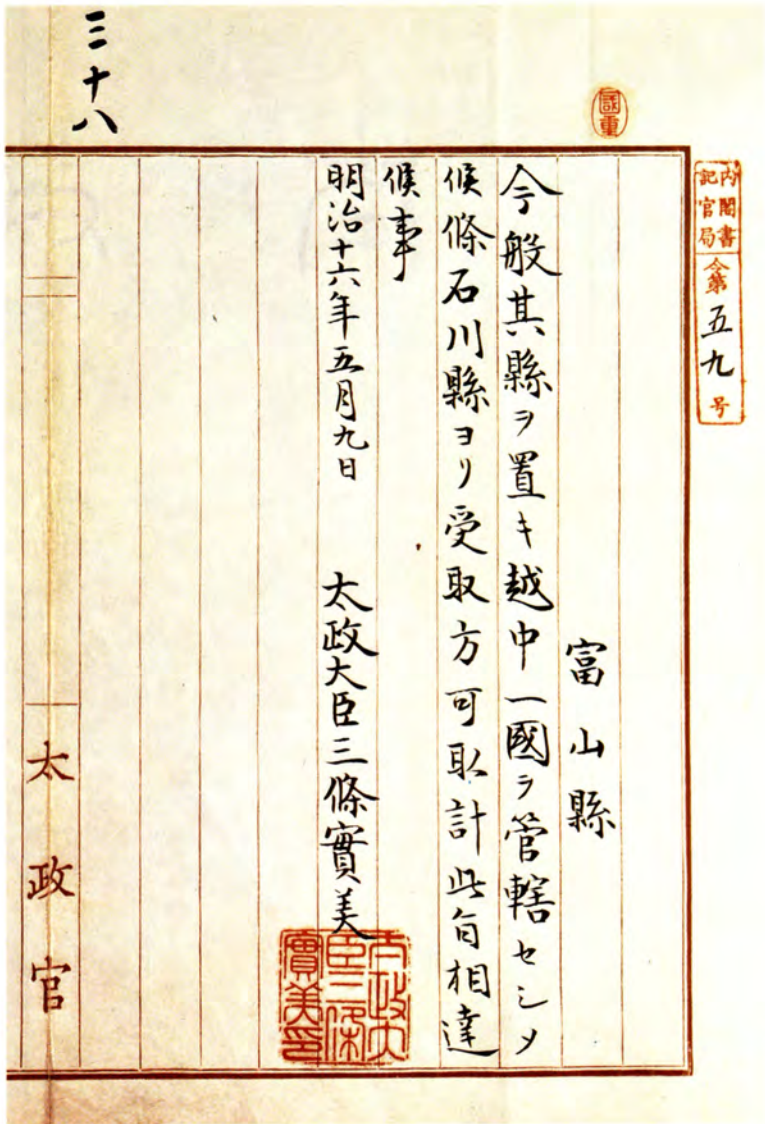


県印



富山県設置の詔書

富山県と同時に、佐賀・宮崎の両県も、新たに置かれることになった。太政大臣・左大臣・参議などが、ずらりと連署、押印している。



内閣書記官局 第五九号



県令印
(明治19年、県令を知事と改称)

太政大臣三条実美の通達書

富山県を置き、越中一国を管轄させることになったので、石川県から引継ぎを受けるよう通達された文書



置県当時の県庁舎

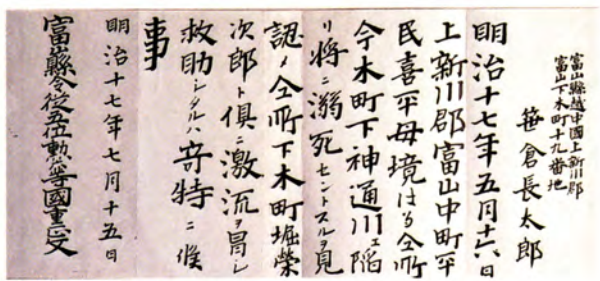
富山公園地(現富山城址公園)の旧藩邸を充てた。32年の大火で焼失し、翌年洋風2階建の新庁舎が完成した。

新しい県政のスタート

明治十六年五月九日、太政官布告第一五号を以て「富山県を置き、越中国一円を管轄し、県庁の位置を越中国上新川郡富山」と定められた。七月一日には盛大な開庁式があげられ、初代県令国重正文をはじめ、県内各層の代表者が集まって、新生富山県の発展を誓いあった。

「ある菓子屋が分県まんじゅうと名付けて売り出したところ、売れに売れた」と「朝野新聞」が報じているが、県民の喜びがよくあらわれている。

県庁機構は、庶務課など八課一掛に、警察本署、監獄本署、郡役所などがあった。明治政府の、旧習一洗と中央集権の方針から、幹部職員はほとんど中央官僚で占められ、県人の多くは史生、出仕などの地位にとどまった。当時の予算は三十七万円であった。また、県の戸数は、一四万一、八九四戸・人口は六八万一、五四九人であった。



国重県令の出した人命救助の感謝状



国重正文が書いた書額「有成」は、富山市堀川小学校の旧名



県会議事堂
20年、県庁と堀を隔てた現富山保健所のあたりに建てられ、玄関は南面していた。32年の大火で県庁舎と共に焼失



初代県令

国重正文

(一八四〇〜一九〇二)

長州藩閥の出身。同郷の先輩山田内務卿から激励されて、京都府大書記官から着任。四十四歳の働きざかり。二百十石ど

り国重三郎右衛門の長男で、藩校の明倫館で勉学したが、吉田松陰の松下村塾の影響も受ける。漢籍に通じ詩文をよくくし、半山と号した。分県運動に奔走した米沢紋三郎、入江直友らとも親しく交わり、新組織の県会ともよく協力し県政の基礎づくりに向った。

最も重点を置いたのは教育で、当時学制は発布されたとはいえず、就学率は極めて低かった。学校を熱心に巡回し、請われて校名を揮毫した書額は今も残っている。明治十八年には最初の中学校（現富山高校）をつくった。その他、常願寺川・庄川の改修、十九年のコレラ対策、富山大火のあと、二十年の瓦葺の奨励、防火用水の整備など、数々の業績をあげた。在任五年六ヶ月、官選知事で最も長い。内務省社寺局長に転じ、国学院院長から晩年は京都伏見稲荷宮司をつとめた。



県会議員の記念撮影
十八年四月、通常県会の時のもの

向かって右から

後列

前列

- | | |
|--------|-----------|
| 山崎善之丞 | 米澤紋三郎 |
| 坂井敬義 | 島崎良太郎 |
| 水野忠嗣 | 寶田安平 |
| 大橋十右衛門 | 重松覺平 |
| 廣岡万九郎 | 大書記官 前田利充 |
| 南 兵吉 | 警部長 大渡直清 |
| 南 兵吉 | 副議長 井城與八郎 |
| 武部 堅 | 五十嵐政雄 |
| 田村惟昌 | 菅野新作 |
| 菅原滋治 | 安念次左衛門 |
| 島田孝之 | |
| 大矢四郎兵衛 | |

初代議長と副議長

議長は、砺波郡選出。三清村(現井波町)の武部尚志。副議長は、射水郡選出。中川村(現高岡市)の南兵吉



武部尚志

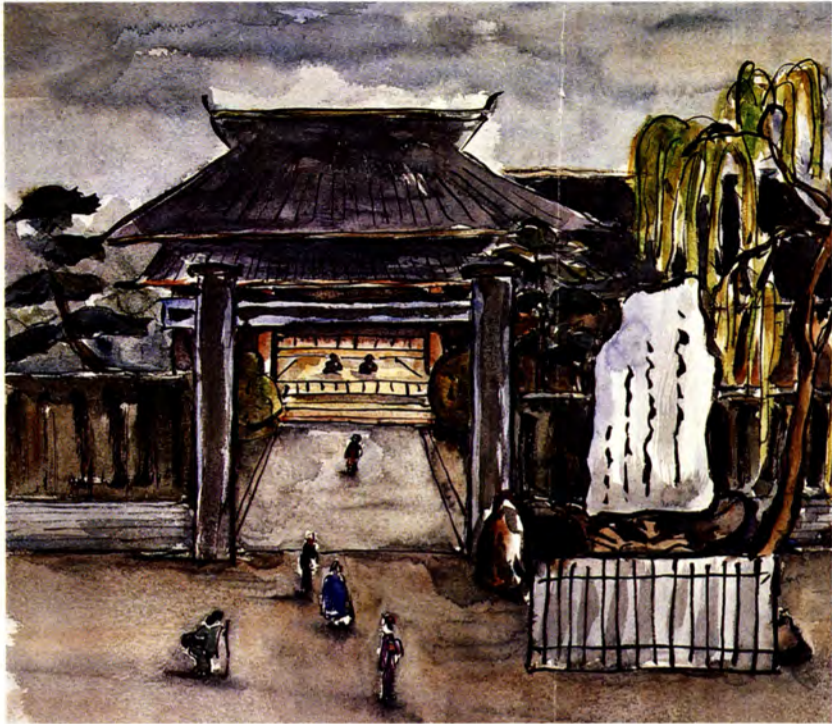


南 兵吉

初期県会のすざた

置県と共に明治十六年七月、直ちに県会議員の選挙が行われ、二十二名の議員が選ばれた。八月十七日、男子師範学校内で臨時県会、十月一日、真宗本願寺派説教場第二回通常県会が開会された。国重県令は「本県開庁以来既二九旬ヲヘテ、地方税イマタ定マラス。事業イマタ緒ニツカサレハ、日夜焦慮スルトコロナリ(中略)諸子反覆玩味、思ヒヲ実地ニメクラシ、議ヲ懇切ニ帰シ、地方経済ノヨロシキヲ得、管下人民ノ望ニ副ハンコトヲ」と告辞を述べた。しかし、議事不馴れのため問題外の議論が百出して、審議は必ずしも円滑にはかどらなかった。

一八八三	明治一六	富山県・石川県から分離独立○置県初の県会議員選挙実施○神通舟橋を木橋に改架○井波に北越書籍館、つづいて翌年砂子坂村(富山市水橋地区)に真理館開設(本県図書館の始)○私立伏木測候所開設
一八八四	明治一七	中越新聞発行○高岡に米商会所設立○砺波郡高窪越新道竣工
一八八五	明治一八	富山県中学校設立○稲垣示ら大阪事件に関与○富山大火○福光・金沢間の道路開通○米嶺糸共進会開催
一八八六	明治一九	コレラ大流行、死者一〇、七六四人
一八八七	明治二〇	県立伏木測候所設置○県会議事堂竣工○射水郡敷田村等にセメント工場創設○富山商工会議所落成
一八八八	明治二一	下関村に中越汽船会社創設○私立富山県教育会発会、富山県教育会雑誌(後富山教育と改題)を創刊
一八八九	明治二二	●大日本帝国憲法発布 市制町村制施行、二市三町二三八村となる○富山県報発行○高岡銀行設立○農事試験場設置○米人口一エル、越中・能登に旅行(のちノト著述) ○北陸公論発行
一八九〇	明治二三	●第一回帝国議会 ●第一回衆議院議員選挙
一八九一	明治二四	上市川河原で日本第二の白萩隕鉄発見(のち榎本武揚の所有に帰し、日本最初の隕鉄分析及び隕鉄刀鍛造) 大洪水。デ・レーケの建築により常願寺川大改修および常西合口用水工事着手
一八九二	明治二五	選挙干渉。北陸自由党壮士ら、改進黨支持者に暴行○農会の設置あいつぐ○河川改修工事により常願寺川と白岩川分離○仏人クレマン、富山で仮教会設立(本県カトリック教会の始)
一八九三	明治二六	高岡電灯紡績会社設立○常東合口用水の通水式○ウエストン針ノ木越えて立山登山(その紀行は二九年ロンドンで刊行、世界に立山を紹介)
一八九四	明治二七	●日清戦争 県立工芸学校、県立農学校、共立富山薬学校設立 ○北海道移民本格化○日清戦争に歩兵第七連隊出動○富山県農会設立



真宗お東(大谷派)別院 (富山市50年史絵巻から)



真宗お西(本願寺派)別院 (富山市50年史絵巻から)

富山消防組拡充

18年の大火を教訓に、富山消防組を1番組から6番組に区分し、龍吐水に替えてポンプを配置した。さらに、瓦葺屋根の奨励、防火用水の整備も、知事・市長のお声ガかりで強力に進められた。(富山市50年史絵巻から)



18年の富山大火
洪水も多かったが、火災も多かった。18年5月31日、鉦指町から出火し、6,400戸を焼失。死者9人を出した。(富山市50年史絵巻から)



真宗王国のエネルギー

富山は、浄土真宗の盛んなところ。明治のはじめ富山、川端町(現豊川町)に、いちはやくお西(本願寺派)の説教場ができ、お掛け所と呼ばれた。十二年には、拡張して総曲輪に移転。十三年には、同じ総曲輪にお東(大谷派)の説教場ができた。両場とも十八年五月の大火で焼失したので、再建の機会に別院に昇格する運動が起きた。昇格の条件とする敷地の整備には、お堀の埋め立てに県内各地から勤労奉仕に出た。浄財の寄進もあった。

かくて十九年にはお東、二十年にはお西の、別院昇格が決定。二十一年両派の本堂がりっぱに竣工した。以来両別院の門前町として総曲輪は発展を続け、今日の繁華街に成長した。



北辰雑誌
18年、島田孝之らが石動で発行



中越新聞
17年、富山で発行。改進黨系の新聞で、社長は富山の酒造家山野清平



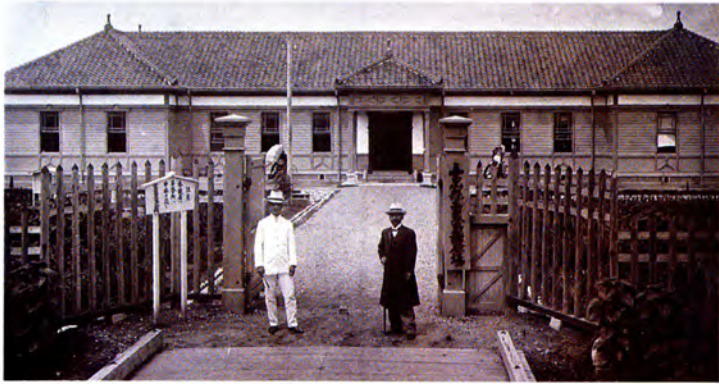
北陸公論
22年、富山日報に対抗して富山で発行された、自由党系新聞。社長は岩瀬の海運業馬場道久

たかまる自由民権運動

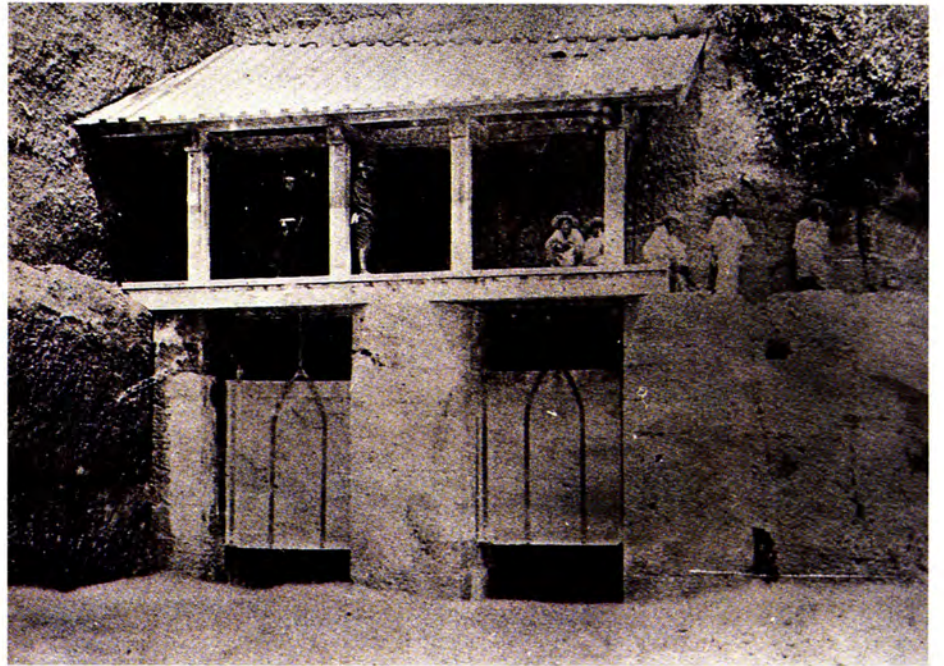
自由民権運動は次第にたかまりをみせ、北立自由党、越中改進黨らの活動に加えて、活発な言論の展開が拍車をかけた。ことに改進黨系の「中越新聞」(改題富山日報)と、自由党系の「北陸公論」(改題北陸政論・北陸政報・北陸日日)は、このことに対立した。

二十二年、憲法発布となり、二十三年には、第一回の衆議院議員選挙が行われた。県では、関野善次郎・磯部四郎(共に一区)、田村惟昌(二区)、南磯一郎(三区)、島田孝之(四区)の、五名の代議士が誕生した。

二十四年から五年にかけて、与野党の対立が激化し、官憲による選挙干渉も行われ、壮士の抜刀傷害事件や投票箱奪取事件をひき起こした。



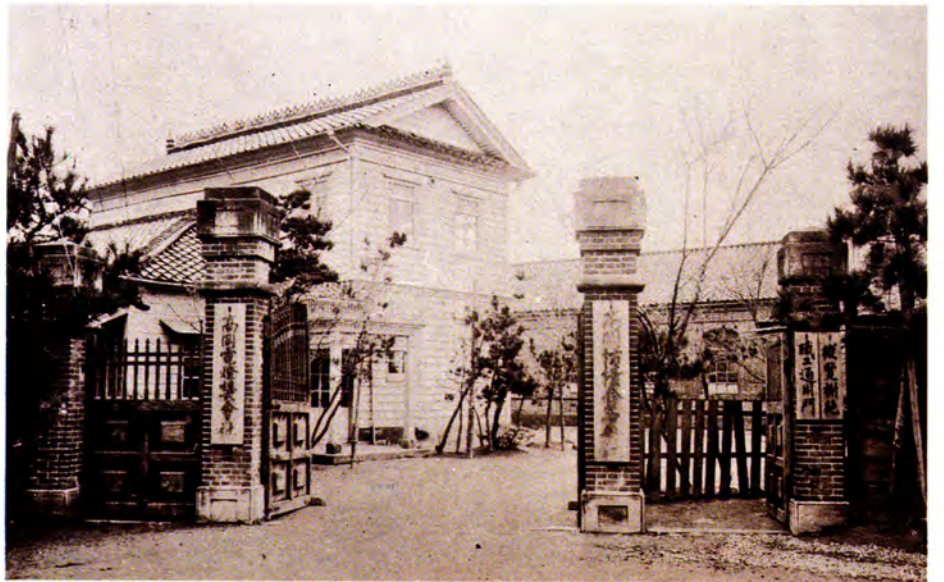
農事試験場(堀川村)
17年、奥田村(現富山市)に勸業育種場が設けられたが、22年に県農事試験場に発展。31年には福野の農学校へ。41年には堀川村(現富山市)へ移っている。



常西合口用水取入口
25年、大町上滝で完成。常願寺川からの取水口を一つにして、農業用水の効率的な配分を行った。



高岡米穀取引所
18年、高岡の通町に高岡米会所が創立され、北陸の米相場をリードした。のち高岡米穀取引所と改め御馬出町の角に移ったが、六角堂と呼ばれて親しまれた。



高岡紡績合名会社
26年、横田村(現高岡市)に赤レンガづくりの高岡紡績会社が出現。日本海沿岸での近代工場の先駆けだった。37年に、紡績合名会社となった。



十二銀行
富山市中町(現中央通り)。32年の大火で焼失後、防火を重視してしつこい造りの重厚な建物に改築された。

伏木測候所
16年、藤井能三らのつくった私立伏木測候所は、20年に県立に昇格して機能を充実した。



明治中期の伏木港
22年に特別輸出港に指定され、米麦などを輸出。汽船の出入りが頻繁になった。



産業の発展

産業の主役である農業は、米作中心のため、県の政策も米作改良に重点が置かれた。明治十七年には勸業育種場を創設し、二十二年、農事試験場に発展。新しい農業技術の研究と開発が進められた。二十七年には単位農会の連合体として県農会が設立された。また各郡に支部農事試験場が置かれた。

また、耕地整理法(三十二年)に先がけて、二十六年頃から耕地整理や用排水事業が行われた。

商業資本の集積層として目立つのは、売薬業者と地主層であった。富山の第百二十三国立銀行は、十七年に金沢の第十二国立銀行と合併し、第十二国立銀行の名を踏襲し、富山に本店、金沢に支店を置いた。

工業の成長はまだ緩慢で、機械製糸は福光などで行われたものの、一部にすぎなかった。新川木綿・戸出縞・福野縞なども、家内工業の域を出なかった。二十六年、高岡紡績合名会社が設立され、近代工場の先駆的なものだった。



高岡市役所
大正2年、片原横町に竣工の庁舎



富山市役所
市制施行と共に、庁舎は取りあえず総曲輪の商法会議所に置いたが、25年、総曲輪大手前に庁舎を新築した。



福光町役場 栄町にあった。

市町村数の変せん

年月日	市	町	村	計	摘要
明治22・3・31	—	190	2,454	2,644	市制町村制施行直前
明治22・4・1	2	31	238	271	市制町村制施行
昭和10・4・1	2	33	228	263	市域の拡張による合併等
昭和15・12・1	2	31	205	238	紀元2,600年記念合併等
昭和22・5・3	2	29	183	214	地方自治法施行
昭和28・10・1	5	28	118	151	町村合併促進法施行
昭和34・4・1	8	24	10	42	町村合併推進
昭和57・4・1	9	18	8	35	

市町村の誕生
明治二十二年四月、市制町村制が施行され、地方自治制度の基礎が確立された。県内では、新しく二七一の市町村が誕生。全国で市は僅か三一。その中で富山県が、富山・高岡と二つの市を持ったことは誇っていい。



宮崎村役場（現 朝日町）村制充足のころの役場



明治後期の町役場風景
吏員は、はかまを着け、洋服はまだ見られない。書類は毛筆書きで候文。冬には、また火鉢で暖をとった。



知事の工事現場視察 25年、森山茂知事の、常願寺川築堤工事、現場視察

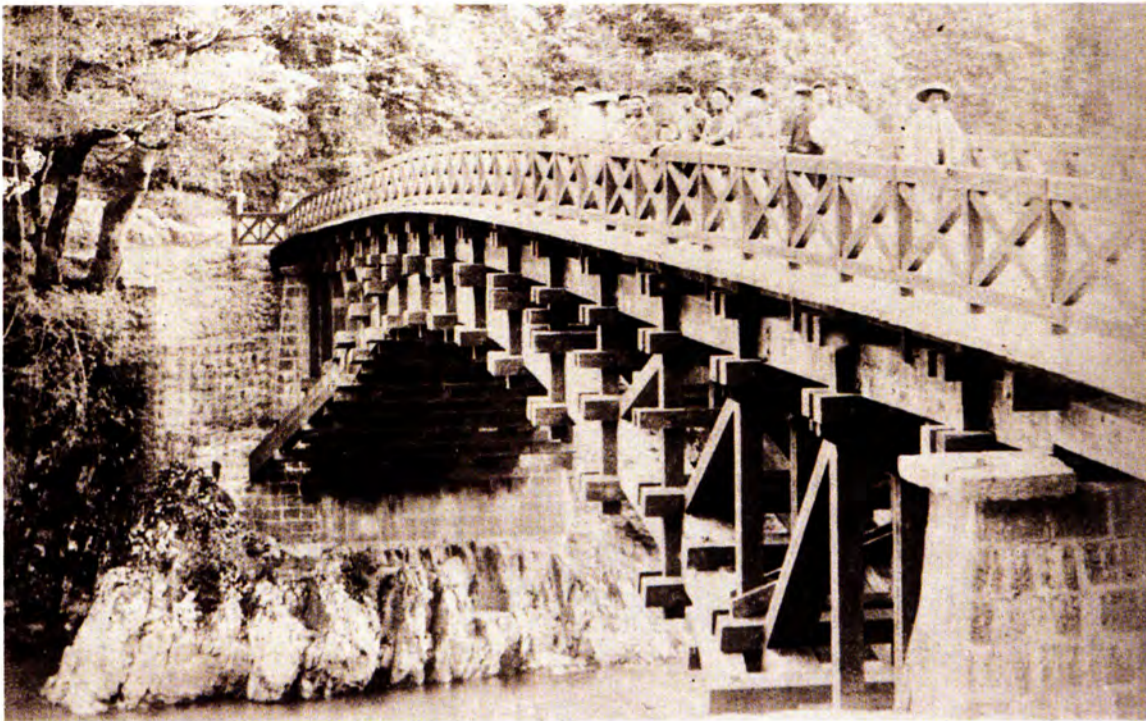


常願寺川の河川改修工事(25年)
綱とモッコ、さながら人海戦術である。



デ・レーケ
土木工学の権威。オランダ人技師。淀川、木曾川の改修や、大阪築港にもかかわった。

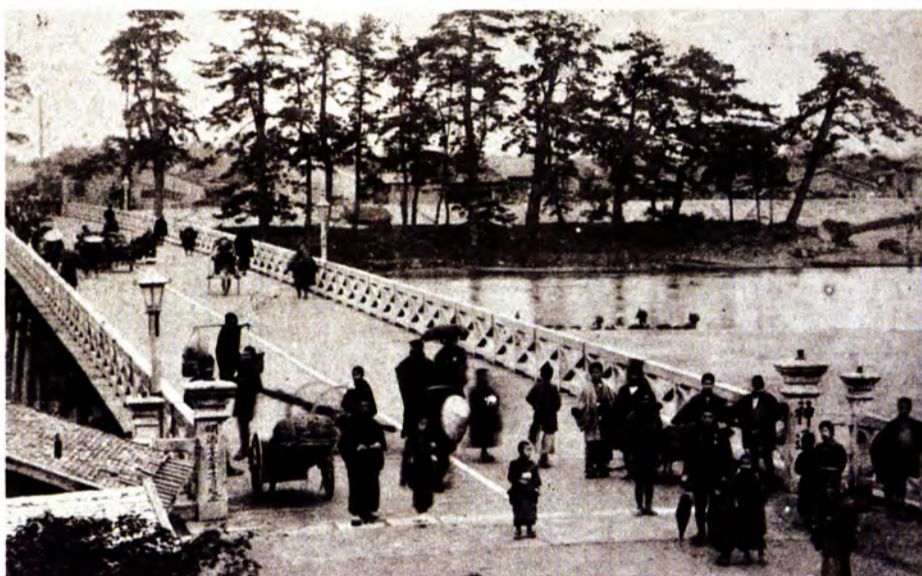
デ・レーケと治水策
大河川を擁する本県では、治水対策こそ県政の最重点事項だった。特に常願寺川は名うての暴れ川で、県は明治二十四年七月の大出水のあと、内務省お雇い外人技師、ヨハネス・デ・レーケを招き、その計画をもとに、第一次の改修工事に着手。この時デ・レーケは「これは川ではない。まるで滝だ！」と驚いたという。工事は、上流から下流を改修し、河口は白岩川と分離して土砂の停滞を防ぐもので、工費は一〇五万円。三カ年計画で、二十六年に完了した。



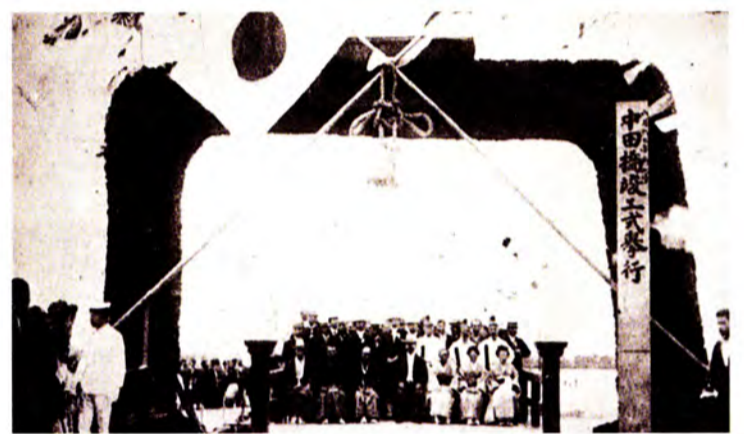
愛本橋のかけかえ 日本三奇橋のひとつとして有名。ハネ橋ガかけかえられ、装いを新たにした。

架橋と賃取橋 ちんとりばし

治水工事にあわせて、橋梁の新設も進められた。十六年一月、神通川の舟橋が木橋の神通橋にかけかえられたのをはじめ、同じ一月には庄川の伏木橋、十九年十月には同じ庄川の中田橋、二十年一月には黒部川の桜井橋、二十四年九月には黒部川愛本橋のかけかえ、二十五年六月には神通川の有沢橋、二十六年二月には常願寺川の常願寺橋、同年十二月には片貝川の片貝橋などが竣工した。架橋については、県予算を一挙に獲得することが困難なため、民間資金による賃取橋が多かった。当然、橋銭を取って通らせたのである。



舟橋が木橋になった 神通橋
越の舟橋として、諸国名所図絵にも描かれた舟橋は、16年1月、木橋になった。これで舟橋向いといわれた地区と富山町の連絡は、至極便利になった。27年にはふたたびかけかえられた。28年かけかえ直後の風景。ガス灯がともり、人や車の往来も頻繁である。



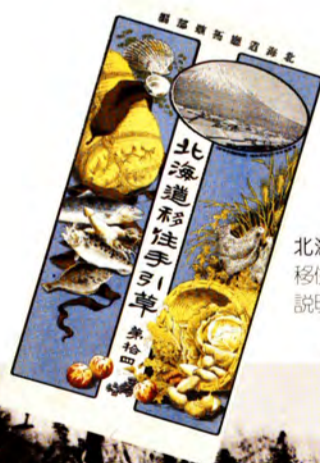
中田橋竣工式
砺波平野から、庄東地区、射水南部へ、さらに富山へ通ずる動脈となる重要な橋だった。



早月橋
22年、早月加積村(現 滑川市)と、下中島村(現 魚津市)の間の早月川に、新しくかけられた。37年にかけられた時のもの

活発な北海道移住

北海道との交流は昔も今も極めて頻繁である。明治初年からは本願寺の奨励運動もあって、新天地を求めて移住する者が多かった。二十年代後半からは特に増加し、三十五年から四十四年にかけては、送出県としては全国第一位を占めた。主な入植地は、石狩・十勝・旭川など。集団移民では、砺波団体・五位団体・江波団体・氷見団体・越中団体などがあった。新天地に活躍する越中衆の開拓精神は、北海道の発展に大きく貢献した。



北海道移住手引草
移住の奨励と手続きを説明したパンフレット

困難をきわめた北海道開拓風景



日清戦争・黄海大海戦の12周年記念絵はがき
27年8月、清国と戦端が開かれた。郷土の兵士たちも参戦。海に陸に尊い血を流し、164名の戦死者を出した。

教育の百年



幼稚園 明治20年師範学校の附属幼稚園として設置。35年の教室



明治期の小学校教室 教師となるために小学校で授業実習する、師範学校生徒

ば舟楫便ならず。
以上の諸川は時々洪水をな
し、俄に堤防を破損し、田圃を
流没すること多ければ、之が
爲めに毎年數十萬の金額を
費すことあり。殊に常願寺川
は安政五年(明治二十六年)に
前の震災以來河身の方屢
變り、毎歲沿村の損害甚しき
を以て明治二十五年一大工

他の諸川は平時水
少く、且つ急流なれ

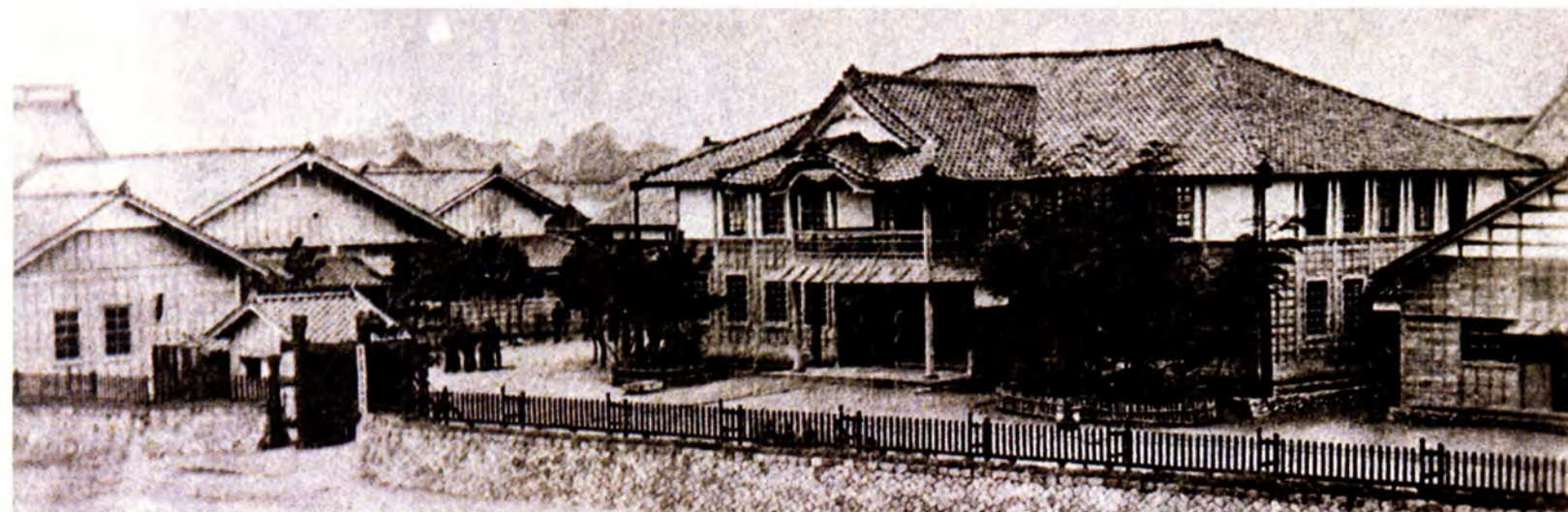
常願寺川大工工事



明治中期の郷土の教科書
常願寺川の氾濫と工事のことが書いてある「越中新地誌」



伏木小学校
明治6年、大成小学校は本県最初の小学校として創立。
8年、伏木の一宮に新築された校舎



富山県中学校 明治18年創立。置泉後、中学校設置の要望に応え、総曲輪に第1号として開校。のちの富山中学、現 富山高校



運動会のアレイ体操
腕力と平行感覚を養うリスム体操
(高岡市川原小学校 明治40年)

教育こそ繁栄の道

明治十六年、義務教育の就学率は男子七〇パーセント、女子三六パーセントという状態であった。特別教授の実施や、町村長・教員・警察官の就学督促、学用品の給与などの、積極的な督励により、三十五年には男子九八パーセント、女子九四パーセントと飛躍した。十八年に富山県中学校が設立され、その後、高岡・魚津・砺波に中学校を開校した。

三十四年に県立富山高等女学校、続いて高岡・魚津高等女学校が設立された。

各地域の伝統産業を背景として、二十七年に共立富山薬学校、高岡に工芸学校、福野に簡易農学校。大正十三年に高岡高等商業学校が設立された。

大正初期から新しい教育を推進するため、米国の新教育ダルトンプランの創始者、ヘレン・パーカスト女史を招いて、個人別学習計画を研究実践して、教授法に新風を吹きこんだ。



県立富山高等女学校

明治34年に設立された県立富山高等女学校は、本県最初の女学校。40年には、高岡にも設立された。



県立福野農学校

農業の経営を学び、農業技術を身につける目的から、明治27年、簡易農学校として発足。42年の本校舎



県立高岡工芸学校

高岡の伝統産業を背景に設立。幾多の優秀な美術工芸家を育てあげた。



師範学校

明治6年、新川県小学校教員講習所に始まる。38年、富山市西田地方に移った時の校舎

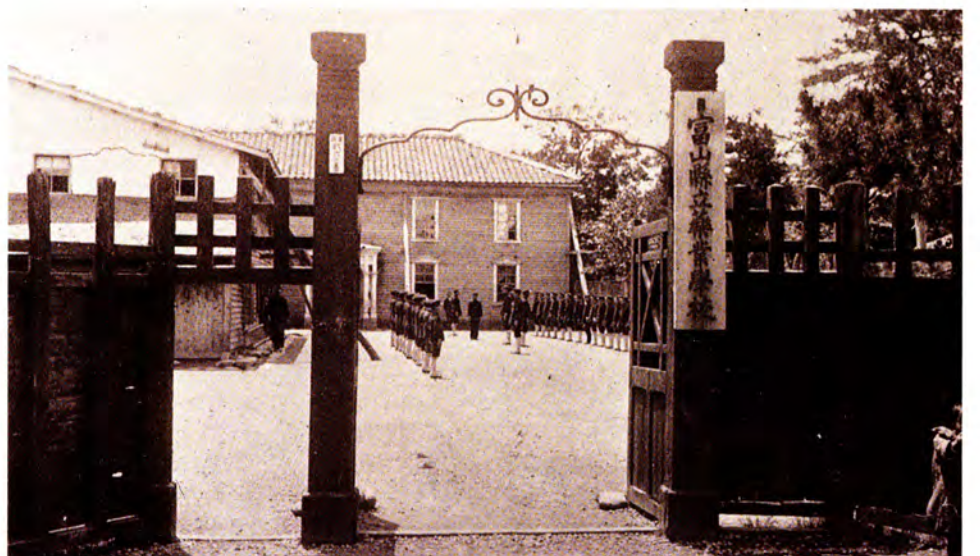


米沢図書館

明治43年、入善町の米沢元健が私財約1万円を投じて図書館を設立

県立薬業学校

製薬の伝統を基礎にして、明治27年、私立共立薬学校が設置された。30年、市立富山薬学校、40年、県立富山薬業学校となった。



大正の新教授法

ヘレン・パークスト女史を講師として、児童の自由・自治・創造を重視し、児童中心の新教育講習会を開いた。



二宮金次郎像

昭和初期、校庭に銅像を建て、報徳教育の手本とした。

旧制富山高校

大正12年、篤志家馬場はるの私財寄付によって設立



報徳教育から生涯学習へ

昭和初期の不況を打開するために、県では報徳教育を奨め、成果をあげた。

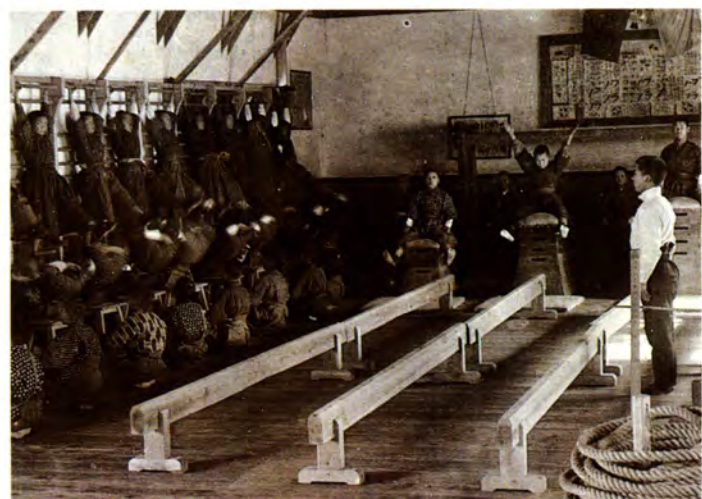
十四年、勤労青少年を育成する青年学校は義務制となり、軍事教練を重視した。十六年、小学校は国民学校となる。

戦後いち早く「六・三制教育」が制定され、個性と創造力の伸長をめざす民主主義教育が発足した。

二十三年、旧制中学・女学校が新制高校となる。二十四年、富山大学が開学した。

その後、国立工業高専・国立商船高専・県立技術短大や富山女子短大、洗足学園魚津短大などが開校。五十年、富山医科薬科大学が開学された。なお、高岡市に国立短大の開学準備がすすめられている。

県民の学習意欲にこたえ、四十九年、県民大学校を開校し、さらに市町村でも、多くの市民大学、町民講座などが行われている。



体育施設

第1次世界大戦後、体育が重視され、施設の充実が図られた。



訓盲院

篤志家並木文右衛門によって、富山市に開設。昭和7年県に移管されて、県立盲学校となる。



国民学校

時局の要請で、小学校は国民学校に改められた。富山市岩瀬国民学校



伏木託児所

大正15年婦女会が資金を調達し、放置されがちな、乳幼児の養護にあたった。



県民大学校
昭和49年、第1回の県民大学校を開校してから、年を追って学習意欲が
もりあがっている。



富山大学
昭和24年、文理学部・教育学部・薬学部・工学部からなる総合大学として発足

富山医科薬科大学
昭和50年、医学・薬学、特に、和漢薬研究をとり入れたユニークな大学として発足。呉羽丘陵に建つ白亜の殿堂



富山女子短期大学
昭和38年創立。新時代の知識と技術を身につける学生たち



洗足学園魚津短期大学
昭和55年創立。充実した音楽施設
を持ち、社会人にも講座を開放



県立大谷技術短期大学 昭和37年、産業と学術の有機的結合を理念として創立



県立図書館
市町村立図書館への貸出しや、資料提供など、図書館活動の中核である。



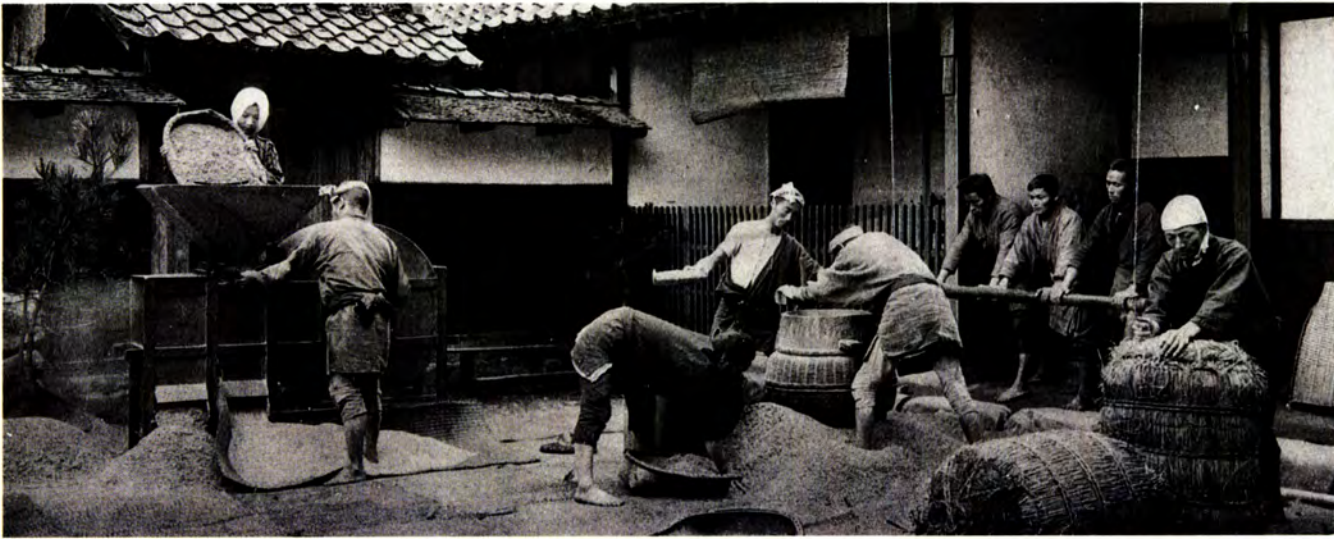
呉羽少年自然の家の野外活動
集団活動の規律のもとに、大自然のなかで
はねまわる子どもたち



各種学校
職業や実生活に直結する。

3 近代化へのあゆみ

明治二十九年～四十五年



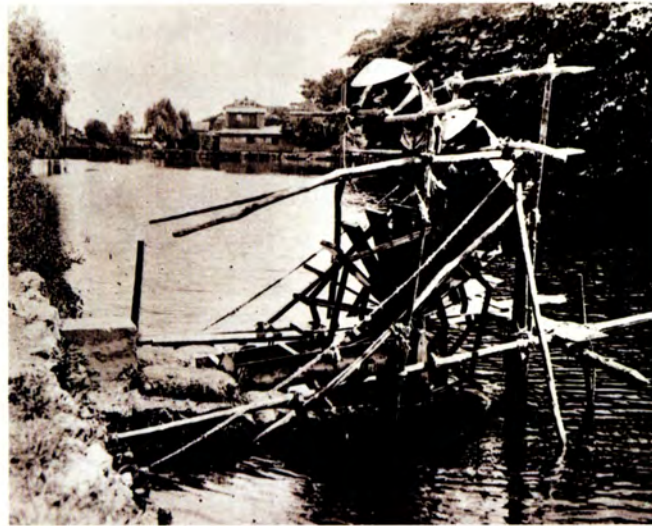
農家庭先のもみすり作業
明治末期の保内村（現 八尾町）



製茶作業にはげむ人びと
殖産興業の一環として、生糸と
並んで茶の生産が奨励された。
古沢村（現 富山市）の製茶場



進む、耕地整理事業
35年、横田村（現 高岡市）。
県下でも実施が早かった。



堀水の利用
明治の末期、高岡古城公園の堀水
を、灌漑用水のために水車で汲み
上げていた。



明治の農耕着姿

農業の改良

日清戦争後、富山県の近代化が進んだ。なかごろから、耕地整理事業の実施、用水路の改修、湿田の乾田化など、農地の改良が図られた。また、稲の品種の改良のため、農業試験場の研究や、篤農家による適応品種の育成が行われた。

さらに、肥料も北海道からの魚肥が使用され、生産は向上した。

北海道へは、米を始め、わら・むしろ・たわら・縄などのわら製品の取引も多かった。

このほか、明治年間には、在来産業の醸造も栄えた。工業生産額も伸びて、繊維製品、売薬に次いで、清酒・しょうゆなどの醸造業は、第三位を占めた。



醸造業の賑わい 富山市鍛冶町 島兄弟商会



郡有林の植樹
明治後期。黒瀬谷村須原（現
大沢野田）で植林する風景



牛の放牧場
明治後期。卯花村（現 八尾町）
の山間の原野に牛を放つて、
畜産が盛んだった。



蚕種製造
明治後期。技術員の指導を受ける
八尾町の、農家の人たち



養蚕作業
明治後期。卯花村（現 八尾町）で、蚕
に桑を与えて、繭作りにはげむ人びと

魚津の鯛網
明治後期の風景。魚津一帯の海浜は、古来、鯛の漁獲が
多いので名高い。毎年、5～6月ごろ、漁師の家族の男
女総出で、網を曳いた。



- 一九〇九 明治四二 皇太子行啓○本県最初の市立図書館富山市立図書館開設○富山県、越中史料全五冊、下新川・婦負・射水・氷見・西砺波各郡、富山・高岡各市も郡市史誌刊○俳人河東碧梧桐来県、その紀行文は統三千里に収録○民俗学者柳田国男来県、その紀行文は秋風帖・北国紀行に収録
- 一九〇八 明治四一 上野八郎右衛門発明の大敷網普及○県売薬同業組合設立
- 一九〇七 明治四〇 富山に歩兵第三旅団司令部、歩兵第六九連隊新設○柴崎測量官一行剣岳初登頂に成功、頂上で古代の錫杖発見○私立富山訓盲院開設
- 一九〇六 明治三九 県内初の電話、富山市で開通
- 一九〇五 明治三八 富山に歩兵第三旅団司令部、歩兵第六九連隊新設○柴崎測量官一行剣岳初登頂に成功、頂上で古代の錫杖発見○私立富山訓盲院開設
- 一九〇四 明治三七 梅ヶ谷（二代）横綱となる○司法省富山監獄設置
- 一九〇三 明治三六 ●日露戦争 日露戦争に第九師団出動、旅順攻撃に死闘○新湊の汽船奈呉浦丸、ロシア軍艦の砲撃を受けて沈没○米穀検査取締規則制定○高岡電灯会社、電灯架設
- 一九〇二 明治三五 神通川流路変更工事着工○富山県高等女学校設立
- 一九〇一 明治三四 北海道移住民規程制定○富山県織物模範工場設立
- 一九〇〇 明治三三 西二府十五県連合共進会開催
- 一八九九 明治三二 敦賀・金沢間の北陸鉄道（北陸線）富山まで開通○伏木港開港場に指定○最初の水力発電所（大久保発電所）操業開始○富山大火
- 一八九七 明治三〇 中越鉄道、黒田（高岡）城端間開通○富山電灯会社設立
- 一八九六 明治二九 郡制実施。下新川・中新川・上新川・婦負・射水・氷見・東砺波・西砺波の八郡となる○神通川・庄川大洪水、浸水家屋一万余戸○大日本武徳会富山支部創設○日本俳句・越友会結成

●大逆事件
太刀山横綱となる



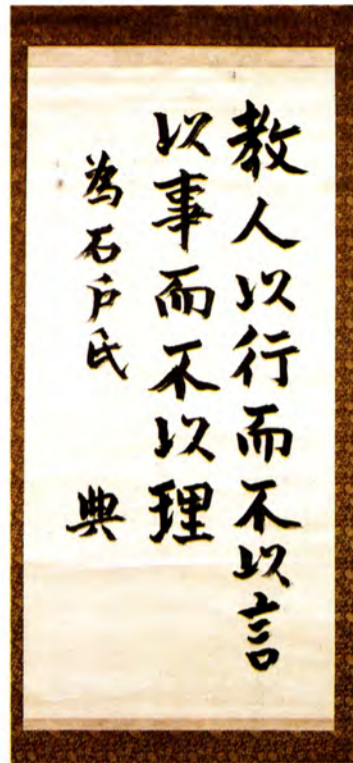
安田財閥を築いた

安田善次郎

(一八三八〜一九二二)

明治九年、第三国立銀行を創立して銀行界に進出。十三年、安田銀行（現富士銀行）を創業。以来、地方の国立銀行の併合につとめた。同年、日本最初の保険会社を創立。同郷人浅野総一郎らと、汽船・セメントなどの事業を興し、鶴見、川崎の海岸埋立て・大阪築港・鉄道建設事業を推進した。さらに満州・台湾に進出して、製鉄・製糖工場を建設。このほか、横浜正金銀行・日本銀行・台湾銀行の創立委員、日銀理事などに就任。四五年に設立した保善社を中核として、安田財閥を一代で築きあげた。

晩年、日比谷公会堂・東大安田講堂を寄付。大正十年、暴漢の凶刃に倒れた。



乃木希典大将の直筆
戦没者の遺家族を弔問するため、来
県した乃木大将は、親交のあった、
八尾町石戸長太郎宅を訪れ、その後、
この書を贈った。



日露戦争の凱旋門
中田(現 高岡市)の入口
に立てられた竹組みの門



凱旋記念の朱塗の木盃
日露戦争に従軍した、兵士の
記念の盃

日露戦争

明治三十七年二月、日本とロシアが戦争を開始。満州で激戦を展開して大勝。第九師団も出征。県出身の将兵は、第三軍司令官乃木將軍のもとに旅順攻略戦などに参加したが、多くの死傷者を出した。翌三十八年九月、条約を調印して終結。なお、県民は有史以来の困難に直面したが、よく銃後の守りを全うした。



魚津港の北前船
藩政のころ、北海道・江戸・大阪などへ、交易船として活躍したが、
明治になっても運航が続いた。不造帆船で、通称、并才船とも呼ばれた。



桜馬場
高岡駅前から古城公園へ通ずる道路。戦前までは、春4月、桜花らんまんのころ、
多数の花見客で賑わった。



中越銀行本店
28年、出町(現 砺波市)に開業。このころ県下に銀行が多く設置された。

農工銀行
31年、富山市山王町に設立。1県1カ所に限って認められた特殊銀行。農村の殖産興業を目的とした。



婦負郡生糸同業組合共同揚げ返え場
明治末期 八尾町

明治後期の製糸工場
繭から糸口をみつけて、糸巻に生糸を巻きとる。枠は、水車か蒸気の動力によって回転。八尾町



伸びゆく産業経済

殖産興業は軌道に乗り、本県の産業経済は伸長した。明治中期以後、在来産業の製糸・織物などの繊維産業を中心に、軽工業が発達した。城端・井波・上市などの絹織物工場、富山の織物模範工場など、あるいは、福野・戸出の木綿縞、新川木綿などの工場においては、力織機を用いて近代化が進んだ。城端・井波では、輸出羽二重の製織に努めた。また、富山売薬業も会社・工場組織が進み、製法の機械化が図られた。

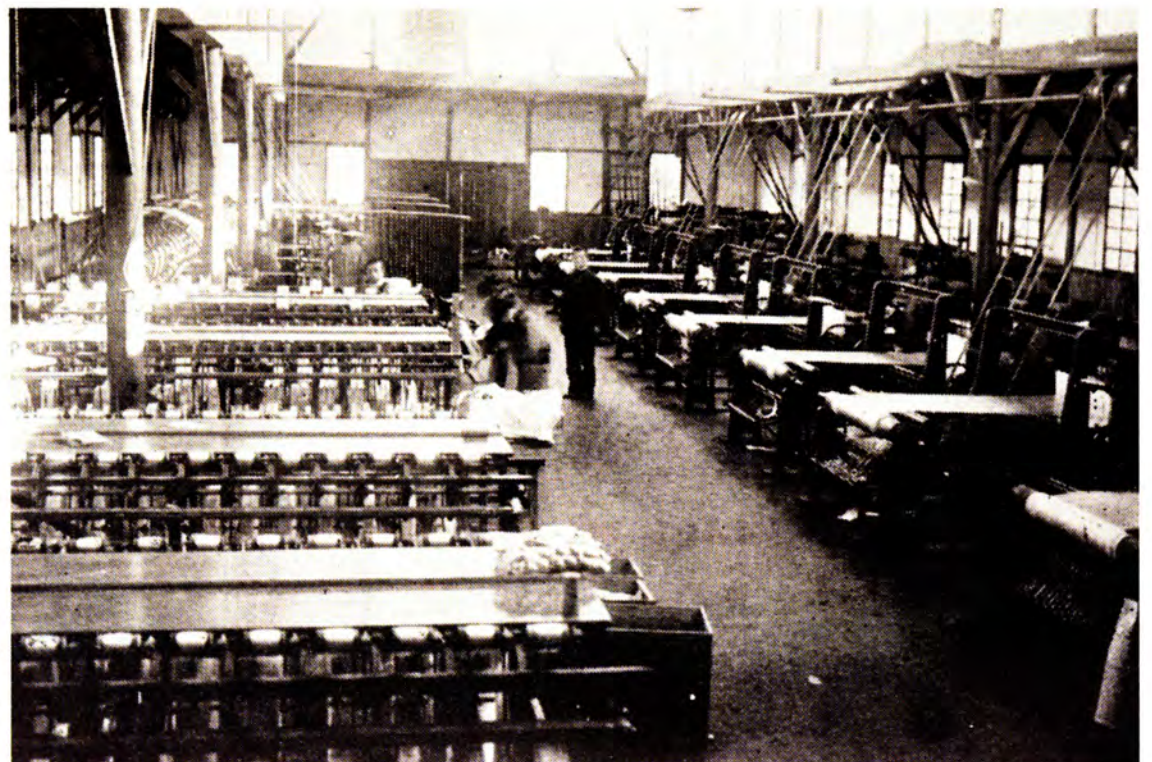
日清・日露両戦争後、わが国の国際関係は高まり、本県から朝鮮・満州・中国・ハワイ・メキシコなどへ、売薬・繊維製品・水産加工品などの海外輸出が伸びた。

さらに、諸工業の発展に伴って企業ブームが起こり、会社・工場の創設が多く、さらに銀行など金融機関の数が増加した。しかし零細経営のため、廃業したものもあった。また、富山・高岡などに、商業会議所が設立された。

なお、本県の会社数(銀行を除く)は、三十年には七三社、四十年には二三五社を数えるに至った。



「日本之下層社会」を書いた
横山源之助 (1871~1915)
魚津市出身。29年の「毎日新聞」紙上に、本県の下層社会の人びとの、資本主義と近代化の日陰に生きる姿を、20数回にわたり報道。32年出版



富山県織物模範工場
35年、堀川村(現 富山市)に設立。力織機で輸出羽二重を製織した。従来の平羽二重から、ジョーゼットの生産に重点が移り、機械化が進んでいた。



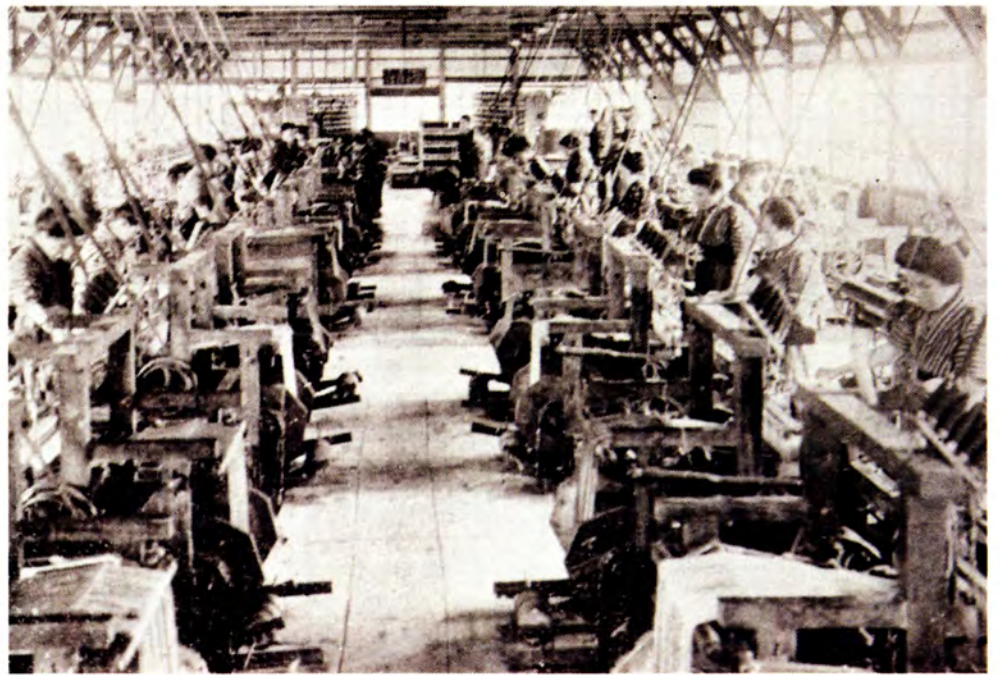
高岡商業会議所 29年、源平板屋町に創立。商業地にふさわしい、モダンな建物であった。



東宮殿下行啓記念絵葉書
42年9月、東宮殿下(皇太子時代の東宮)が本県に行啓。県下の教育・文化・産業などの実情をご覧になった。



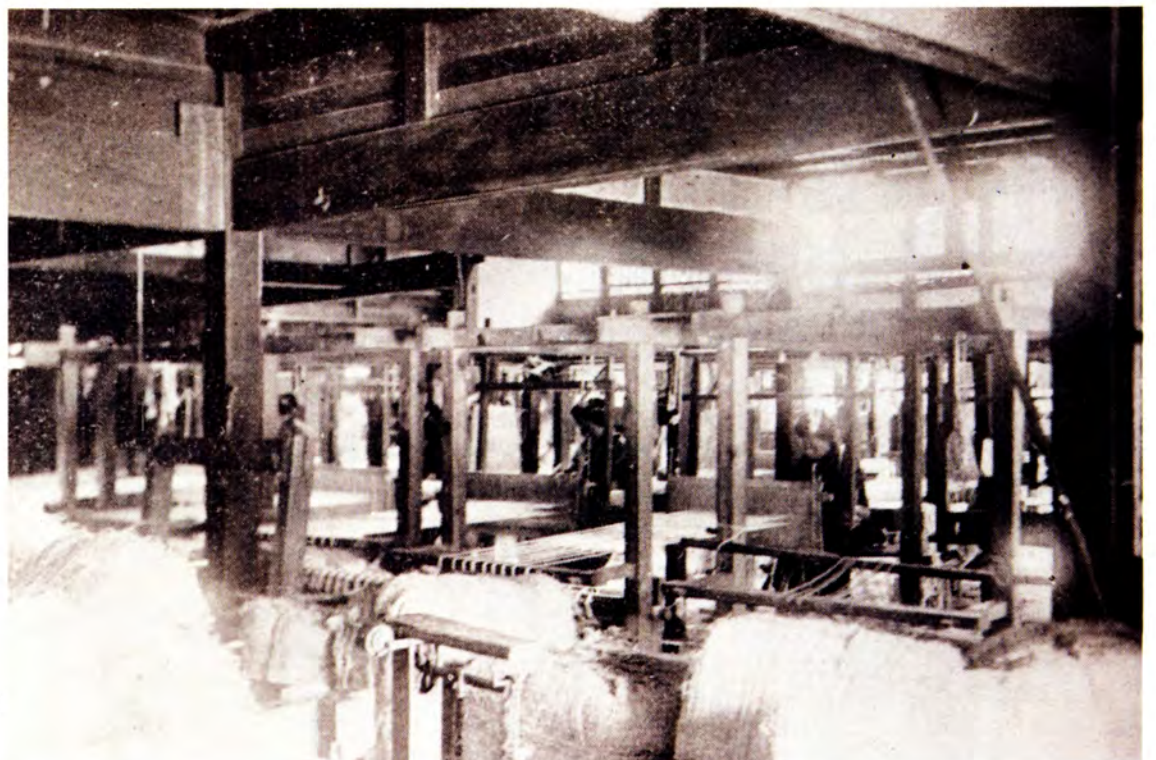
高岡の鋳物工場
明治末期、鉄瓶・鍋・火鉢などを製造。
高岡市金屋町の喜多万右衛門の工場



戸出物産株式会社
29年創立。天井の1本のシャフトとベルトにより運転される、新しい力織機を導入。綿織物「戸出織」を生産。42年当時の工場内



高峰謙吉 (1852~1922)
世界的化学者。高岡市の生まれ。アメリカで
人造肥料・醸造法を研究し、「タカジアスター
ゼ」を発明。日米親善に尽した。



新川織物株式会社
30年ごろ、三日市町(現 黒部市)に
創立。新川木綿を製織していたが、
38年に「経木マット」の製作に転換

新天地を求めて海外に雄飛

海外移住として、ハワイには早くから出かけた。三十二年に七三人。また、三十五年には四六人が契約移民として渡航。ブラジルには、四十三年に三家族が移住した。なお、中国にも早く移住した。三十九年度には、メキシコへ初めて、男子一一人の大量移民が渡り、石炭の採掘に従事した。そのこ、アメリカのカリフォルニア州・ペルー・ブラジル・オーストラリアなどへも移住。昭和に入ってから、とくにブラジルへの移住が増加した。

県出身者たちは、県民性の特徴である、勤勉と粘り強さを大いに発揮。開拓の困難にうちかった。今日では、コーヒー・果樹・花卉の栽培をはじめ、多方面に活躍している。



第1回ブラジル移住記念
富山県 移住協会主催で、第1回ブラジル移住者の会合を開いた時の記念撮影

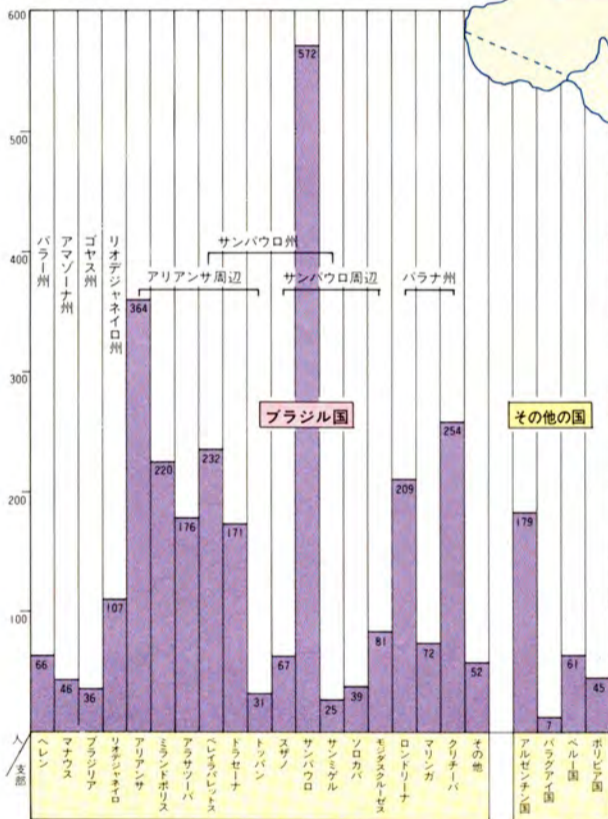
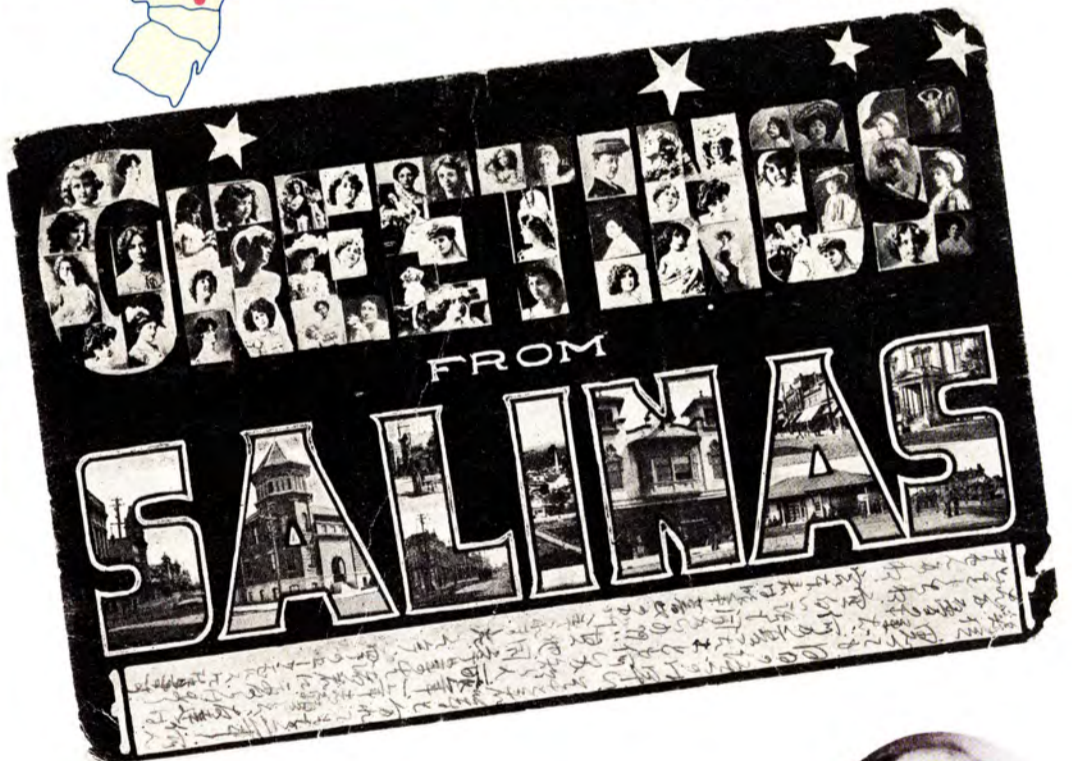
ブラジルなどの富山県人分布図

43年、本県から3家族10名が、サンパウロに渡航。最初の入植だった。以来、昭和57年2月までに、2,820人が、図の各州に入植し、開拓精神を發揮した。

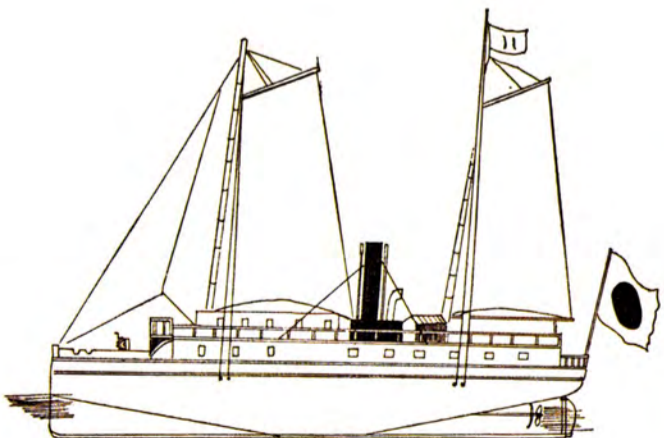


北米移民から来た絵葉書

41年1月25日付、アメリカ合衆国カリフォルニア州の西部サリナス町の農園で働いていた県人移住者からの通信



昭和57年2月現在 ブラジル計 2,820人
その他 計 292人 総計 3,112人



北陸通船会社汽船「至徳丸」
14年、藤井能三らによって県下初の汽船会社が誕生。秋津丸・至徳丸の2隻の木造汽船を所有。越後・能登方面との貨客定期汽船として運航した。

其方儀誠國財水郡新漆
諸船更出便利為燈明臺
ヲ建築且時其費金又難
シ其他道路修築等盡力候
段高特儀ニ被思召羽二重
壹匹下賜候事
明治二十二年十月五日
岩倉右大臣

岩倉右大臣からの感謝状
11年、藤井能三は、多年にわたる功績により、表彰を受けた。



藤井能三 (1846~1913)

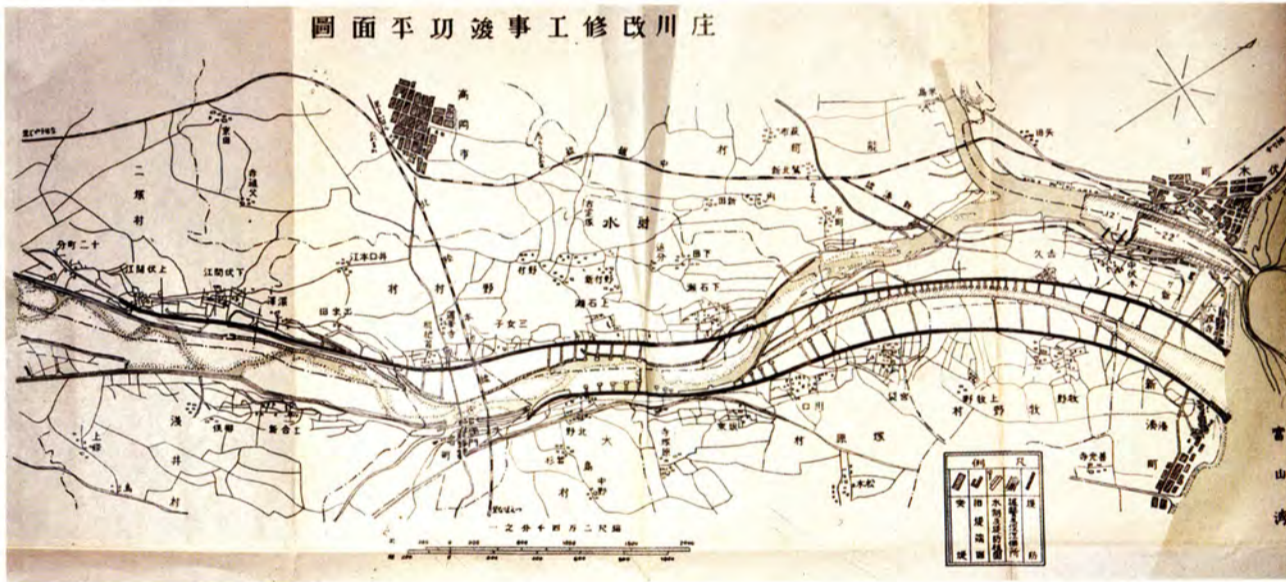
伏木の回船問屋「能登屋」の長男。伏木海岸の波除御普請方などの御用を勤めた。明治4年、金沢為替会社の頭取。6年に県下最初の小学校を伏木に設立。8年に北陸第1の灯台を、14年に越中風帆船会社ならびに北陸通船会社を創立。16年に私設伏木測候所を設置した。30年伏木築港期成同盟会を結成し、完成に貢献した。33年には中越鉄道を伏木まで開通させた。12年に、第1回石川県会議員に最高点で当選。15年に越中改進黨の結成に尽した。



39年の庄川大洪水の惨状
7月中旬から連日降雨が続いたため、庄川が大出水。21日の午前、二塚村(現 高岡市)で堤防3カ所同時に欠壊。全河川の水が千保川に浸入して大被害をもたらした。

庄川改修工事竣工平面図

小矢部川に合流していた庄川は、川幅が不規則で水害が多かった。33年に、大門町より下流を取り拡げ、さらに河身を変更して、小矢部川と分離した。



常願寺川砂防工事
24年、大出水のあと、ヨハネス・テ・レーケの設計により、河身の改修を行ったが、39年より、上流の湯川に砂防工事を進めた。



29年の神通川大出水
7月21日発生。浸水は4,850戸に及び、県庁大手前を船が往き来した。



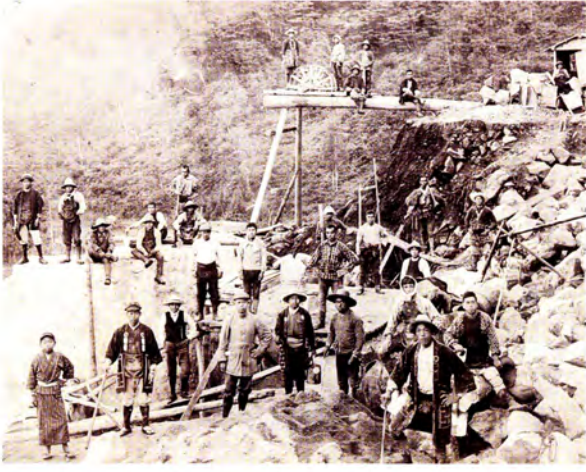
消防設備の近代化
40年に、城端町に火災があつて、10戸焼失。よつて蒸気ポンプ消防車を購入。当時、県内でも数少ない、新しい機械だった。



腕力ポンプ
明治では、主に腕力ポンプを使用して、消火につとめた。

治水工事と消防設備の充実

置県以来の懸案である治水対策も、土木技術工法の進歩により、着々と推進された。
明治三十年から三十六年まで、二次にわたり神通川の川幅を取り拡げると共に、流路を変更した。これを馳越線といひ旧富山城の北側を大きく廻り込んでいた流路を、西にうつし直線にした。これで富山市内の洪水はさげられた。
三十三年には、政府事業として庄川の改修工事を施行し、小矢部川と庄川の河口を分離した。また、常願寺川の水害防止の難工事については、三十八年以來、毎年砂防工事を中心に主力を注いだ。かくてこれらの県土保全対策は、県の近代化推進の基盤となった。
また、消防設備は、腕力ポンプに代わつて、次第に蒸気ポンプが備えつけられて、充実してきた。

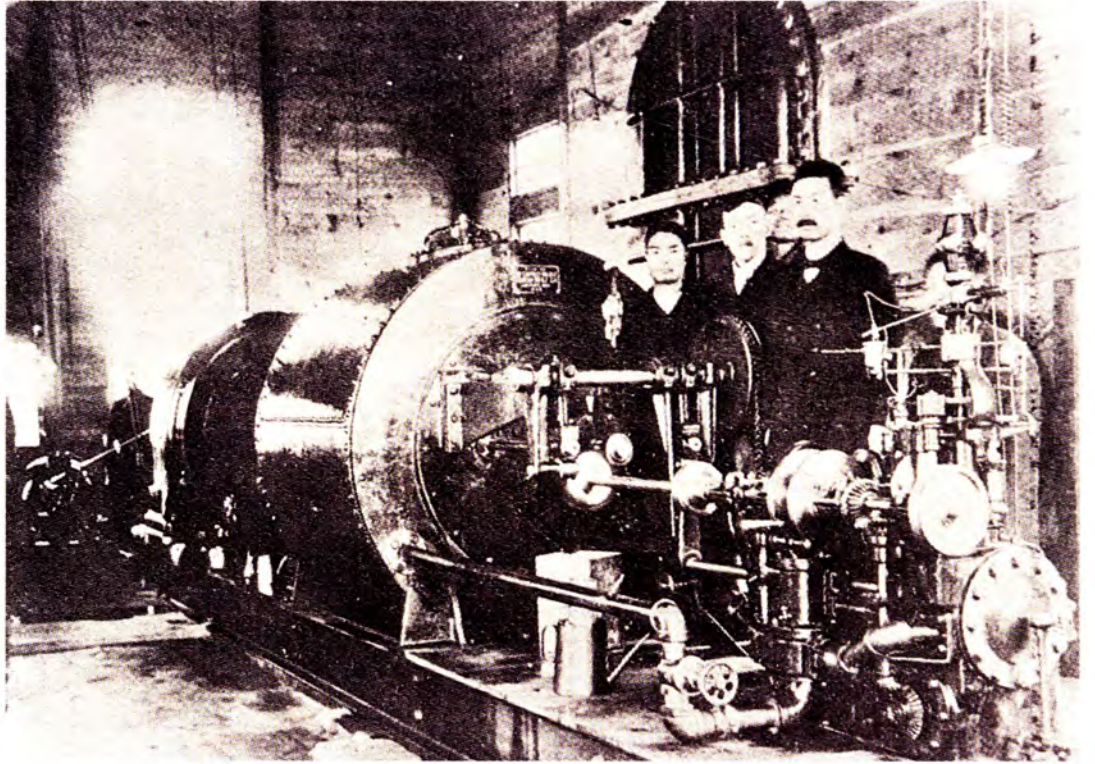


自家発電所の工事

43年、片貝川平沢において、魚津カーバイト工場の自家発電所の工事が行われた。当時はほとんど人力によって、山を崩し、トンネルを掘り、排水路を作った。

大久保発電所

大久保用水は塩(現 大沢野町)の地点で、落差が約20mになっていた。密田孝吉青年(写真中央)がそれを利用して発電を着想。32年完成。出力150KW



電力県のめばえ

明治三十二年に、富山電灯株式会社によって、本県最初の水力発電所が大久保(現大沢野町)に建設されて、電源開発が始まった。四十四年に、庵谷(現細入村)に発電所を建設、その後、県下の各地に水力発電の開発がひろまった。また、四十一年に火力発電所が奥田村(現富山市)に創設された。

なお、明治末期において、県内の発電力増加は、次のように推移した。

- 明治三十二年 一五〇キロワット
- 同 四十年 一、六五〇キロワット
- 同 四十四年 四、七〇〇キロワット



高岡電灯株式会社
36年創立。火力発電機を設備して、翌年、高岡市内に点灯を開始。次第に事業を拡張していった。

北陸人造肥料株式会社
41年12月に開業した工場。現在の日産化学の前身で、小矢部川から望んだ全景



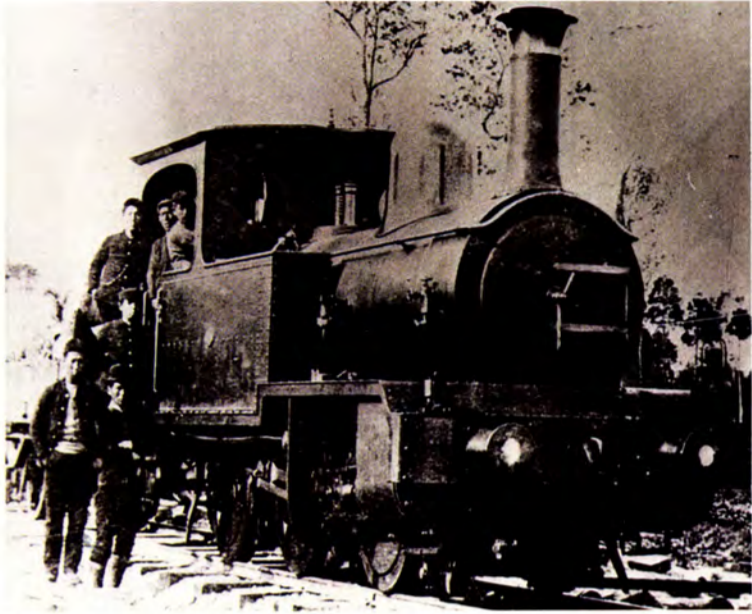
奥田の火力発電所

41年、富山電気株式会社が奥田村(現富山市)に建設。火力によって発電。富山市と近郊に、出力110KWの電気を供給した。

庵谷発電所

富山電気株式会社(のちの日海電気)が神通川上流の庵谷(現 細入村)に新設。出力2,560KW。この建設により、配電事業を次第に拡張、北陸電力業界の覇者となった。





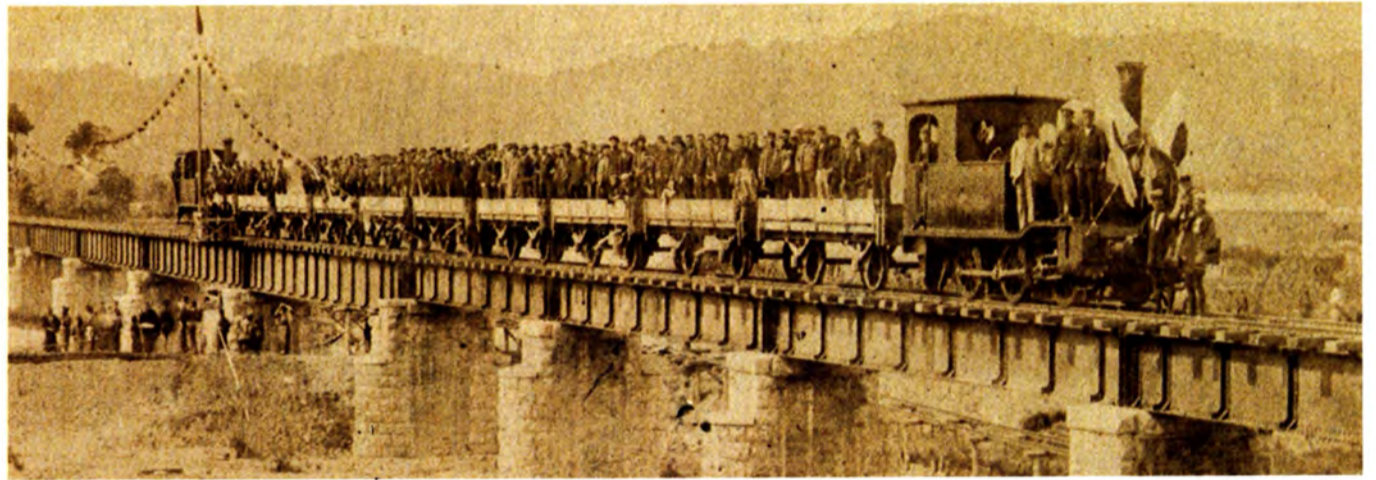
弁慶号
中越鉄道(現 城端線)開通当時の、福光駅における蒸気機関車(英国より輸入)

大矢四郎兵衛の出身。県会議員を経て衆議院議員となる。富山市の吉田茂勝・般若野村(現高岡市)の島田孝之らと図り、有志の賛助を得て、中越鉄道株式会社を明治二十六年創立。高岡と城端間に列車を走らせた。以来、この鉄道(城端線)によって、砺波地方の産業経済は大きく発展した。

県内鉄道の創始者

大矢四郎兵衛

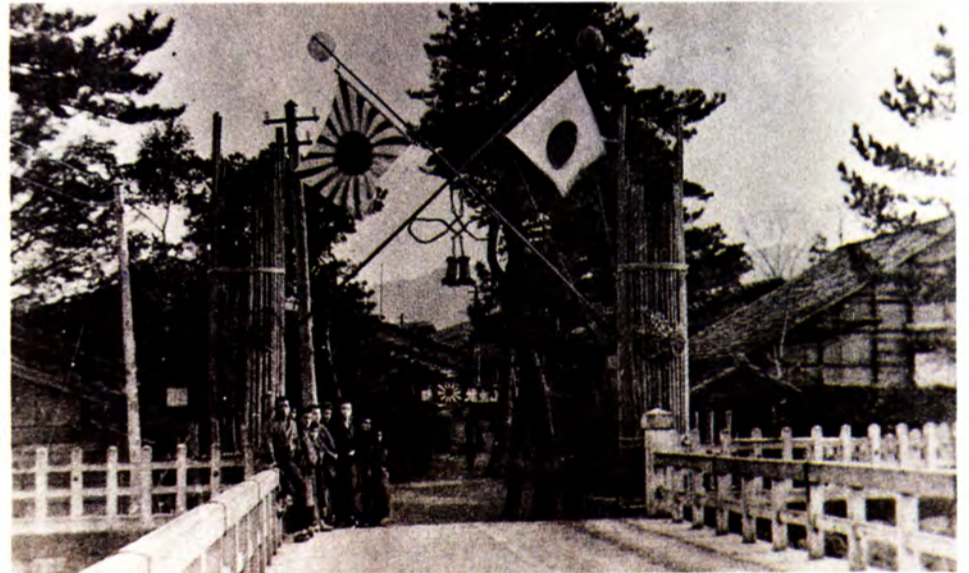
(一八五七〜一九三〇)



31年 高岡まで開通した北陸線
小矢部川鉄橋を初渡りする列車(小矢部市福町)



東岩瀬港 42年ごろ。富山市に近く、伏木港に次ぐ港



木造の大橋 38年ごろの木橋。福光町の小矢部川にかかっていた。



太田橋竣工祝賀式(現 砺波市)
33年に架設。当時は真取橋で、中央の小屋で番人が、大人1人、7厘の橋賃を徴収

地域のひろがり

日清戦争後、本県の交通・通信が整備された。陸上交通においては、道路法と経費の負担などの法規の制定、国道・県道・市町村道の改修により、県内の道路整備は進んだ。橋梁も、川百本といわれる県内の大小河川に、次々架設されて、一万以上を数えるに至った。なかには、橋賃を徴収する、賃取橋がいくつかあった。

三十年に、本県最初の鉄道、中越鉄道(現城端線)が砺波平野を走り、人々を驚かせた。翌三十一年には北陸鉄道(現北陸線)が金沢と高岡間、三十二年には富山まで開通した。三十二年に、伏木港は開港場に指定された。その後、庄川の下流を小矢部川から切離す大改修工事が竣工して、港湾施設が整い、県の中心的輸出港となった。

また、三十九年に、富山郵便局に、県内初の電話が開通。ついで高岡・岩瀬両郵便局で電話通信事務が開始された。



県花・チューリップ^o 昭和29年3月22日、NHKが開局30周年を記念して各都道府県の花を選定。その際、富山県の県花としてチューリップが選ばれ、以来一般に県花として認められている。チューリップ栽培は富山県の主要産業の一つであり、その球根輸出実績は全国一である。県や組合を中心に、品種の改良、新品種の開発も活発に進められ、チューリップ栽培は今後も大きな発展が期待されている。また、毎年行われるチューリップフェアは有名で、多くの観光客を集めている。

4 電力・工業の進展

大正時代



田刈屋の富山駅
北陸鉄道(北陸線)が、敦賀から富山まで来た時の富山駅。駅前には客を迎える人力車が 数台たむろしている。



牛島に移った富山駅
明治41年、富山～魚津間の開通とともに、田刈屋にあった富山駅は、もつと市街地に寄った愛宕・牛島地内へ移った。現富山駅の位置である。

魚津駅の祝賀列車
明治41年、富山～魚津間の開通により駅が新設され、ちょうど祝賀列車が到着した。



鉄道唱歌

富山は越中繁華の地
ここよりおこる鉄道は
加賀 越前をつらぬきて
東海道の であうなり
くすりに名のある富山市は
神通川の 東岸
はるかに望む立山は
直立 九千九百尺
(富山駅設置のとき、よく歌われた)



富山駅前風景
大正期の駅前。今と比べて、なんと広々として閑散なことか。自動車はもちろん見られず、人力車、荷車と、駅前の商人宿が目立つ。

北陸線の全通と交通網の拡大

大正二年四月一日は、富山県にとって記念すべき歴史的な日であった。それは、北陸線の全通である。明治二十六年にはじまった北陸線が、金沢を経て高岡へ、そして富山に達したのは、三十二年三月。さらに、すでに完成していた信越線と直江津で合流するまでには、十三年の歳月を要したのである。この大動脈の完成により、県東部、西部の交流はもとより、東京・大阪との直結、北陸各県との連絡など、大きな発展をみた。さらに、県内交通網の拡大に及ぼした影響も大きく、これを機会に大正期の鉄道建設黄金時代を迎える。

大正年間に開通した主な県内鉄軌道

- ・中越鉄道—大正元年、高岡～氷見間。五年、高岡～新湊間
- ・立山軽便鉄道(のち立山鉄道)—二年、滑川～上市～五百石間。十年、五百石～立山間
- ・富山軽便鉄道(のち富山鉄道・富南鉄道)—三年、富山～笹津(大沢野町)間
- ・砺波鉄道(のち加越鉄道)—四年、福野～青島(庄川町)間。十一年、石動～青島間
- ・県営鉄道—十年、南富山～横江(立山町)間。十二年、横江～千垣(立山町)間
- ・黒部鉄道—十一年、三日市(黒部市)～下立(宇奈月町)間。十二年、下立～宇奈月間
- ・富岩鉄道—十三年、富山口～岩瀬浜間
- ・越中電気軌道(のち越中鉄道)—十三年、富山北口～四方間。十五年、富山北口～連隊橋(新富山)間、四方～打出浜間
- ・神岡軌道—十三年、笹津～岐阜県船津町間
- ・富山電気軌道(のち富山市営軌道)—二年、富山駅～西町～南富山間、同じく富山駅～県庁前～郵便局前～西町～雪見橋～日赤裏～富山駅間の二線。五年、西町～呉羽間

(「富山地方鉄道五十年の歩み」及び「富山県政史」による)



島尾遊園地 高岡から伏木まで来ていた中越鉄道は、大正元年、氷見まで延びた。同時に島尾遊園地が造成され、海水浴客などで賑わった。



工事中の砺波鉄道(加越鉄道)津沢駅(現 小矢部市津沢)



市内電車走る
大正初期、富山市西町付近を走るチンチン電車



岩瀬浜駅
13年の 富岩鉄道岩瀬浜駅。新型のボギー車が停車している。

共進会の夜景
きらめく電飾やイルミネーションに、当時の人たちは目をみはった。



記念絵はがき



一府八県連合共進会開く

北陸線の全通を祝って、一府八県連合共進会が、大正二年、堀川村（現富山市富山女子高校のところ）で開催。産業展示などのほか、演芸館・乃木館などの特設館があった。会期は当初、四月二十一日から六月九日までを予定していたが、明治天皇のご逝去により、九月一日から十月二十日まで延期された。

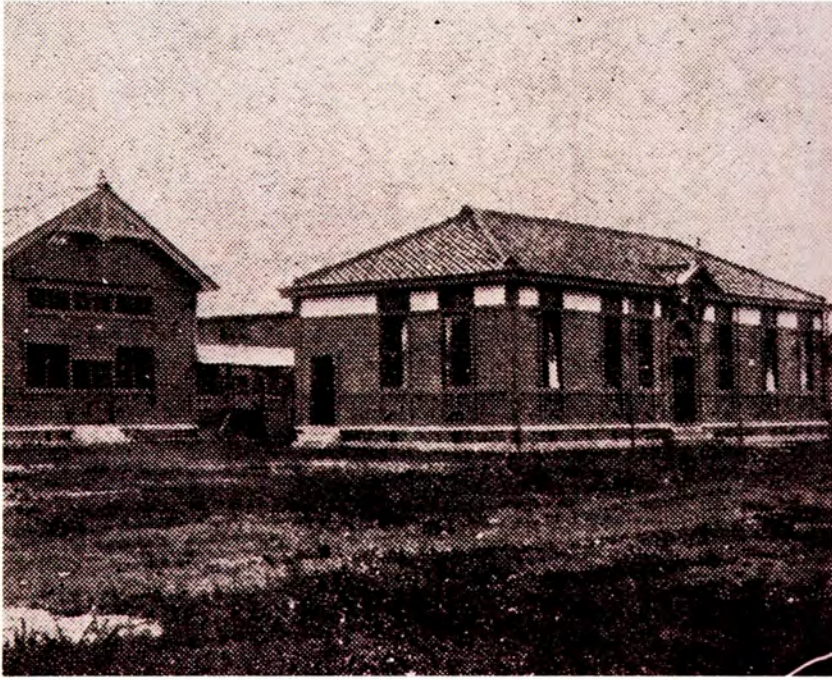


富山市の大水害
3年8月、豪雨が降り続き、神通川は13日夜半、有沢橋近くの堤防で欠壊。市内は泥海と化した。神通新大橋、桜橋などが流失し、浸水家屋6,850戸に達した。
(富山市50年史絵巻から)



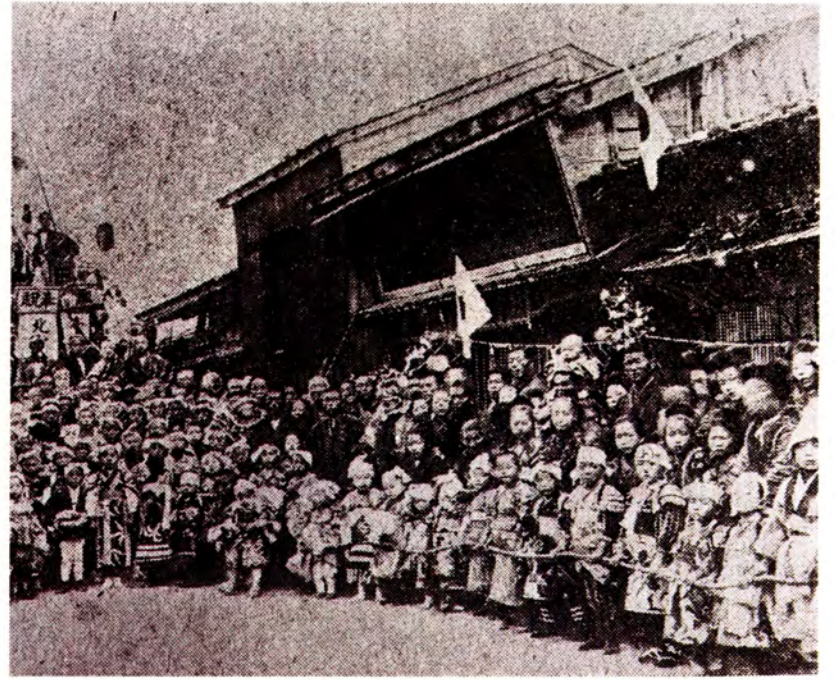
魚津水族館
共進会の第2会場として、開館。日本海側随一を誇る。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|-----------------------|------------------|---|------------------------|------------------------|-------------------------|--|------|------|------|------|------|--|
| 一九二六 | 大正二五 | 一九二四 | 大正二三 | 一九二二 | 大正二〇 | 一九二〇 | 大正一九 | 一九一八 | 大正一七 | 一九一七 | 大正一六 | 一九一五 | 大正一四 | 一九一四 | 大正一三 | 一九一三 | 大正一二 | |
| ダム建設にからみ庄川で流木事件○大雪○富山市営乗合自動車運転開始○立憲政友会県支部発足 | ●治安維持法
撰政宮、立山御歌詠作、岡野貞一これに作曲○井波大火○軍縮で富山歩兵第六九連隊廃止、歩兵第三五連隊富山移駐○冠松次郎、黒部峡谷完湖に成功○県連合婦人会発足○第一回青年団連合相撲大会○全国売薬団体連合大会、富山で開催 | ●普通選挙法
北陸地方陸軍特別大演習統監のため撰政宮（今上陛下）行啓○官立高岡高等商業学校設置○秩父宮雍仁親王、皇族として初めて立山スキー登山○小泉八雲旧蔵書、ヘルン文庫として、旧制富山高校に設置○県連合青年団発足○ダルトンプランのパーカーカスト女史来富○富山都市計画施行 | ●関東大震災
郡制廃止 ○初の百貨店、岡部呉服店開業○七年制富山県立高等学校設置○横有恒一行、雪の立山で遭難（本県冬山遭難のさきかげ）○宇奈月温泉開湯し、黒部鉄道宇奈月まで開通○俳人前田普羅、富山に居住、俳誌辛夷主宰○高岡で初めて方面委員制度実施 | 官立富山薬学専門学校設置○富山市職業紹介所設置○輻重兵大隊五箇山つり橋で墜落（二六名死亡） | ●国勢調査
県営水力電気事業開始○立山気象観測所開設
第九師団シベリア出兵○初めて県に消防自動車設備○富山県出身財界人安田善次郎刺殺される○富山出身童話家大井冷光、神奈川県で童話自演中急死 | ○大境洞窟・朝日貝塚発見○スペイン風邪流行 | 米人アート・スマイス、富山で飛行 | 工場建設さかん○大雪○石崎光瑠、マハデウム峰登頂に成功、日本人として最初のヒマラヤ登山 | ○魚津・滑川・水橋等に米騒動勃発、全国に波及 | ●第一次世界大戦
台風により諸川大洪水 | 地主大会さかん○富山演舞館開館○富山国技館開設 | 北陸本線全通記念に一府八県連合共進会開催○魚津で水族館開館○ガス供給開始○富山に市街電車開通○富山県招魂社創建（富山県護国神社の基） | | | | | | |



工業試験所設置

銅器、漆器などの伝統産業を持つ高岡に、2年、県立工業試験所が設置され、品質の向上と生産の増加がはかられた。場所は、県立工芸学校に隣接する、中川地区



大正の御大典祝賀

4年11月、大正天皇の御即位式を祝って、各地で盛大な祝賀行事がくりひろげられた。四方町（現富山市）では、小学校で式の後、各町競って山車を繰り出した。北中町の山車を曳く子供連

工業の進展

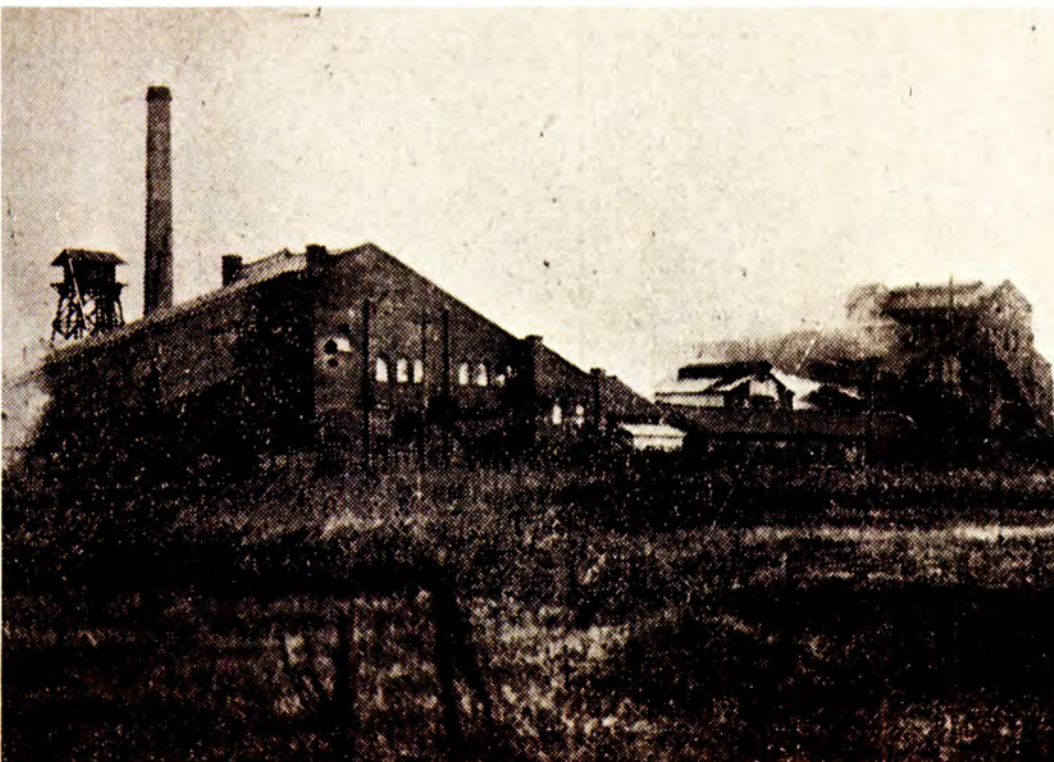
明治期では、工業近代化の芽ばえはみられたものの、成長は緩慢で、末期に至ってようやく、機業工場などの設置が目立った。大正に入ると、北陸線の全通は大きな曙光をもたらす。加えて、水力発電の開発が大きな鍵となり、工場の設置が急テンポに進展した。

大正十年には、工業生産額（七、一二〇万円）が、ついに農業（六、二九七万円）を上まわり、農業県の富山から、工業県富山へと、大きく転換する。しかしその内容をみると、売薬、織物、その他各種製造業など、ほとんどが在来産業であった。化学・機械・鉄鋼業などが伸長し、文字通り工業立県が実現するのは、昭和初期に入る。昭和十年では、工業生産額が全生産額の七割を占めるようになった。



高伏工業地帯

伏木港と高岡市街を結ぶ地帯は、鉄道、道路網の充実や港湾の整備が進み、対岸貿易の振興と共に、近代的な工場の立地が促進された。大正中期から昭和初期にかけて、鉄鋼・化学・紙パルプなどの大工場が続々建設され、一大工業地帯を形成した。



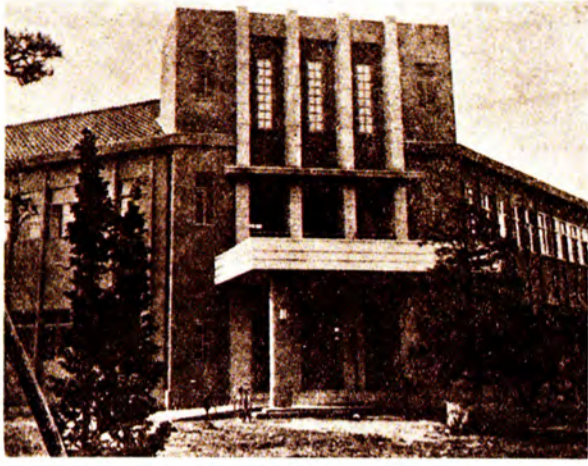
電気製鉄 伏木工場

6年設立。金属電気精錬
(現 日本鋼管富山電気製鉄所)

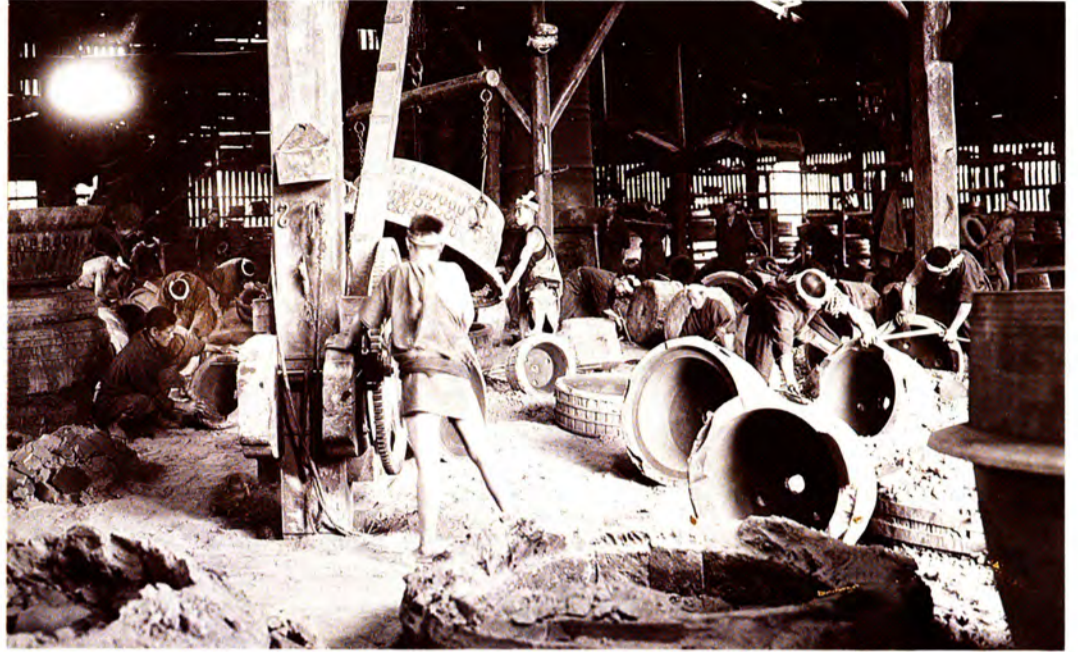


福野合同織物

8年設立。綿織物・人絹織物を生産

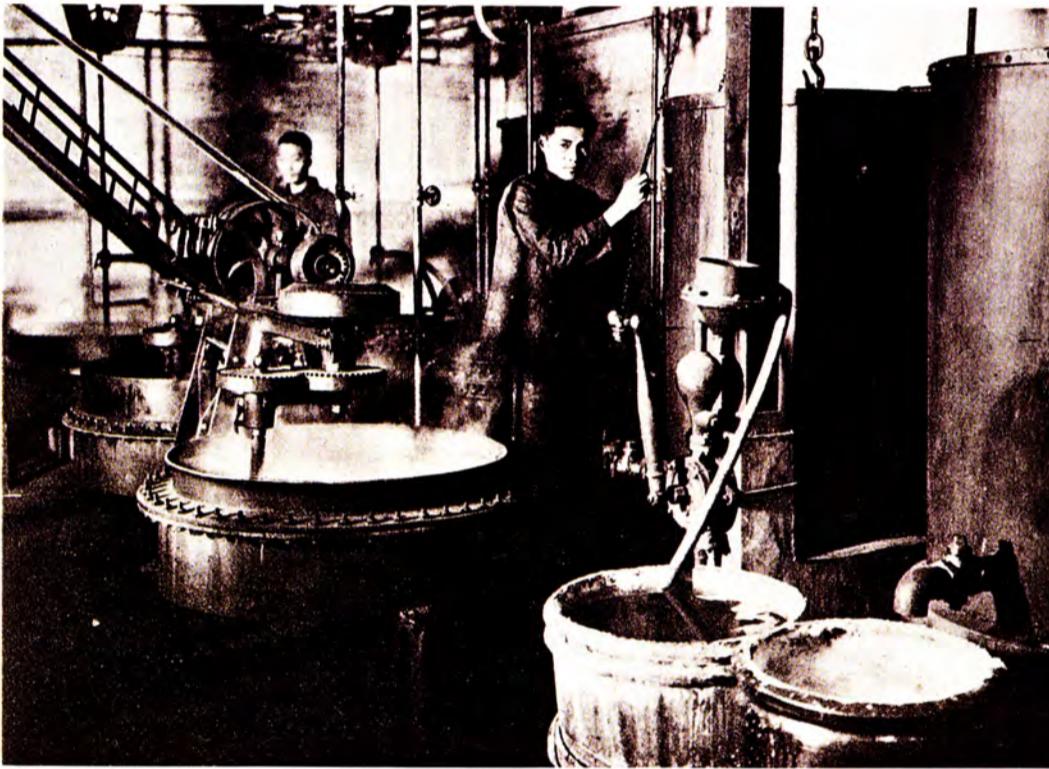


第一ラミー紡績
6年、山室村清水(現富山市)に設立。
その後、東亜麻工業富山ラミー工場と改称

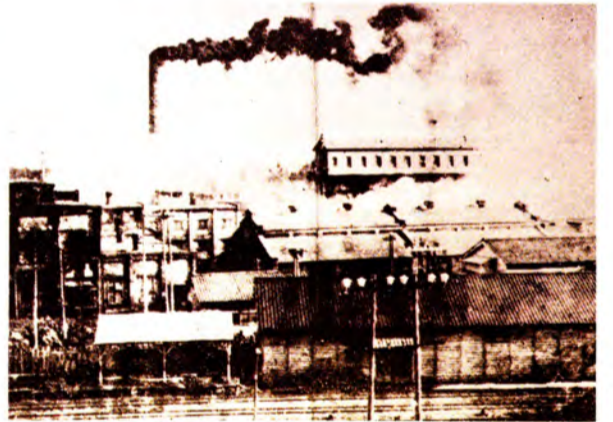


高岡の鋳物工場
3年ころの、金屋町の工場。
新式溶解炉や、扇風機、蒸気機関など、
機械化が進んでいる。

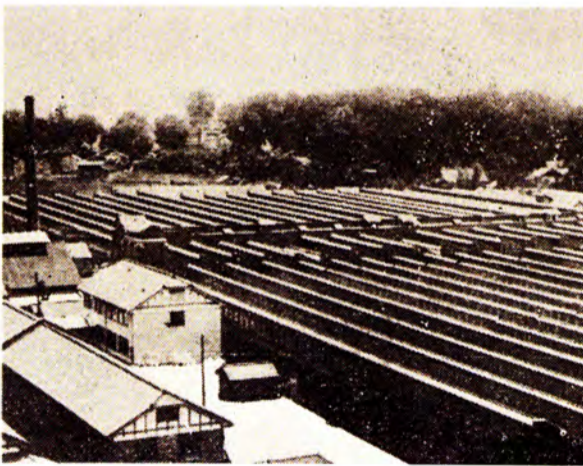
富山売薬の広貴堂 製練工場
熊胆円の製造。省力と衛生処理のため、新しい機械が
とり入れられている。



北海工業 伏木工場
8年設立(現十条製紙)

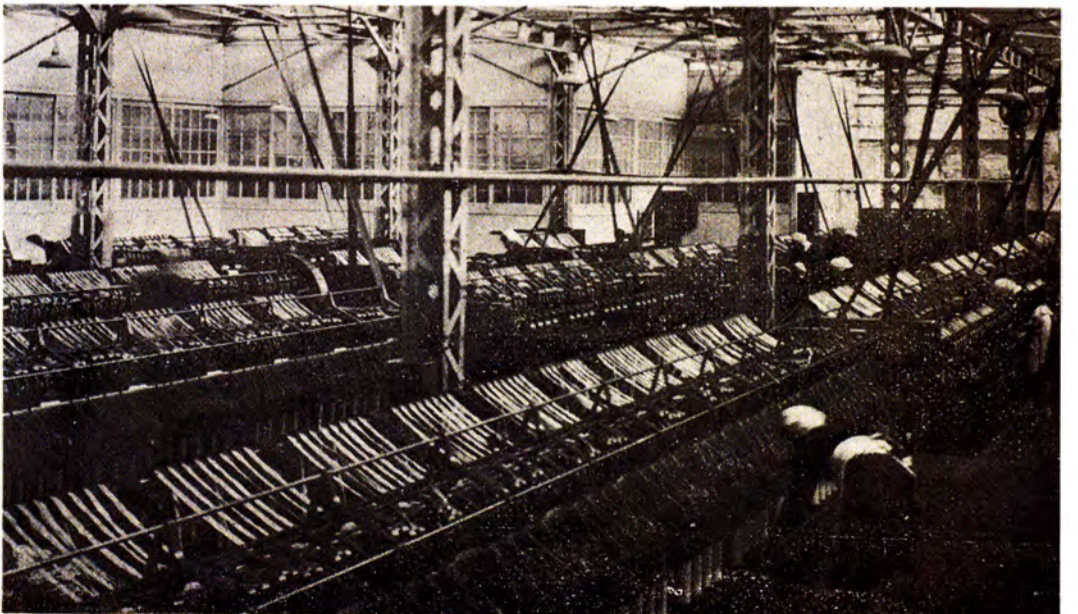


電気化学工業 伏木工場
7年設立。炭化石炭・硫酸カーボンを製造



呉羽紡績 福野工場
11年設立。昭和に入って、5年には呉羽工場、7年には
井波工場、8年には大門工場、10年には入善工場が、相
次いで鉄道沿線に設立された。(現東洋紡)

大正製麻富山工場 前紡室
10年、奥田村奥井(現富山市)に設立。麻糸および麻布製造



電力の時代

名うてのあばれ川をかかえて、洪水に悩まされてきた県民が、豊かな水を利用して水力発電を考えたのは、明治三十二年の神通川、大久保用水発電所に始まる。

大正に入ると、氷見出身でセメント王といわれた浅野総一郎が、庄川の水力に着目し、八年に庄川水力電気会社を設立して、小牧ダム建設に着手した。これは、流木業者などの反対のため、行政訴訟にまで発展し、解決は昭和に入った。昭和五年、当時は東洋一といわれた小牧ダムが完成した。

大正八年、日本電力会社が設立され、神通川・常願寺川・黒部川などの発電所建設が進められた。また、中小河川にも発電所が建設された。

九年二月、東園基光知事は臨時県会を招集して、県営の水力発電事業構想を提案した。治水費に多額の子算を必要とする県財政にとって「電力料金の収入が転がり込む」「治水事業に思い切った金をかけることができる」ことは、まさに禍を転じて福となす良策だった。

具体的な構想は、常願寺川水系の真川・称名川・和田川・小口川の四河川を利用し、上滝・松ノ木・中地山など八カ所の発電所をつくる。発電計画量は、三万七千キロワット。

この電力で工場の誘致をはかり、県民所得の増大を期するというもの。事業費は二千余万円という多額なものになるが、これは年利八分の県債でまかなう。発電が開始されると、七十余万円の収入があり、三十年後には事業費の元利が完済するので、年間二六八万円の収益があるという計算であった。しかし、この夢は戦争へ突入と共に、県電は日本発送電に移管され、直接県民をうるおすことなくしぼんでしまった。

付帯事業として、富山・立山山麓間の電気軌道を建設し、資材の搬送のみならず、観光にも益しようという計画だった。県会では、この膨大な計画に対し議論百出したが、満場一致で可決され、九年六月、富山県電気局が設置された。

同年十一月には、直ちに電気軌道の敷設工事が開始され、翌十年四月、一部が営業を始めた。さらに同年十一月には、上滝・松ノ木・中地山の三発電所を着工。十三年四月からは、三発電所が日本電力に対し送電を開始した。



東園基光(1875~1934)

堂上公麿の出身で、子爵。東京生まれ。東京帝大法科卒のエリート内務官僚で、8年4月、東京府内務部長から本県知事になった。県営電気を創始した実行力は高く評価されるが、神通中学校、上市農学校の創立、県立薬学専門学校の官立移管、氷見漁港の修築などにも力を尽した。

10年12月、退官した後は、濃飛電気や白山水力電気の社長になり、貴族院議員に選ばれている。



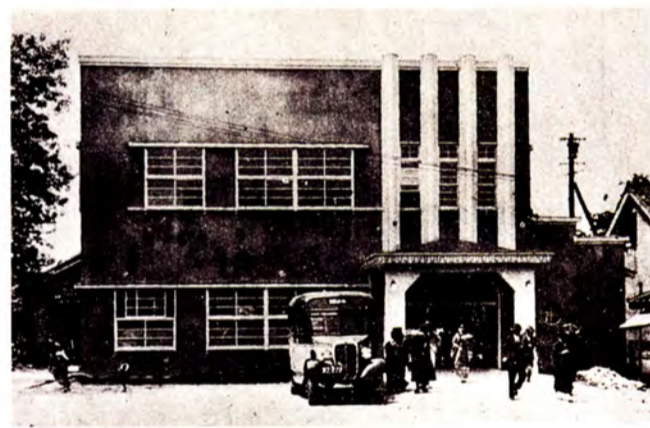
県営水力電気事業議決当時の県会知事と議長を中心に、議員と県の部長がズラリと並んでいる。

南富山駅

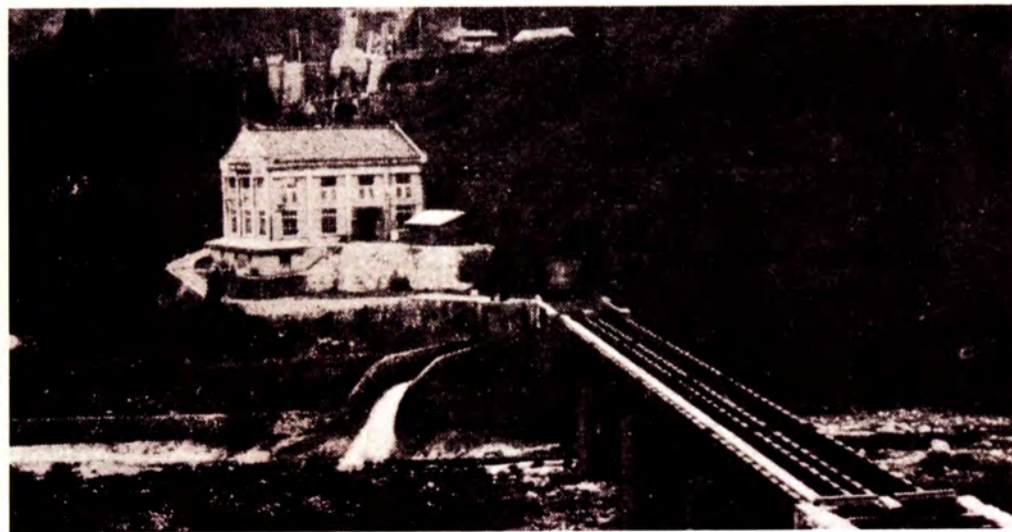
県営電気軌道は、10年4月に南富山～上滝間、6月に上滝～岩畔寺間、10月に岩畔寺～横江間、12年4月に横江～千垣間が開通した。



水力電気事業記念の銅版
県庁3階の階段を登った壁面に、はめ込まれている。



県営上滝発電所 13年2月完成。出力7,400kW

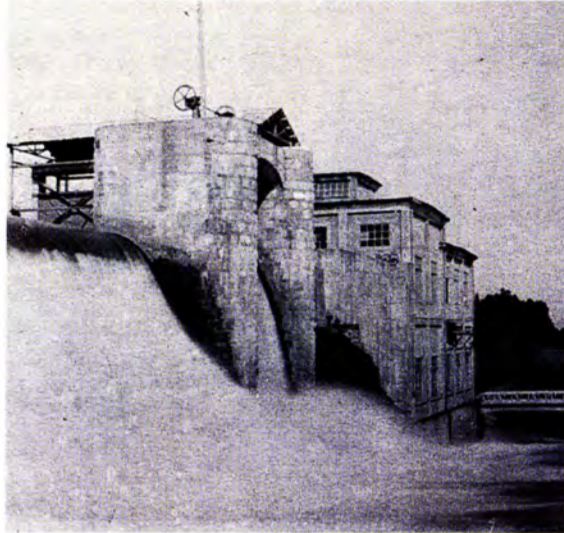


県営中地山発電所 13年2月完成。出力2,300kW



浅野総一郎(1848~1930)
水見市藪田の医師、浅野泰順の長男。24歳で上京し、浅野セメントを創立し、セメント王といわれた。直接支配する会社は約30、関係会社は約50に及んだという。富山の豊かな水にいちちはやく着目し、6年、庄川を調査「もったいない。お金がむだに流れている」といったと伝える。8年、庄川水力電気株式会社をつくり、小牧ダムを計画した。

五平定発電所
11年、高岡電燈が宮川村(現婦中町)に建設。出力1,200kW



小矢部発電所
3年、石動電気が福光町小院瀬見に建設



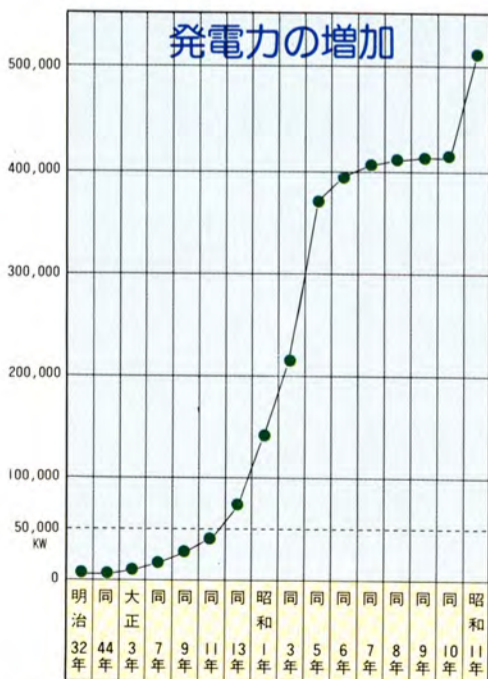
浜田恒之助述「経世小策」



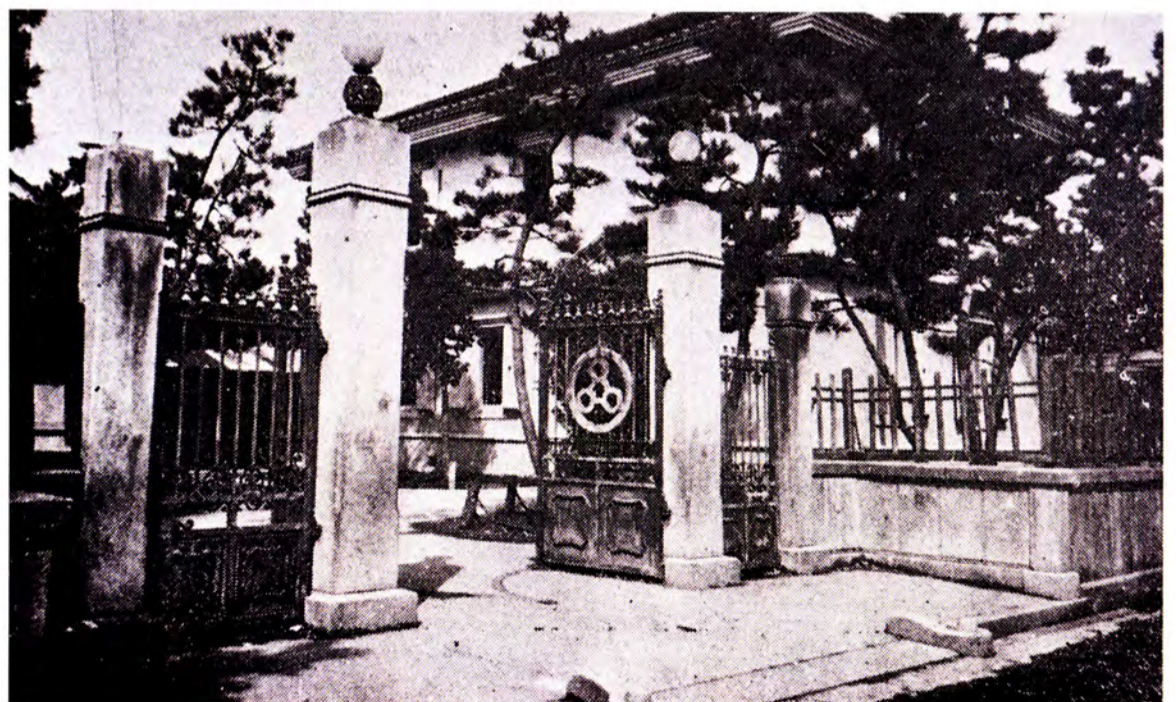
久婦須川発電所
14年、飛越電気が卯花村(現八尾町)に建設。出力3,600kW

蟹寺発電所
15年、日本電力が細入村蟹寺に建設。出力50,000kW

知事の英断
県営発電の実施にふみきった、十七代知事東園基光の決断は高く評価されるが、さらに、これより先の十四代知事浜田恒之助が「経世小策」を著わし、水力発電による工業立県を提唱していることも、見逃がしてはならない。
このような電力県富山の歩みは、工業県富山の発展をもたらし、さらに京阪神・中京などへも送電する、電源県富山の特性にもつながる。この目覚ましい伸長の時代的背景を考えると、第一次大戦による工業の勃興と電力の需要増が、これに拍車をかけたことは否定できない。



「富山の産業と港湾」(昭11)から
大正から昭和の初期にかけての伸長は、目覚ましい。



日本海電気株式会社
富山市星井町にあった富山電気は、石川県にまでその範囲を拡大し、日本海電気と改めて、北陸第一の規模に発展した。

大正寸描

県庁前のお野立所（当時の神通グランド）
 殿下は、富山市で県会議事堂・神通中学校などをご視察。神通グランドで、県下の生徒・児童の運動競技をご覧になった。



摂政宮殿下(今上陛下)の行啓
 13年11月、陸軍特別大演習と民情視察をかねて、北陸へ行啓。くりから峠などの加越国境の山野に展開された、大演習をご統監になった。

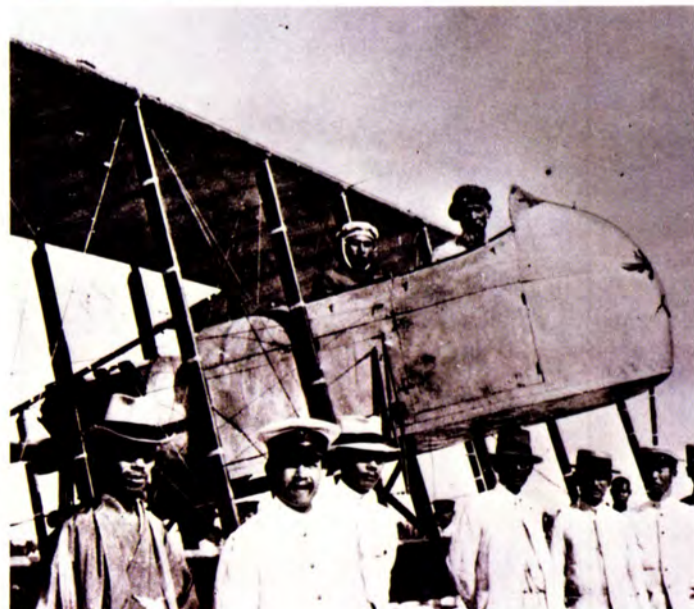


国勢調査はじまる
 9年10月1日を期し、全国一斉にはじめての国勢調査が実施された。守山村（現高岡市）の調査員。国から任命された重要な仕事だというので、みな羽織はかまに威儀をだしている。



第1回国勢調査記念絵葉書

高岡へ来た飛行機
 6年の夏、帝国飛行協会所属の複葉機が飛来。希望者を富山と高岡で同乗させた。



鳥人 スミスの大飛行
 5年5月、アメリカの飛行家アート・スミスが来県。17日はあいにくの猛雨だったが、富山練兵場で試験飛行。次いで天候に恵まれた23日には、得意の宙返り、横転、逆転などの神技を披露し、観衆を驚かせた。





横有恒一行の山岳遭難

横有恒、三田幸夫、板倉勝宣に、写真家2人、ガイド10人を加えて1行15人が、12年1月、立山の松尾峠で遭難。板倉は死亡、他はかろうじて救助された。遭難を大きく報ずる、23日付・富山日報

関東大震災・富山駅の救護所
12年9月1日、関東大震災に際し、富山駅と高岡駅には救護所をつくり、親類、知人を頼って避難してきた罹災者の救護にあたった。



シベリア出兵

ロシア革命に際して、日本はアメリカ・イギリス・フランスと共に、シベリアに出兵した。10年、第9師団の将兵は七尾港から東郷丸に乗船して、シベリアに向った。歩兵第69連隊、同35連隊などの郷土兵士の、出航を見送る群衆

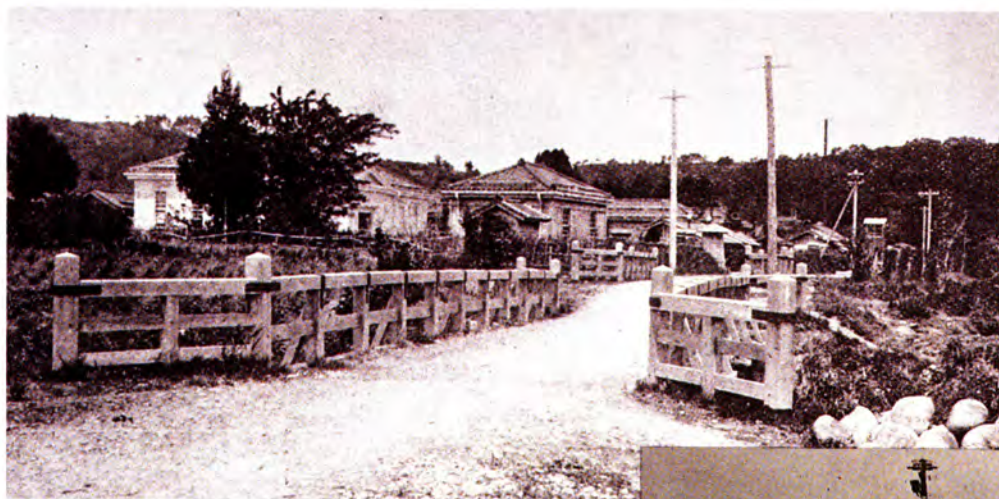


(富山市50年史絵巻から)



歩兵第35連隊の正門

31旅団、69連隊の廃止に代って、金沢から歩兵第35連隊が移駐。富山県全部と飛騨3郡を徴募区域にした。現在は、富山大学になっている。



歩兵第31旅団司令部

明治40年、東呉羽村五福(現富山市)に置かれ、地元の69連隊と金沢の35連隊を統轄していたが、大正14年に廃止



歩兵第69連隊

明治40年、同じく五福に置かれ、県東部の上・中・下新川郡と、婦負郡・富山市および、岐阜県の飛騨3郡(大野・益田・吉城)の壮丁を徴募していたが、大正14年に廃止

軍備縮小

第一次大戦後、列国の間で軍備縮小が協議され、日本もそれにふみきった。そのため、十四年五月、富山の歩兵第三十一旅団と歩兵第六十九連隊が廃止された。代って、金沢にあった歩兵第三十五連隊が、富山に移駐した。

大正デモクラシー



魚津の女仲仕
移出米は、力の強い女仲仕の背でハシケに運ばれ、沖に停泊する田船に積みカエ、運ばれた。

大衆運動のたかまり

大正時代の民衆は、欧米の新思潮の流入とともに、政治・社会・文化の解放を求めた。また、「明治憲法擁護運動」や「民主主義」などが提唱されて、普通選挙権を主張する運動、労働者・農民・婦人などの社会運動が高まった。

県下では、七年に滑川町で普通選挙期成同盟が結成された。後期ごろから、新時代にめざめた婦人たちによって、婦人参政権獲得運動も進められた。また、十年前後から、県内の各地に労働組合が結成され、働く者の団結が固められた。さらに、女工や鉄道・郵便局の従業員の争議が起こった。

第一次世界大戦（大正三〜七年）は、好景気をもたらしたが、後には、不景気となり、とくに農民や労働者は打撃を受けて、生活に苦しんだ。七年の夏、米価が暴騰したので、魚津・滑川・水橋・東岩瀬・泊などに米騒動が起こり、全国へ波及した。

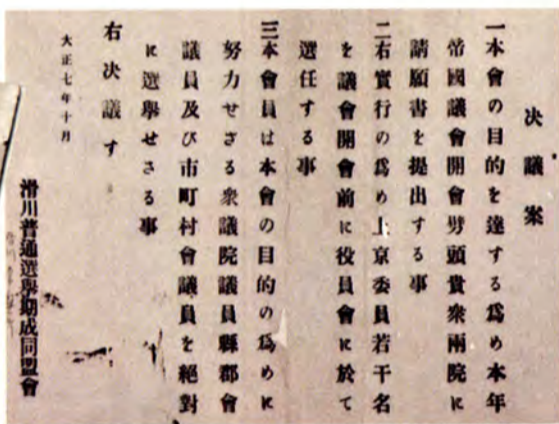
十四年、庄川水系の電源開発工事はじまると、流木業者・漁民・農民が既得権を楯に猛反対運動を起こして、天下の注目を浴びた。



米騒動の漫画 (岡本一平)



米騒動を報道する新聞記事
7年8月7日付。高岡新報



普選運動の高まり
7年、滑川町で期成同盟会が結成され、宣言を決議して気勢を上げた。



金屋の貯木場
流材を引上げた場所。当時は「どば」と呼んだ。現在の庄川町青島の庄川河原にあった。

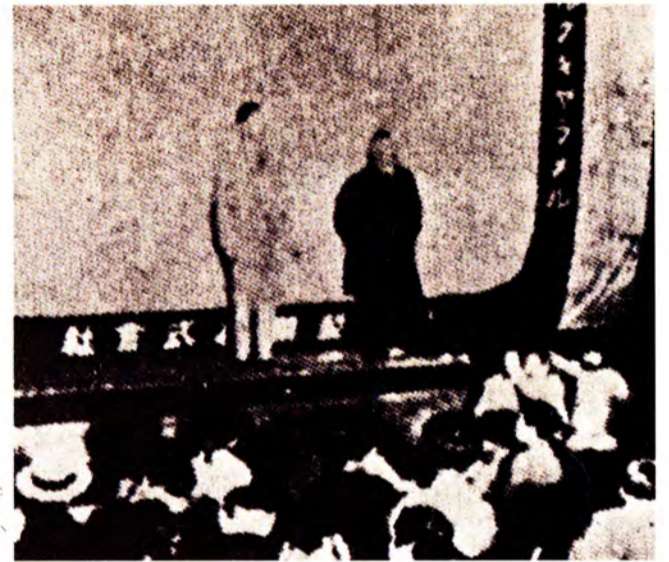


流木事件
ダム建設にからんで、大正末期から昭和初期にかけて、流木業者とのトラブルは、流血の惨事を生み、天下の注目を集めた。



大入満員の高岡市板橋座
大正に入ると、演劇は歌舞伎のみならず、剣劇
新劇・喜劇など多彩となり、人気が集まった。

活動写真館
映画は活動写真と呼ば
れた。富山市の東洋館



弁士の前口上
このころは無声映画で、弁
士が活躍。映写に先だつて、
前口上を述べている。

大正に入ると庶民生活の近代化が進み、民主主義思想のもとに、文化の大衆化が伸長した。
とくに印刷技術の発達により、各種の大衆雑誌が刊行され、新しい文芸思潮が庶民の間にひろがった。県内でも、富山・高岡・魚津をはじめ、氷見・水橋・福光・庄川などに、総合文芸同人誌が発行された。さらに、地方的小新聞や商業時報などの発行も見られた。このほか、教養講座や素人芝居舞踊・音楽隊などの芸能活動も活発になった。

また、洋服も次第にひろまり、洋品店・レストランも開業されるようになってきた。末期には、富山に岡部百貨店が出現。富山・高岡に活動写真館が続々開業して、人気を集めた。しかし、当時はまだ無声映画で、弁士が楽団の演奏にのって、節面白く説明した。

庶民文化の開花



島村抱月と松井須磨子きたる
3年6月、富山市に来演。「カチューシャカワイヤ」の「復活」を上演して、観客の目を見はらせた。須磨子と、腕を組む抱月



竹久夢二の屏風絵「こたつ」
4年1月来富して、桜木町で画会を開いた。その時描いた六曲一双の名作。夢二独特の女人像に、大正のロマンがあふれている。



駅前に客を待つタクシー
高岡駅前風景。駅舎の古い建築
交番、そして旧型の自動車

フォード型乗用車
新型の乗用車は、大衆の目をみはらせた。
場所は、滑川ホテル前



自動車・蓄音機そしてラジオ

大正の初めごろ、自動車が県内に移入されたが、まだ、庶民の身近かな乗物ではなかった。ハイヤーが走ると珍しくて、見ものにされたが、次第にタクシー・バスに発展していった。

また、大正の末ごろから、蓄音機によってレコードを楽しむ、ラジオ放送を聞くことができるようになった。



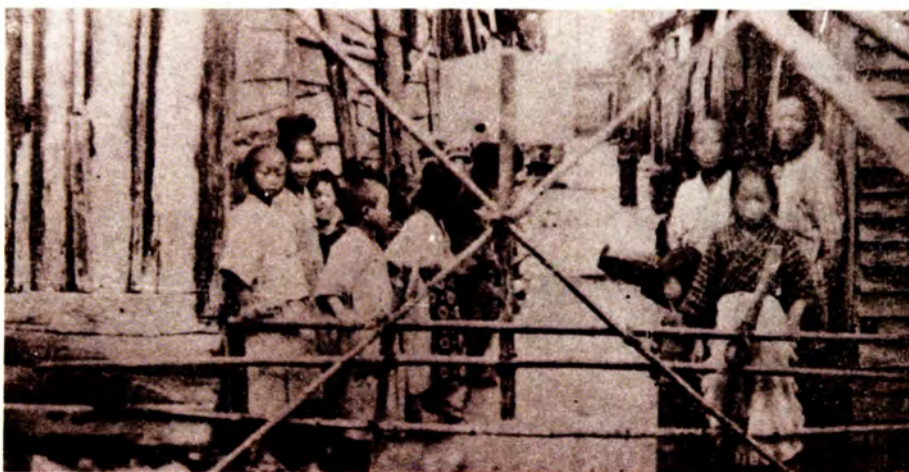
初期のラジオ
受信機と拡声器は別になっており、拡声器はラッパ型。主に家庭用



朝顔型ラッパ蓄音機
大きな拡声ラッパがついて
ハンドルを廻す手動式である。



大正の郵便配達員
福光郵便局前。当時ははつぴに巻きやはん



コレラさわぎ
6年、県下各地にコレラが発生。県内では329名が死亡。当時、新湊の奈古町では、竹矢束を組んで外部との交通をしゃ断



兵隊ごっこ
明治・大正時代の少年たちは、兵隊のまねをして遊んだ。



大正初期の水着姿 これでも大胆だと騒がれた。



大道香具師
魚津 神明社の祭礼(毎年6月)風景。
石垣の前で口上面白く、香具師が客を集めている。



夜店の賑わい
大正から昭和初めにかけて、夏の夜の風物詩として露天の夜店が賑わった。人々は、夕涼みがてらに、散歩と買物を楽しんだ。高岡市片原町通り

詩人・佃 血秋
氷見市出身。13年、シナリオライターとして、流行歌「籠の鳥」を映画化して、人気を集めた。



高岡 関野神社の縁日
5月1日の春季祭礼。境内のにぎわい



高岡古城公園のボート遊び
桜の名所として賑わった古城公園。4月ごろ花見客が多く、華やかな和服姿の女性も交って、内堀でボート遊びに興じる。



学校にバレーボール普及
女学生のスポーツとして普及してきた。

盛り場のモダニズム

富山・高岡両市などの盛り場・公園が人で賑わった。バー・玉突場・麻雀クラブなど、大衆娯楽場が繁盛。

カフェーの七色の酒や、白いエプロン姿の女給が魅力であった。

前期、演歌師の歌う「金色夜叉」や「不帰」などの流行歌。後期には、「船頭小唄(枯れすすき)」や「籠の鳥」などが、レコードの普及とともに流行した。

街頭には、モダンボーイと呼ばれる若者が、オールバックにラップズボン姿。モダンガールと呼ばれる若い女性が、洋装、断髪で、あるいは、耳かくしの髪型があらわれて、人目をひいた。

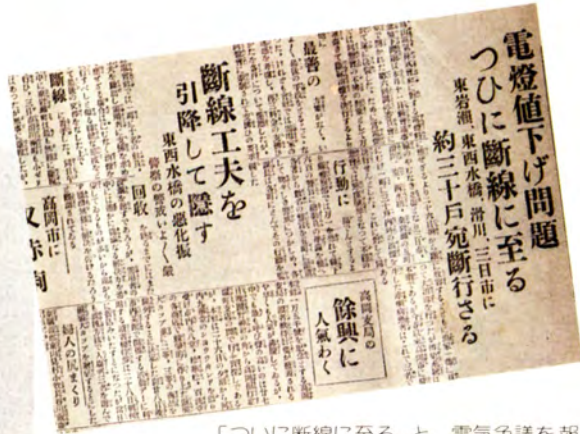
5 ゆれ動く日々

昭和元年〜十四年



ブラジル移民
昭和初期の移民船の人びと(アリアンサ村入植)

ブラジルへの入植
焼きはらった原野に小屋を建てて住む、入植当時の人びと



「ついに断線に至る」と、電気争議を報ずる3年7月27日付の富山日報



滑川の電気争議
アセチレン灯をつけて、会社の消灯に対抗する町民



銀行取りつけ騒ぎ
預金者が払い出しを求めて殺到し、騒ぎになった。

不況にあえぐ人びと

昭和に入ると、世界恐慌がおいづちをかけ、銀行にとりつけ騒ぎが起きた。物価の上昇に反し、米価の暴落は農家に多額の負債を負わせた。国・県・農会による救農土木事業、経済更生計画も、農村復興のきめ手とはならなかった。さらにその打開策として、県では工業の振興をはかり、農村の余剰労力をこれにあてることとした。

二年末から十ヶ月間、滑川町を中心に電気争議が起こった。当時、県内の独占企業であった富山電気株式会社は、高配当を実施していたにもかかわらず、高額な電気料金をすえおき、これが論議のまとなった。電気料金値下期成同盟会が結成され、この争議は民衆の勝利に帰した。

富山市では、最大の第一ラミー紡績工場が、突然業績悪化を理由に、全従業員に賃金三割減額を発表し、全女工がストライキに入るといふ事件があった。

二年、富山県海外移住協会が設立され、ブラジルへの移住が活発になり、同年アリアンサに富山村ができた。十一年までに一三六戸、五二七名が移住したが、開拓は困難をきわめ転業転出するものが続出し、生活の安定を得たのは四〇戸であった。



青い目の人形
2年、親善のため、アメリカから県内小学へ送られた。

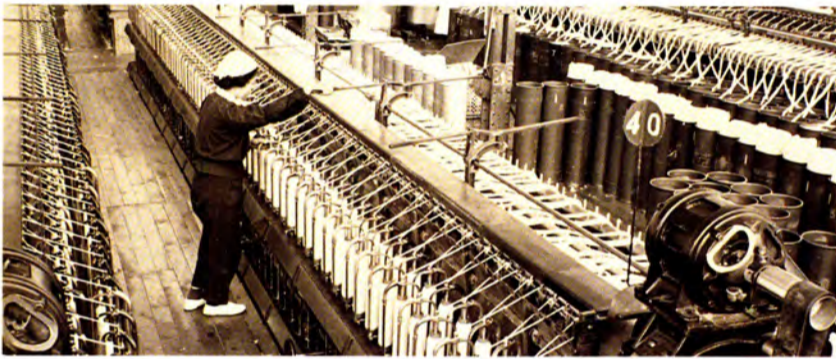


昭和御大典の祝賀

3年11月、富山市では、御大典祝賀会挙行後、各町内から山車と仮装行列が町をねる。北新町の行列

富山市周辺の工業化すすむ

三年、不二越鋼材工業株式会社が山室（現富山市）に設立された。五年からは、呉羽・福野・井波・大門 大島・入善に呉羽紡績（現東洋紡）の各工場が設立された。また、八年に日清紡績富山工場が堀川町（現富山市）に設立された。さらに富山市周辺では、工場誘致の促進をはかるため、富岩運河を開削し、新たに二万六千ヘクタールの工場用地が造成された。そこには、日満アルミ・日曹製鋼・日曹パルプ（現興人）、日本海ドックなどの、化学・重工業の工場が建設され、富山北部工業地帯となった。



昭和初期の呉羽紡績（現 東洋紡）工場 呉羽駅に隣接して設立



日満アルミ（現 昭和電工）
初期の富山北部工業地帯の中核になった。



富岩運河掘削のトロソコ

この土砂は神通川廃川地の埋立てに使われ、県庁をはじめ、現在の官庁街に発展した。

一九二七 昭和二

●金融恐慌
ブラジル移民アリアンサ富山村建設○普選初の富山県会議員選挙○民政党県支部の発足○庄川と黒部川の用水合口事業着工○滑川町で電気争議

一九二八 昭和三

普選初の第一六回総選挙○旧制富山高校生の赤化事件○不二越鋼材工業会社設立

一九二九 昭和四

北陸でトーカー初公開

一九三〇 昭和五

県庁舎焼失○県下初、高岡市水道給水開始○小作争議ひん発○県下初の治維法違反事件○富山電気鉄道会社創立

一九三一 昭和六

●満州事変

県下初のメーデー実施○県下の銀行取付けになる○富山連隊、満州事変に出動○富岩運河・富山都市計画事業スタート

一九三二 昭和七

●五・一五事件

富山連隊、上海事変に出動○南弘、通信大臣に就任（本県初の大任）○富山・高岡両市で初の防空演習○県下初の陪審裁判

一九三三 昭和八

富山飛行場、倉垣で開港。翌年東京・富山間定期運航開始○はじめて満蒙开拓団出発○魚津で埋没林発見○高岡の大仏開眼式

一九三四 昭和九

高山線開通○庄川・黒部川大洪水○富山市で日米野球戦

一九三五 昭和一〇

新県庁舎、神通川廃川地に竣工○NHK富山放送局開局○富岩運河完成○歌人川田順、立山に登り、翌年その大作を発表、のち歌集「鷲」登載、第一回芸術院賞受賞

一九三六 昭和一一

●二・二六事件

日満産業大博覧会開催○富山電気ビル完成○富山大橋完成○林喜太郎、越中郷土史刊○翁久允、郷土研究雑誌高志人創刊○日本電力、黒部川第三発電所工事に着工、いわゆる高熱隧道の難工事○県営有峰ダム工事着工（戦争のため中絶）

一九三七 昭和一二

日中戦争勃発、郷土部隊も出動○県会が娼妓廃止決議

一九三八 昭和一三

産業報国会運動始まる○木炭バス走る○志合谷なだれで六五名死亡○氷見町大火○高岡市会に解散命令

一九三九 昭和一四

●第二次世界大戦

東岩瀬港開港場に指定○金供出や廃品回収運動がさかん○富山警防団発足



けふ第十二回メーデー



県内初のメーデー
富山市や伏木町で首切り反対、失業保険をつくれなどのスローガンをカかけ、行進した。

労働者の祭典 メーデー

六年五月一日「聞け万国の労働者」の合唱とともに、県下初のメーデーが富山や伏木町で行われ、十三団体、二百名が参加した。当時の新聞は、「晴れ着を着て、子供を連れた母親の姿は、お祭り気分がふさわしくないと評している。また、「参加者一名に警察官が一名…、まるで警官メーデー」と、厳重な警戒体制ぶりを報じている。

報徳教育具

昭和初期、未曾有の農村不況を脱するため、対策の一つとして、七年三月、県学務部長として着任した遠山信一郎が、二宮尊徳の精神をくむ報徳運動を推進した。村々に報徳社の結成をうながし、報徳道の普及と実践をすすめ、農業の振興をはかった。家畜の飼育や農事改良、玄米食の奨励などの生活改善講習会を行い、あげて農村の再建に取り組んだ。この運動は、モデル的なものとして、全国から注目をあびた。成果のもっとも顕著であったのは、大布施(現黒部市)・中田(現氷見市)・鷹栖(現砺波市)などであった。



報徳研修会 音川村(現 婦中町)の青年たちの研修会



報徳要典
農村振興をめざす、報徳教育の理念と方策を示した書物



ラジオ体操
7年ころから、夏休み期間、町民と児童が共に朝のラジオ体操に参集。10年NHK富山放送局開設時は、聴取世帯は18,552戸。19年には4倍に急増した。



埋没林発掘
8年、魚津漁港整備のおり、発掘された。30年に特別天然記念物に指定



岩瀬浜海水浴場の賑わい
富山市に近く、花火や相撲大会もあり、海浜は人であふった。

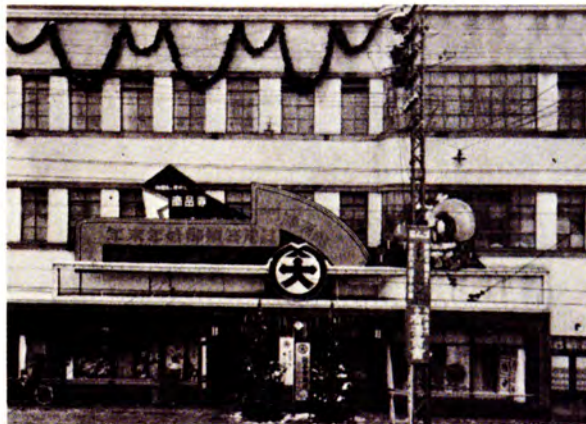


日満産業大博覧会全景
対岸の満州との交流を深めるため開催。
県民こそって観覧した。

日満博にわく人波
富山市中町通りの賑わい



火焰に飛び込むショー
日満博最大のよびもの



宮市大丸・オープン
7年、木造3階建の大型百貨店で、
人気を集めた(現 大和)

富山と満州

昭和六年、満州国が独立して以来、満州(現中国東北地区)に青少年義勇軍を入植させた。本県でも、農家の次男・三男が応募し、十四年末には八二二名にのぼった。同年には郡市農業会が斡旋して、一般から多くの人々が集団移民として満州へ出発した。

北朝鮮の開港もすすみ、羅津・清津・雄基の港が開港し、満州とつなぐ鉄道も敷設された。それ以来、富山県は満州・朝鮮との貿易の活躍舞台となる地盤ができた。満州国への理解を深めるため、十一年四月十五日から六月八日まで、富山市神通川埋立地(現電気ビル西側から市役所にかけて)で「日満産業大博覧会」が開催された。

青春を謳歌する寮祭
旧制富山高校青寮寮生

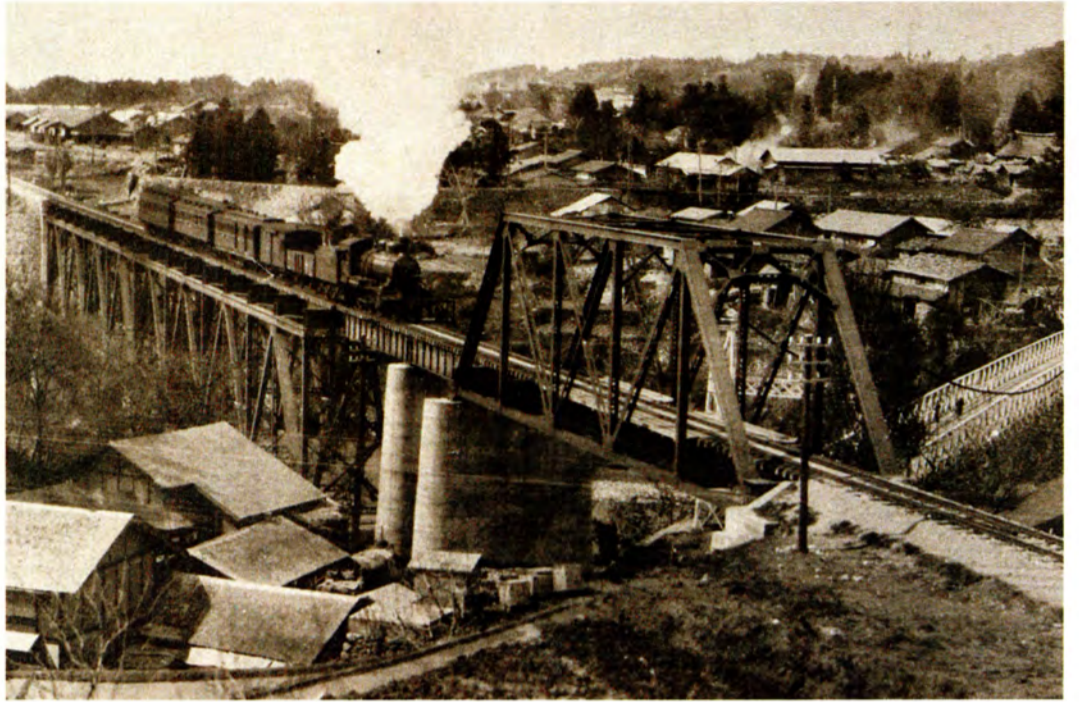


県立 神通中学の落成祝賀
9年、鉄筋造りの新校舎が落成。
東海林太郎(前列左)などの歌手を招き
祝賀会を催す。(現 富山中部高校)

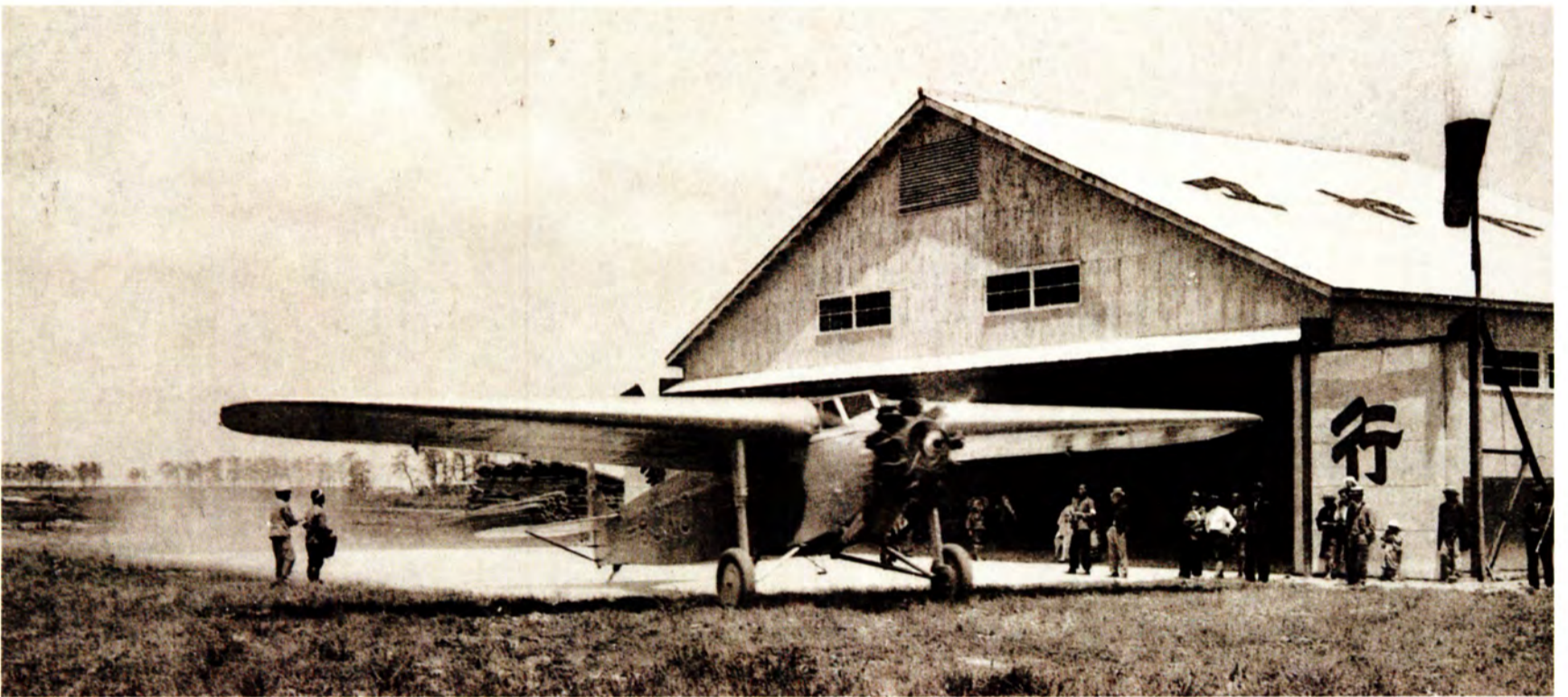




富山市街を行く出征部隊
7年2月、上海事変勃発。富山歩兵第35連隊に動員令くだる。



高山本線全通
9年10月、笹津地内(現 大沢野町)の鉄橋を渡る列車



富山飛行場
8年10月倉垣村(現富山市)に建設され、9年5月 東京-富山間を定期便が飛ぶ

黒部川のはんらん
9年7月、左岸堤防の欠壊が特にひどく、生地(現黒部市)は孤立



ペーブ・ルース来富
9年11月、神通球場で日米親善野球大会が開催された。
このとき待望のホームランをうち、観衆が熱狂

女の馬耕競技会
日中戦争の銃後を守るため、男に代って馬耕



日中戦争で出征する軍人
停車する軍用列車の兵士をねぎらう人びと



農村の季節託児所
農繁期に、臨時に開設された島尾(現氷見市)福善寺の託児所



ちょうちん行列
12年10月、郷土部隊の破竹の進撃により、南京陥落を喜ぶ



国民歌謡
ラジオを通じて愛唱。島崎藤村作詞
「柳子の実」



10年に完成した 現県庁舎
草ぼうぼうの神通川廃川地に
偉容をあらわした。

スポーツの百年



富山県剣道有段者会設立（昭和7年）

全国中等学校柔道大会に優勝
大正10年、京都武徳会で開催。
富山中学（現富山高校）優勝



富山武徳殿
昭和10年、現県庁前公園のところに竣工。空襲で焼失



伝統的な武道

士族の崩壊と廃刀令により、武道は一時衰退したが、武士の独占から広く庶民層に拡がり、町道場が栄えた。明治期、富山市星井町の齊藤理則剣術道場と、荒町の吉田直義柔術道場、高岡市の齊藤雅直剣術道場などが知られた。明治二十九年、大日本武徳会県支部が結成され、心身の練磨をめざす武道振興の中心的役割を果たしたが、終戦と同時に解体された。



太刀山の土俵入り
第23代横綱の太刀山峰右衛門（1877～1941）は、富山市吉作の生まれ。筋骨型で、横綱在位中、84勝3敗。常勝将軍といわれた。



富山国技館落成
富山の相撲熱は盛んで、大正4年富山市総曲輪に国技館を建設。越中相撲協会が管理に当たったが、翌5年惜しくも焼失

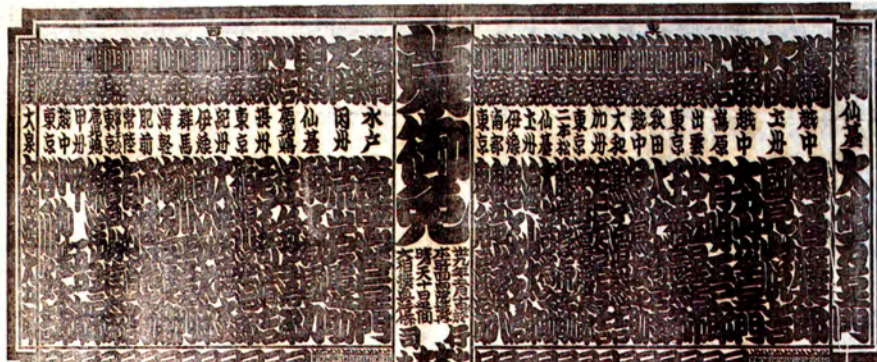
草相撲の番付（明治23年）
力自慢の、しろうと力士の番付。村の大関や町の関脇が、ふんどし1本を自転車の荷台にくくりつけ、付近の相撲大会を荒しまわるといふ風景もみられた。

越中相撲の黄金時代

日清・日露の戦勝と共に、国技といわれた相撲は全盛時代を迎えた。なかでも、明治末から大正にかけての、郷土力士の活躍はめざましい。明治三十六年横綱を張った梅ヶ谷藤太郎、四十四年横綱の太刀山峰右衛門をはじめ、関脇では玉椿憲太郎、黒瀬川浪之助、小結では緑島友之助（双葉山）を育てた立浪親方、射水川健太郎、敷島捲之助ら、キラ星のように並び「相撲とり並ぶや秋の唐錦」の句を思わせた。

地方相撲も、加越能大相撲をはじめ、各町各村で草相撲が盛行。さらに力自慢を競いあう盤持は、昭和初期まで農村部で続けられた。

梅ヶ谷の綿絵
第20代横綱を張った、2代目梅ヶ谷藤太郎（1878～1927）は、富山市西水橋の生まれ。アンコ型で、好敵手常陸山と並んで、「梅・常陸時代」をつくった。



明治39年の東京相撲番付 上位陣にずらりと、越中力士が並んでいる。

新しいスポーツの普及

明治期のスポーツは、武道を中心に心身鍛錬を目的とし、厳しさに主眼を置いた。しかし中期から大正にかけて、野球をはじめ新しい外来スポーツがまず学校にとり入れられ、従来の格闘技型から球技型に大きく変化してきた。野球は、大正以来ラジオ放送による六大学戦や、全国中等学校野球大会などにより、聞くスポーツ、見るスポーツへと大きく転換し、ファンの層を厚くした。また、草野球、少年野球が盛んになり、すっかり大衆に根を下した。

テニス・バスケット・バレー・サッカー・卓球などの新しいスポーツも次第に普及し、昭和三年には富山県体育協会が設立され、社会体育の振興に大きい役割を果たした。二十三年には県民体育大会がスタートし、三十三年には富山国体、五十一年には冬季国体スキー競技会が挙行された。

今日では、スポーツ施設の充実と共に、県民ひとり一スポーツの合言葉のもと、児童サッカー・ママさんバレー・高齢者のゲートボールなど、スポーツを楽しむ人が多し。体力づくりにいそしむ運動広場にあがる歓声こそ、今日の富山県を支える力である。



明治の野球スタイル
31年の写真。きやはんに鉢巻という珍奇ないてちである。



しんきろう旋風
昭和33年、高校野球夏の甲子園大会に、魚津高校は準々決勝で、優勝候補徳島商業と対戦。延長実に18回。観客はその健闘ぶりと試合マナーに万雷の拍手を送った。好投手村椿選手のピッチング

新しい体操・バイカル・ダンス
体操は、古くは心身鍛錬の面のみ強調されたが、大正に入ると芸術的でリズムカルなものがとり入れられた。大正15年、富山市柳町小学校の、バイカル・ダンス。バイカルというから、おそらくロシアダンス風のものだろう。



伏木の遠泳大会
大正4年、高岡新聞主催で、燈台下から島尾までの遠泳に、42名参加。明治の観海流、水府流などの水線は、このころから新しい水泳に脱皮する。



城端のイカダスキー（大正4年）
雪国ゆえに、スキーは単にスポーツにとどまらず、実用もかねて活発だった。大正に入ると新しいスキー法が広まったが、今からみればまだまだ幼稚なものだった。



女の団体初の立山登山
女人禁制といわれた立山も、大正8年富山女子師範と県立富山高女の団体登山で破られた。以来、信仰の登山からスポーツの登山へと、質量ともに変化する。



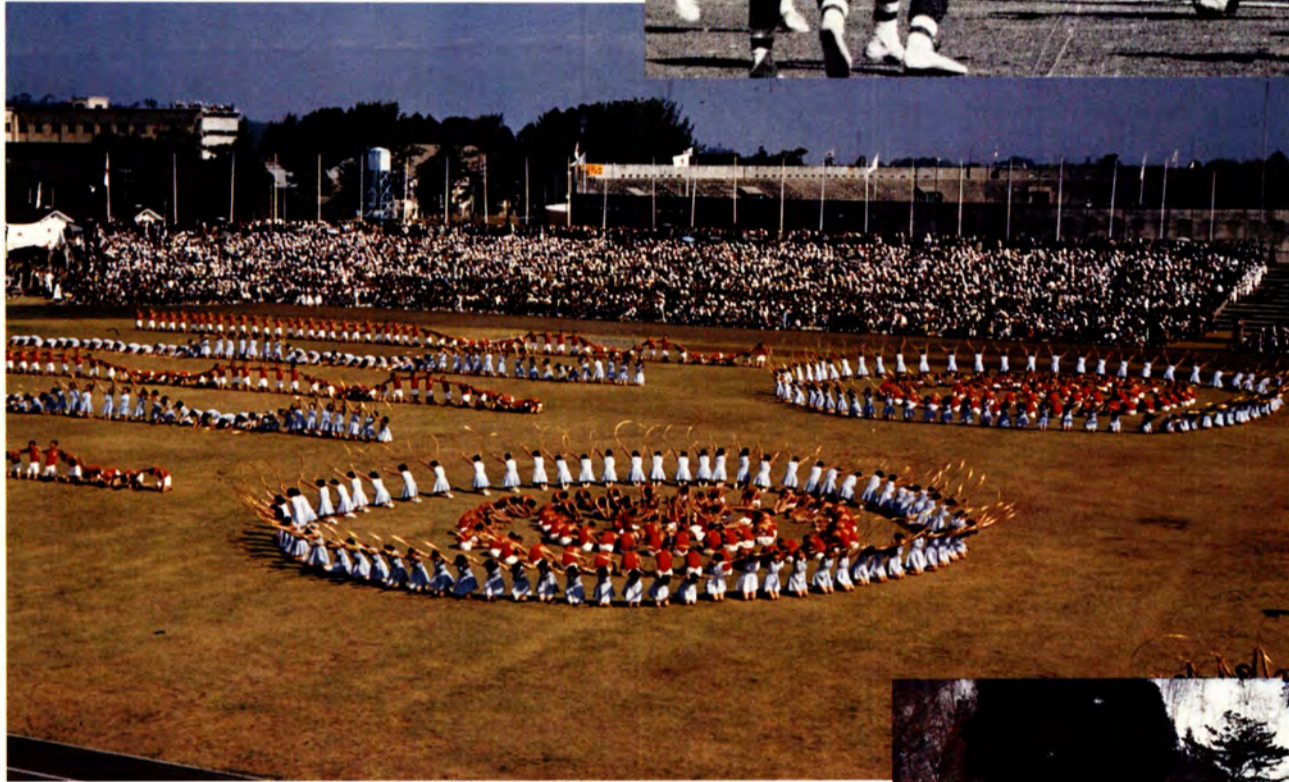
県立高岡高女の庭球チーム
大正13年、第5回全国女子中等学校庭球大会で優勝。庭球は、まず高専から中等学校に広がり、モダンなスポーツとして、社会人、特に婦女子にも輪を広げた。



登山研修所でロック・クライミングの実習
全国で唯一の国立登山研修所が、昭和42年、立山町千寿ヶ原にてきた。

富山国体開会式

昭和33年、第13回国民体育大会は、県下一円で華々しく開催。初の民宿国体として名を挙げた。秋空のもと、県営陸上競技場にくりひろげられるマス・ゲームの壮観



小矢部市のホッケー

富山国体でホッケーの会場になって以来、小矢部市ではホッケー熱が高まり、目覚ましい成績をあげている。

おおやま国体

昭和51年、第31回国体冬季大会スキー競技会は、大山町の極楽坂と粟巣野両スキー場で開催



ママさんバレー

家庭婦人のスポーツ熱が、いちじるしく盛んになった。昭和56年・宇奈月町



富山県



歩け歩け運動

家族そろって健脚を競う、八尾町福島児童クラブ。昔は「山ゆき」とか「ハイキング」とかいった。

県民スポーツ大学校

昭和52年から、国際的優秀選手を講師として、広く県民一般にスポーツを普及



ゴンドラ・スキー場

立山山麓レクリエーション計画の一環として、昭和52年、大山町本宮に開設された県営スキー場

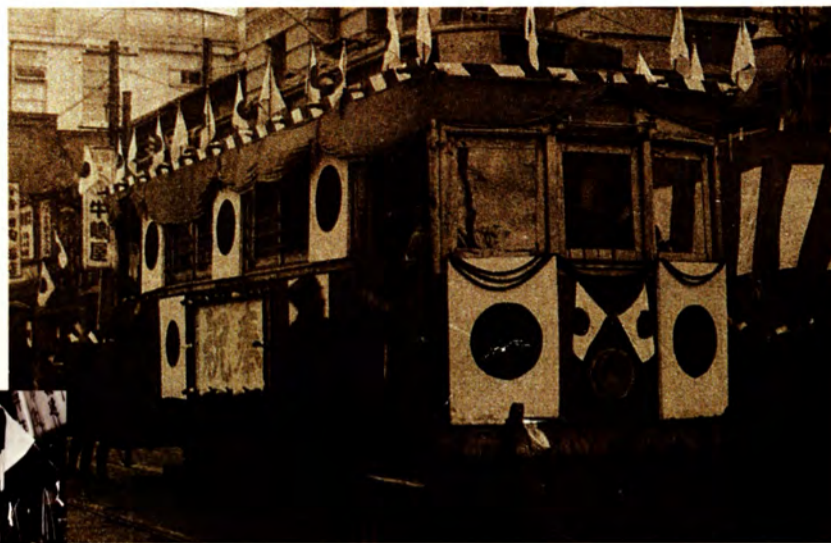


県鳥・ライチョウ

昭和36年11月制定。雷鳥は、日本アルプスだけに住む鳥で、昭和30年には特別天然記念物に指定されている。「立山神のお使い」として愛され、古来数多くの詩や歌にも詠まれている。雷鳥の衣がえは有名で、冬には尾羽の一部を残して純白の姿となる。人間をあまり恐れず、岩肌を悠然と歩く姿には気品がある。きびしい山岳地帯に住むことから、一名寒古鳥とも呼ばれ、かん難辛苦によく耐える越中魂を象徴するような鳥である。

6 統制の時代

昭和十五年〜二十年八月



富山市内を走る花電車
15年11月、紀元2,600年を祝って富山市内を走った。

15年11月、高岡公園広場に集まって祝賀



つり鐘も応召
富山市内の寺院から21個の梵鐘が供出された。



戦時の集団通学
ラッパを先頭に、隊を組んで登下校。ソウリ履きの児童が多い。



さようなら贅沢品

昭和十五年は紀元二千六百年に当り、各市町村では奉祝の行事が盛大に行われた。一方では日中戦争の長期化により、戦時国策による一果一紙の新聞統制が行われた。県内では富山日報・北陸日日・北陸タイムス・高岡新聞の日刊新聞四社が合併、八月一日から北日本新聞を発行した。

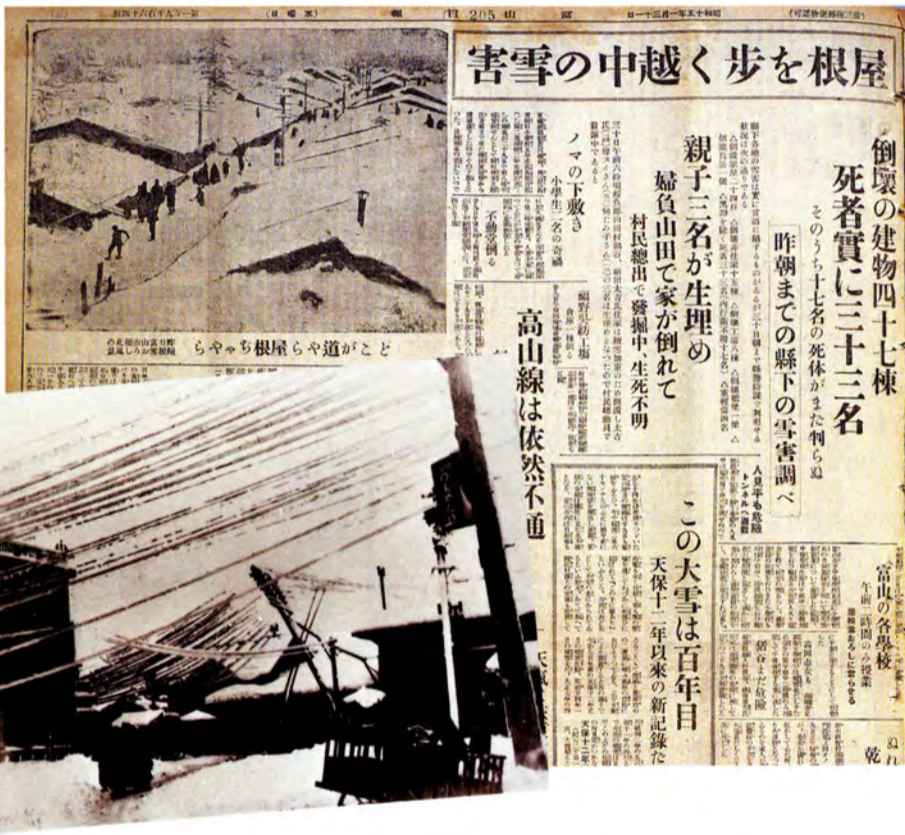
七月七日、商工・農林両省令で、「七・七禁令」が施行された。同日付の富山日報には、「さようなら贅沢品」の見出しで、戦時下の国民生活に必要な物資の増産・購買力の抑制、貯蓄強化・公債消化をはかるなど、その目的を大きく鼓舞している。これがやがて「欲しがりません勝つまでは」となり、国民生活のなから華やかなものが、すべて虚飾として追放された。

七月に「金属類特別回収富山県実施要綱」が制定され、各機関にその徹底を達した。県民は、「戦場に活かせる銃後の鉄と銅」を合言葉に、金属製品を供出した。

県民道場
16年、福沢村(現大山町)に設置。心身練成のため開墾にはげむ青年師範の学生



15年の大雪(高岡市)
電線に雪が凍りつき、電柱が倒れた。



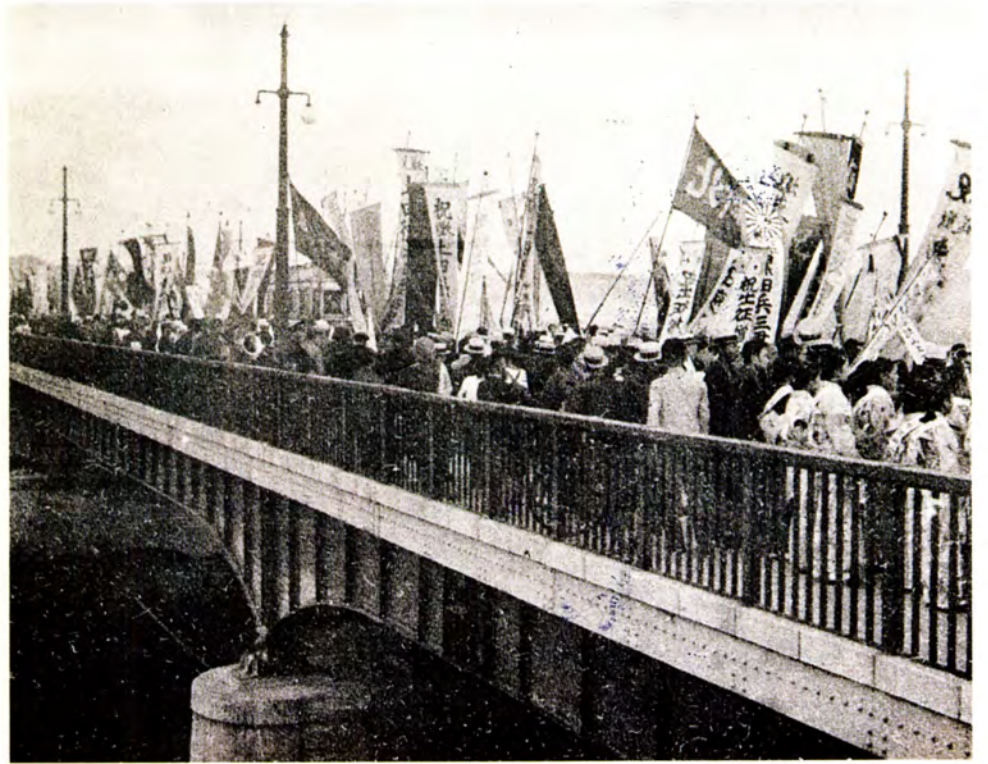
女学生のなぎなた操法
女学生に「撃ちてしまん」の精神と身体の練成のため、体育の時間になぎなたをとり入れた。



- 一九四〇 昭和一五
 - 日独伊三国軍事同盟締結
 - 紀元二千六百年記念式典
 - 大政翼賛会結成
 - 大雪
 - 地方紙の統合で北日本新聞誕生
 - 富山県立図書館開館
 - 黒部奥の阿曾原でなだれ事故二八名死亡
 - 町村合併のトップ、桜井町誕生
 - 砂糖などの切符制と県民生活へからず集発表
 - 大政翼賛会県支部発足
 - 大平洋戦争突入
- 一九四二 昭和一六
 - 富山県民道場設置
 - 飯米配給制
 - 国民学校発足
 - 配電統制で北陸合同電気会社誕生
 - 富山薬品統制株式会社創立
- 一九四二 昭和一七
 - 県地方事務所設置
 - 国泰寺の単独宗制許可
 - 富山県営電気事業閉業
 - 県食糧営団発足
 - 交通統合で富山地鉄発足
 - 合同製薬会社創立
- 一九四三 昭和一八
 - 県下の四銀行統合し北陸銀行誕生
 - 泊事件
 - 戦時生活相談所開設
- 一九四四 昭和一九
 - 集団疎開児童来県
 - 不二越など富山県の一六社軍需工場に指定
- 一九四五 昭和二〇
 - 米空軍、富山湾に機雷投下して港湾を封鎖。機雷爆発のため卯尾田代議士即死
 - 富山市空襲で大半が焦土化
 - 志田義秀俳諧蔵書志田文庫、富山県立図書館に設置
 - 新聞統制で一県一紙となる
 - 歌人吉井勇、八尾町に疎開、滞在中の詠作は「流離抄」「寒行」に収む
 - 棟方志功福光町に、織田一磨福野町に疎開
 - ポツダム宣言受諾



戦没軍人無言の凱旋
歩兵第35連隊 富士井部隊の戦没者遺骨富山に帰る



富山の連隊に入隊する兵士を送る人なみ
富山大橋は、当時連隊橋ともよばれた。

太平洋戦争へ突入

十五年「新体制運動」と銘うって「大政翼賛会富山県支部」が組織され、三つの運動目標を定めた。「各人生活の新体制」では、公益優先の実践を強調した。「家庭生活の新体制」では、貯蓄・増産・早婚の奨励・生活の簡素化。「国民組織の新体制」では、隣保班・町内会の強化であった。

十六年、米英が日本資産を凍結し、つづいて米国が対日石油輸出を禁止し、日本はますます重要資源の不足をきたした。同年十二月ついに太平洋戦争となり、郷土部隊をはじめ多くの兵士が戦場にかりだされた。

開戦当初、連勝をつづけた戦況は、次第に不利となり、国民生活はますます耐乏を強いられるようになり、県内一斉に、金属回収が行われ、つり鐘をはじめ銅像から火鉢に至るまで、供出した。



大政翼賛会
15年、富山県支部を結成。
高岡市瑞龍寺での幹部研修



空襲にそなえて
マスクとモンペ姿で水をバケツリレーする、富山市小島町の防空演習



空襲警報の看板
空襲警報発令中の掲示

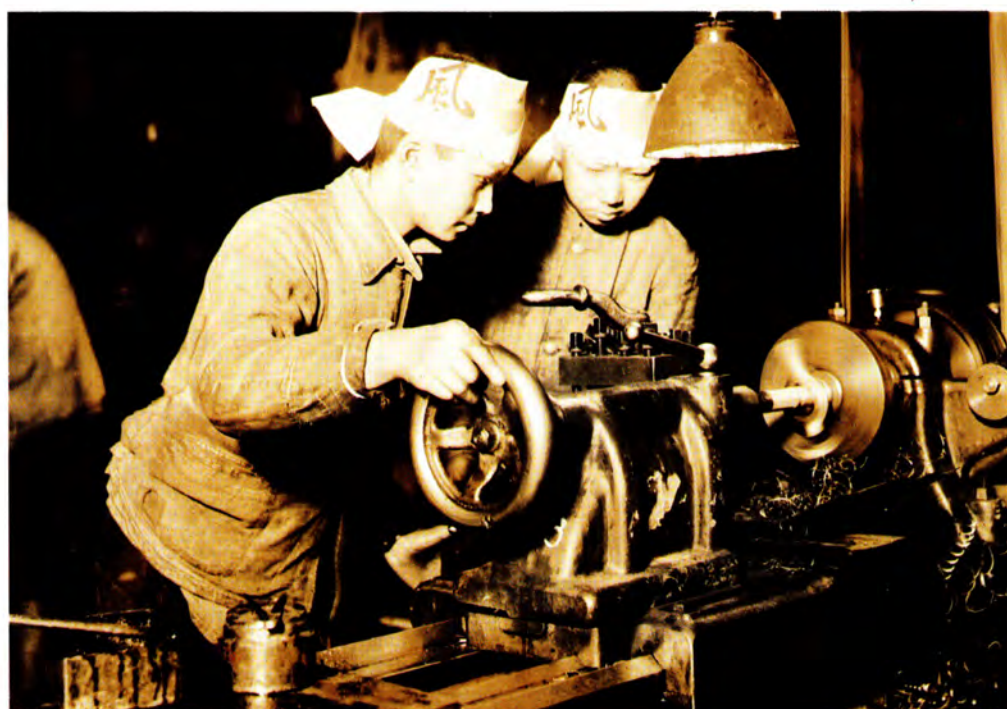


戦勝祈願
モンペ姿で、礼拝する高岡市民

勤勞奉仕
 上市農林学校(現 上市高校)生徒
 による河川工事



感謝状
 学徒勤労働員に与えられた感謝状



「かみかぜ」の鉢巻で生産にはげむ学徒
 軍需工場に指定された不二越で、軍用機の部品を作る。

言論統制と学徒動員

十七年、県内の電気会社が北陸配電に統合。十八年、地方銀行の合併もさかんとなり、県下四行が合併して北陸銀行となった。

このころ、言論・思想・出版物の統制が、いちだんと強化された。朝日町出身の細川嘉六の論説を掲載したため、雑誌「改造」が発禁となった。

十八年、労働組合を解消し、大同団結して労使協力の「大日本産業報国会」が創立された。

同年八月、呉羽紡績は、陸軍航空本部から、木製飛行機組立工場として指定をうけ、翌年から航空機の製作を始めた。

このころ、学徒勤労働員がはじまり、学業を離れて、不二越や魚津の日本カーバイドなどの工場で、生産活動に専念した。女子も挺身隊として働いた。



兎なべ20銭
 牛肉の代用品として、兎肉の登場



女子挺身隊
 働く女性たちのラジオ体操

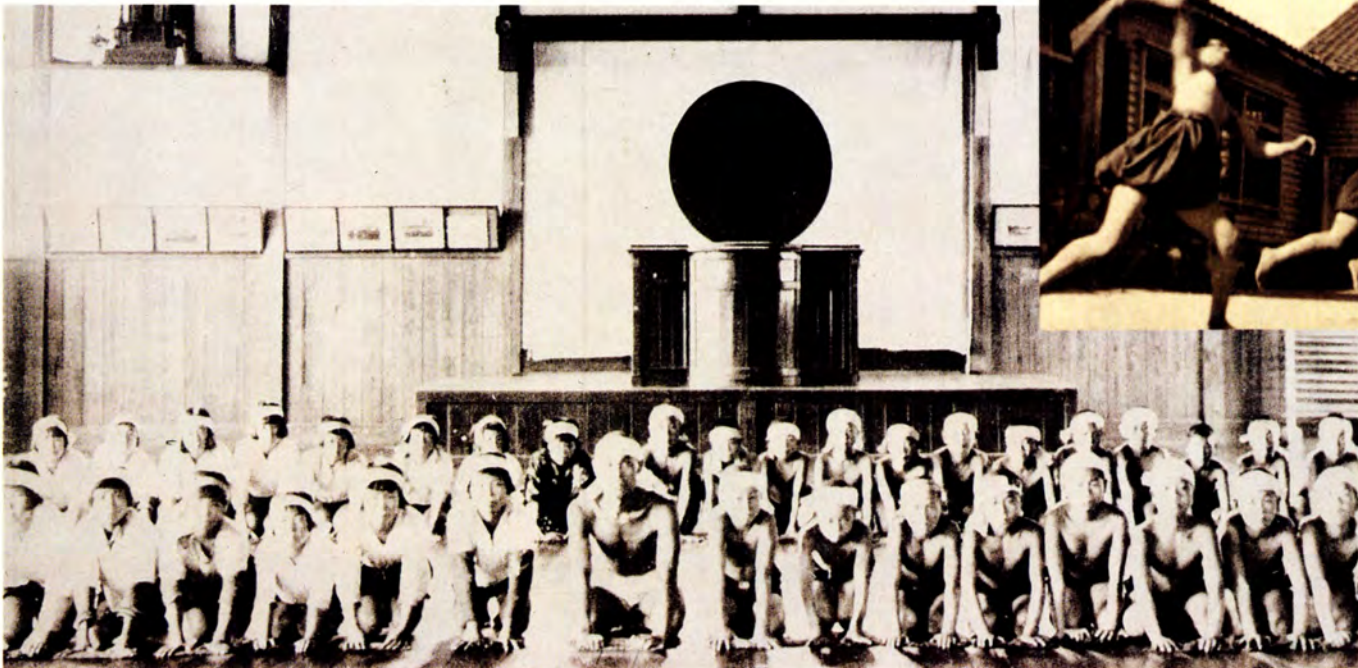


千人針
千人の女性の手を経た胸巻は、敵弾を避け得るといい、肉親のために、街頭で1針ずつの縫いとりを求める婦人



慰問袋
国防婦人会津沢(現 小矢部市)分会員による、慰問袋の作成

師弟同行
教師と生徒が一体となって、講堂の床みがき、勤労奉仕などにより、師弟同行の教育理念を実践した。18年、櫛山小学校(現入善町)



手榴弾投げ
緊迫した戦時下、手榴弾投げを練習する女子児童



立山号
7年、県民が地域・職域ごとに献金して、陸軍に献納した飛行機



校庭の開墾
食糧増産のため、グラウンドを耕し菜園にする、入善小学校の児童たち

富山大空襲

十九年、東京都の児童一万五千名が集団疎開してきて、主に県下の各寺院がその宿舎にあてられた。総力戦の長期化によって、十八年後半から配給制も名のみとなり、非農家はヤミ米の買出しをよぎなくされた。十一月に砂糖・マッチなどの配給切符制となり、生活はますます窮乏を加えた。

富山市は、二十年八月二日未明から、B29約七〇機の来襲を受け、焼い弾・爆弾の雨を降らせ、市の大半は灰燼に帰した。罹災世帯二四、九一四、罹災者一〇九、五九二人、死者二、二七五人。地獄絵の惨状を呈し、焼け残ったのはわずかに県庁・電気ビル・興銀のみであった。



学童疎開 空襲にそなえ東京から疎開してきた児童たち



学徒の出陣
出陣直前、水兵（戦死）となった友を囲む同級生。当時16歳。八尾町諏訪神社前

米空軍の空襲予告ピラ



焦土と化した富山商店街
外壁を残した、大和百貨店を望む



戦災をうけた富山市
20年8月2日午前零時15分ごろ、B29の編隊の空襲により富山全市の大半は灰燼に帰した。



戦時下のくらし

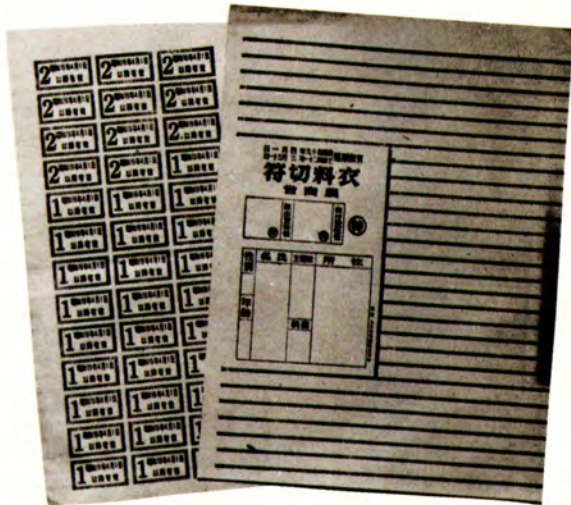


婦人忠告隊
「ぜいたくはやめましょう」の注意カードを手渡す婦人

欲しがりません 勝つまでは

昭和十五年、富山・高岡の婦人団体は、忠告隊を組織し、「ぜいたくな服装はつしみましょう」のカードを、道行く人へ手渡した。「欲しがりません 勝つまでは」の標語のもとに、「耐乏生活」がはじまった。このころ、米・ゴム靴・砂糖・マッチなどの十四品目が統制となり、十五年にできた町内会を通して、各家庭に配給された。衣料も切符制となり、新調は困難となった。

当時ラジオから「トントントンカラリと隣組 あれこれめんどろ味噌醤油」の歌声が町内に流れた。窮乏生活のなかにも、軽快なりズムは、人びとの心をなごませた。



衣料切符
切符を持たないと、衣服や布地は買えず、のちに糸まで不足した。



代用食
18年、米の代用として、大豆や芋類が配給となり、豆ご飯・芋雑炊などが常食となった。

国民服

15年ごろ、国民服が制定され一般化し、背広は次第に姿を消し、男子は軍事色のカーキ色一色となる。

乙号
普段用



甲号
礼装用



モンペと防空ずきん
和服を改良してモンペとし、活動的な服装になった。



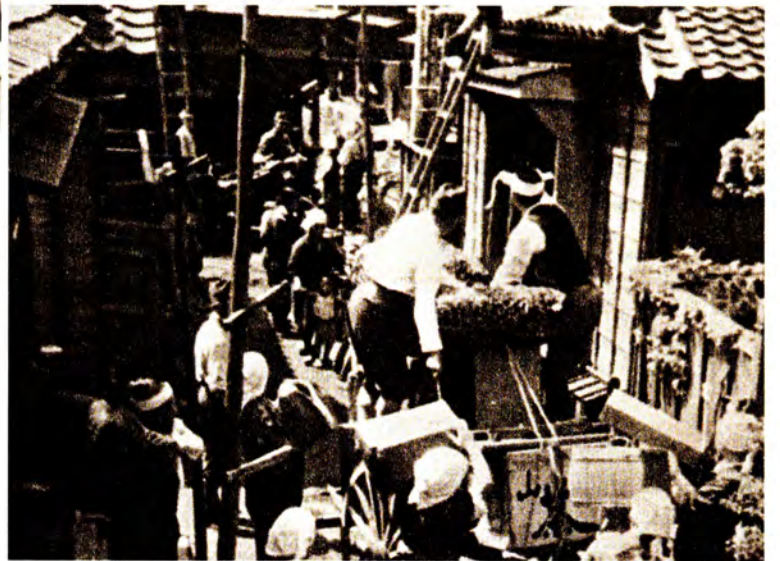
つけ木
マッチが統制となったため、代用品とし、昔のつけ木が登場



城端別院の疎開児童
両親から遠くはなれ、本堂で
食前の合掌をする児童



学徒勤労隊
19年、決戦非常措置により、
工場で増産にはげむ生徒



密集家屋のとりこわし
空襲にそなえて、家屋のとり
こわしや家財道具の疎開



木炭車
薪をたき、煙にむせながら
発車までには苦労が多かった。



稲刈り勤労奉仕
18年ころから、応召軍人留守宅の
稲刈りを手伝う。

耐乏の日々

十六年の開戦により、灯火管制がひかれ、広告灯・門灯は消され、夜の街は淋しくなった。十八年、空襲に備えて町内毎に防空壕を掘り、避難訓練が行われた。玄関脇には用水桶と砂袋・バケツ・火たたきを備え、ガラス戸に目張りをした。外出には防空頭巾をたずさえ、男は巻ききやはん、女はモンペ姿となった。

特に消火のためのバケツリレーや、被災者救護の担架操作の訓練が実施された。

在宅の男子、未婚の女子は徴用され、軍需工場で働くようになった。十八年八月、滋賀県からも女子挺身隊六十名が、不二越工場に派遣されてきた。

十九年三月、配給米の量は極端に減少し、一人当り二合三勺の米も欠配となり、代用食として豆や甘藷などが配給された。白米の飯は銀飯といって貴重であった。食糧不足を補うために、公園・校庭・空地が菜園化した。

ガソリンが不足しはじめ、十四年から、木炭自動車が出現。ガス発生炉に薪をくべて走った。お金では品物を買えず、非農家は食糧となけなしの衣料とを交換した。また、空襲にそなえ、県民は主な家財道具を、農村の親戚知人などに疎開させた。



一升ビンで米つき
配給米を、食べやすくするため棒で
ついて、精白した。

7 混乱から開発へ

昭和二十年九月～三十二年

鈴なり列車
買出しや通勤・通学で、数少ない列車はどれも超満員



混乱から立ち直りへ

二十年八月十五日、戦争は終わった。敗戦後の苦しい暗い生活は、物資の欠乏、なかでも食糧危機そして悪性インフレに悩まされた。配給制は名のみであった。

鈴なり列車の通勤・通学に耐え、食べ物や買出しや、ヤミ市の利用によって、どうにか飢えをしのいだ。

この中で戦地から復員軍人や引揚者が帰ってきた。富山にも進駐軍がきて、戦後処理、わけても民主化の徹底を指示した。富山市では、焼け野原のあちこちで堀っ立て小屋が建てられたが、その建設ぶりは全国一に速いといわれた。



承諾必謹
20年9月、終戦による県民の不安動揺を防ぐため、天皇の詔書や知事の告諭をのせて、県内に配布した。



富山市の焼跡
市内電車線路の両側は、瓦れきの山。遠くに大和百貨店が見える。



焼跡の街路を行く婦人たち
もんぺ姿で、にぎり飯を運ぶ



檜原引揚寮
戦地からの引揚者の家族たちが入居した細入村の檜原寮



シベリヤから復員
舞鶴に上陸した郷土出身者を、県から出迎え、その労をねぎらった。



戦後のメーデー
労働者の祭典は赤旗を先頭に市内行進して、華やかに行われるようになった。富山市



ヤミ市繁盛
戦後の物資不足のとき、公然とヤミ売買が横行。配給価格の数倍はするが、ここには何でもあった。富山駅前

進駐軍
談笑する兵士と子供たち



DDTでしらみ退治
終戦直後、よく髪や毛・下着類に寄生したしらみは、進駐軍からのDDT散布で退治



高岡市長が駅に進駐軍を出迎え
20年10月28日 高岡駅頭で握手する木津市長

一九四五 昭和二〇
一九四六 昭和二一
一九四七 昭和二二

一九四八 昭和二三
一九四九 昭和二四
一九五〇 昭和二五

一九五一 昭和二六
一九五二 昭和二七
一九五三 昭和二八

一九五四 昭和二九
一九五五 昭和三〇
一九五六 昭和三一

一九五七 昭和三二

- 連合国軍、昭和二十七年まで県下に駐留
- 日本国憲法公布
- 富山新聞発刊○富山県労協結成大会○富山県食糧人民大会○最初の富山県美術展覧会開催
- 地方自治法施行
- 労働三法制定
- 新制中学校一〇五校発足○県知事、市町村長の公選始まる○天皇、北陸巡幸○農地改革始まる○初の女性県議誕生○富山・高岡で初の婦人警官採用○このころからパチンコ流行
- 朝鮮戦争勃発
- 県営富山球場開場○ジェーン台風で県下に大被害
- 新湊町、高岡市から分離独立
- 講和条約、日米安全保障条約調印
- 新湊市誕生○高岡で産業博覧会開催○富山市官競輪開設○電力事業再編成で北陸電力発足○黒部川流水客土事業着工○高岡市立美術館開設(本県美術館の始)
- 魚津市・氷見市誕生○富山県総合開発計画策定○北日本放送開局
- 町村合併すすむ○産業教育館設置○県下にクマ出没、各地で負傷者続出○富山市総曲輪通りアーケード完成
- 自衛隊発足
- 滑川、黒部相ついで市制実施○砺波市誕生、氷見は一郡一市に○富山大産業博覧会開催○富山県警本部発足○立山ケーブルカー開通○チューリップを県花に選定○神通第一・第二発電所竣工○富山市公会堂落成○富山城を再建し、富山市立郷土博物館開設(本県博物館の始、全国城ブームのさきがけ)
- 初の人間国宝に新湊出身の陶芸家石黒宗磨指定○初の全国チンドンコンクール開催○富山大学薬学部にアイソトープ研究室設置
- 日ソ国交回復
- 日本、国際連合に加盟
- 呉羽山に天文台開設○第一次南極観測隊に県人七名参加○魚津市大火
- 県営陸上競技場完成○富山地方気象台開設○国立職業補導所、高岡に設置○山田孝雄文化勲章受賞○高岡で原子力平和利用博覧会開催○富山県章制定

民主化への脱皮

二十二年には食糧の配給は少しくなった。天皇の県内行幸があり、人間天皇として各地で熱烈な歓迎があった。新憲法の施行・県知事の選挙・男女同権、そして女性の県議や婦人警官の登場など新しい息吹が目立った。

初代民選知事 館 哲二
22年4月、新しい自治法の施行により、知事は県民の直接選挙で選ばれた。以降高辻武邦(昭23～) 吉田 実(昭31～) 中田幸吉(昭44～) 中沖 豊(昭55～)に至る。



県議会に初の女性議員
22年の選挙で、氷見の池淵 正が最高点で当選

天皇の県内行幸
22年10月、県内を広く御視察。富山市岩瀬、昭和電工の工場内でも熱烈な歓迎を受けられた。



男女同権運動
民主主義思想が広まり、男女同権を叫ぶ婦人運動始まる。富山市



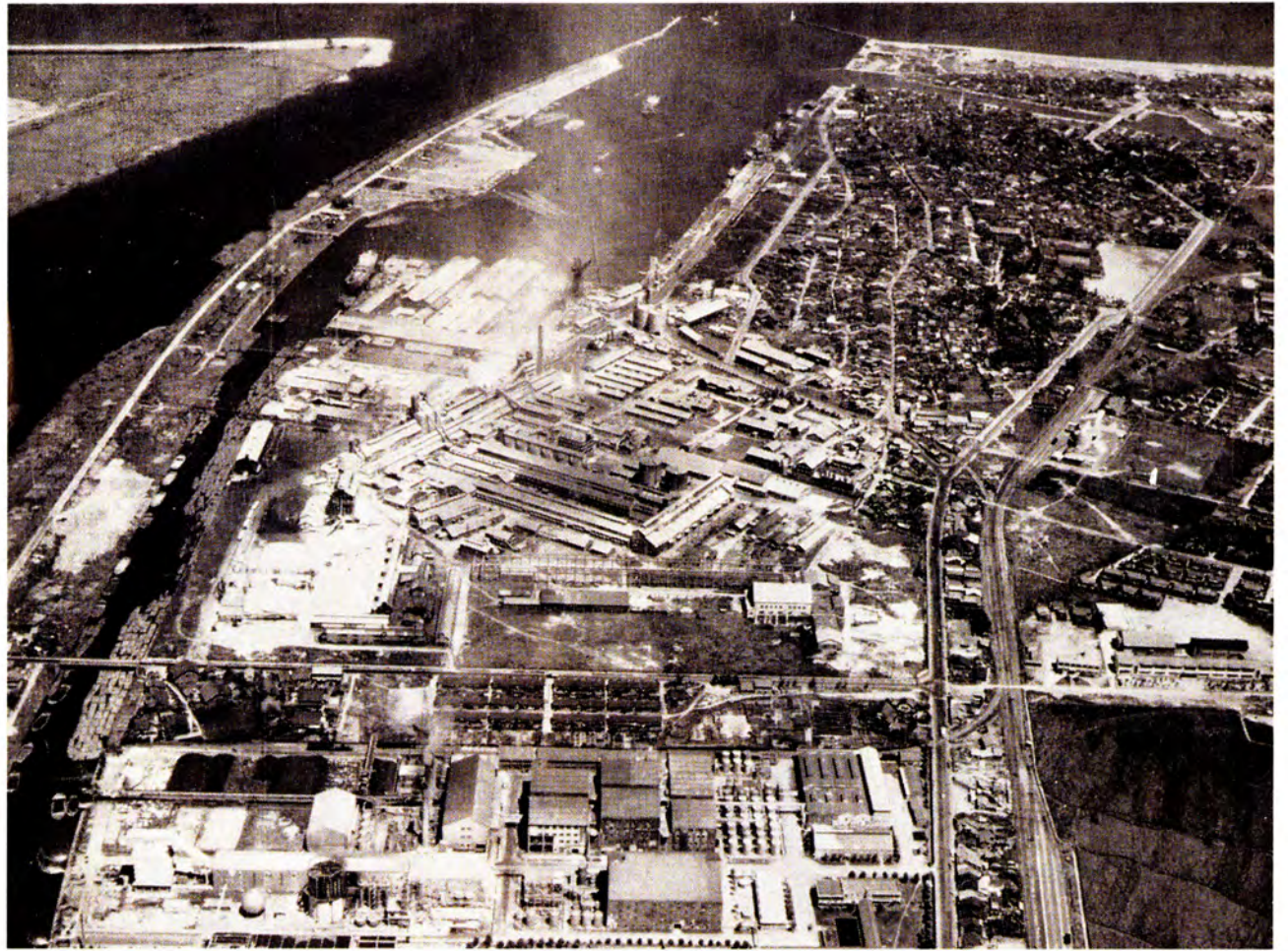
婦人警官の登場
22年、富山・高岡両警察署に配属



供出米の促進運動
農村に割当てられた供出の米は、消費者には1日も早く来るように待たれた。



警察の民主化
子供たちの道路横断を親切に指導



平和産業の富山市北部
工業地帯
倉敷レーヨン（手前の
工場）の進出

4Hクラブ

戦後、新しい農村の建設を背負って活躍する、青少年たちのつどい



流水客土

新しい土壌改良法。黒部川流域で行われ、生産を増強した。
稲の穂落ちを防ぎ、生産を増強した。



庄川筋の電源開発ブーム
成出発電所の建設。上平村

復興への足音

農村では、農地改革の実施、農業協同組合の普及、農業技術の発展がみられ、稲作の盛んな本県では、二十六年、二十九年、三十年に米作り日本一の農家が誕生した。

工業は、戦後は資材もなく、麻ひ状態になったが、まず肥料工場や繊維産業が復活した。二十五年の朝鮮戦争の特需景気は、経済に活気を与えた。また工業奨励措置がとられ、大工場が富山・高岡に進出してきた。

他方では、労働組合の組織化が進み、労働者の祭典のメーデーが活発になった。労働争議もたびたび起ったが、二十二年、二・一ゼネスト決行直前に、ついに占領軍司令部から禁止令が出て、全官公共閣議長の伊井弥四郎（富山市水橋出身）は、ラジオを通じて涙をふるって、全国に中止をうたった。

各地に新時代をつくる文化活動がおこり、よくダンスパーティーが開催された。六・三制が実施され、新制の富山大学が誕生した。二十七年に母船式サケ・マス漁業の再開が許され、北洋漁業が甦った。

こうして戦後の混乱を克服して、民主化と復興が進んだ。町には、汚れた軍服やもんべに代って、派手な服装が見られるようになった。富山市では、この十年近くの間で、堀っ立て小屋の改築が続き、町並みも整った。

富山産業大博覧会（29年）
富山城址を中心に、復興の富山市が、電源開発によって躍進する姿を展示した。



高岡産業博覧会（26年）
古城公園を会場として、高岡の産業復興と市勢の発展を目指した。



県総合開発計画書
膨大な開発資料を7冊の書物に
まとめ、全国から注目された。

氷見市の祝賀式
町村合併が進み、27年8月、氷見は市
となり、29年4月、全国でも珍しい1
郡1市となり注目された。



北洋サケ・マス漁業へ再び出発
魚津・黒部方面から、毎年春に
勇躍出港



魚津の大火
31年、フェーン現象により、市の大半を焼失



全国に先んじて総合開発へ

二十七年に、富山県総合開発計画が、全国に先んじてたてられた。電源開発を中心とした計画県政の発展が図られることになり、積極的な開発の時代に入った。

産業の発展のため、富山・高岡で産業博覧会が開催され、富山駅の改築、地鉄笹津線、射水線の富山西町乗り入れ、バス路線の拡大によって、交通網が整備された。また市町村の合併が進んだ。商店街では、アーケードやネオンの施設が整えられ、県営球場や公会堂が建てられた。また町々にパチンコ、映画が流行した。映画館は三十八年ごろ八〇を数えた。

生活が落ちていくと、職場の慰安旅行があらわれた。一方、社会福祉が進み、生活保護や、身障・母子対策が整備された。児童のための保育所が各地に設けられ、保健所の拡充も行われた。火災や台風・洪水などの被害はしばしばあったが、防災工事が進むに従い、災害は少なくなった。



パチンコ店繁盛
子供の遊びから始まったが、広く庶民大衆に愛好されるようになった。



富山市のチンドンまつり
全国からチンドン屋が集まり、町々をねり歩く。



県木・タテヤマスギ

昭和41年10月1日制定（富山県告示第861号）。大阪万国博を記念する「都道府県の木選定運動」に賛同して、県民の投票によって選んだもの。富山県の象徴である立山を中心とする山岳地帯に自生する。日本に自生するスギ類中最高地帯に自生し、寒さや雪に強いという特徴をもっている。材質は強じて、建築材として喜ばれる。用途の広さとともに、雪と寒さに強いという特徴から、県内では広く植林されており、県内造林面積の80%以上はタテヤマスギが植えられている。

新生のいぶき

モンペからスカートへ

終戦後、空襲のため灰燼に帰した富山市街の焼跡には、ポツポツとバラックが建ち始めた。海外からの引揚者や復員軍人が縁故をたよって続々と帰還した。主食の配給も一時、皆無となり、県民は食糧難・住宅難・失業・インフレなどで苦しんだ。

二十一年富山市には、富山駅前・総曲輪・大手前・山室など、その他県下には二十カ所もヤミ市といわれる自由市場が出来た。当時ヤミ市には、衣類から草餅にいたるまで、品物が豊富であったが、高価で入手は困難であった。

長い戦争から解放された若者たちは、自己表現の手段として、演芸会を盛んに開き、暗い世相の中に明るみを見出そうとした。二十三年ころ、富山・高岡などに輪タクが登場。市民の足となった。二十五年には、衣料切符の統制がとかれ、次第に衣類もまわってきた。女性のモンペ姿も、フレアスカートにかわりはじめ、街も華やかさをとり戻した。

戦後の新しい生活が形成されたのは、二十七年前後から、家庭電気器具の普及に象徴される、電気洗濯機はそのいちじるしい例であり、二十八年には掃除機、二十九年にはテレビがはじめたが、一般に普及し始めたのは三十年以降であった。



焼跡のバラック建
空襲の焼跡に、焼け残りのトタンでかこったバラックが建った。

焦土に立つ母と子
空襲直後の富山市は、茫漠たる荒野の感を呈した。



外食券
外食する時は、農林省発行の券が必要であった。



戦後の総曲輪通りの復興 戦災都市の中で、富山市は、他県にくらべ復興が早かった。



婦人参政権 21年、婦人参政権が認められた。投票場には、婦人の立会人もみられる。



青年団の演劇
戦いから解放された若者たちの、のびやかな自己表現。28年、八尾町青年団



フレアスカート
モンペを脱ぎ捨てた女性の、かろやかな姿が、見られるようになった。



社交ダンス
22年3月、ワルツ「宵待草」を踊る、富山市立高等女学校の、教師と生徒による卒業パーティ



猪谷つり橋墜落
24年9月22日、一瞬にして、教師29名の犠牲者をだした。



電気洗濯機
27年ごろから売りだされた。



テレビ
29年ごろから発売。当時は珍しくて、店頭に人だかり。

8 日本海時代へ

昭和三十三年～四十七年



特急 白鳥
36年、大阪から富山を通過して、青森に通じた。



富山空港 開港
富山市街地に近く、神通川の河川敷を利用して開設。富山・東京間の定期航空路が開かれた。

富山新港の開港

三十三年には、富山新港建設の調査が始まった。日本の経済成長に裏づけられて、富山県もにわかに活気をみせてきた。三十年代は、大平洋ベルト地帯の工業集積が進んだが、日本海側では、石油など海外資源の活用面、とくに港湾や交通機関、工業基盤整備の立ち遅れが目立った。それで道路や鉄道の整備が進められ、富山、伏木港の整備、そして三十六年から富山新港の建設が進められた。



太閤山ニュータウンの建設
小杉町南部の丘陵地帯に、広大な住宅団地を計画。大学や研究施設も設置



テレビの父

正力松太郎

(一八八五～一九六九)

テレビは、われわれの生活にとけ込み、必需品になっている。日本テレビ会長として、普及に尽くした正力松太郎は、大門町に生まれた。東大法科を卒業して警視庁へ入ったが、大正十三年請われて読売新聞社長となり、ラジオ番組欄や、囲碁・将棋欄、婦人欄、宗教・科学欄を拡げて、経営のたて直しに成功した。また読売ジャイアンツをつくり、昭和二十七年日本テレビ（予備免許第一号）をスタートさせた。衆議院に出馬し、国務大臣、科学技術庁長官、原子力委員長に就任。

「つねに大衆と共に歩くことだ。新聞ばかりではない。自分がいとも大衆の一人であることを忘れてはならない」この言葉は、実業家正力、政治家正力の真髄である。



新産業都市
39年、富山・高岡地区が指定された。

旧放生津潟
富山新港が建設される以前の風景。
潟の中央に弁天島があった。



港口 切断
42年、富山新港の入口が新湊市堀岡に造られ、道路や射水線が切断された。代りにフェリーが就航し、迂回路が建設された。

富山新港
43年4月21日、日本海時代開拓への拠点とする
願いをこめて、掘込式港湾の富山新港が開港



富山新港開港記念碑（新湊市）
万葉の歌枕・奈呉の江は、新港に
生まれ変わり、日本海時代の幕明け
に役立つべきことを碑に刻んだ。

新港背後の臨海工業地帯
アルミや木材のコンビナート
を中心とする、大工場の群

三十九年に、富山・高岡地区が新産業都市に指定され、新工業地帯の開発が急がれた。臨海工業コンビナートを主体とする拠点工業都市の建設、その最大のきめ手は、大型船の停泊できる富山新港の完成であり、四十三年開港になった。日本海時代の幕明けを告げるものとされた。新港背後に広大な工場用地が造成され、住友アルミをはじめ、多くの工場が進出してきた。和田川総合開発、太閤山ニュータウンの建設も、これに応じて進められた。アルミ産業が伸び、機械工業が成長した。富山新港に、ソ連から北洋材が多く輸入されて、わが国の輸入基地になった。

また稲作の機械化によって、農村の余った労働力をめあてにして、工業が都市部だけでなく、農村部にも広く行きわたり、農工一体化が進んだ。

一九五八	昭和三三
一九五九	昭和三四
一九六〇	昭和三五
一九六一	昭和三六
一九六二	昭和三七
一九六三	昭和三八
一九六四	昭和三九
一九六五	昭和四〇
一九六六	昭和四一
一九六七	昭和四二
一九六八	昭和四三
一九六九	昭和四四
一九七〇	昭和四五
一九七一	昭和四六
一九七二	昭和四七

- 第十三回国民体育大会開催○NHK富山テレビ局開局○富山県民の歌制定
- 富山県の歴史と文化刊○北日本テレビ放送開始○立山越冬観測開始
- 日米安保新条約調印
- 立山黒部有峰開発会社設立○呉羽三ノ熊に県内初のゴルフ場開設
- 有峰ダム完成○県宮室牧場完成○富山新港起工式○ライチョウを県鳥に指定○北陸線に特急「白鳥」登場○皇太子御夫妻初の来県
- ソ連人工衛星打上げに成功
- 県立大谷技術短期大学開学○県下でカラーテレビ放送開始○立山美化奉仕運動○小矢部市誕生○黒部市ゆかりの詩人田中冬二、高村光太郎賞受賞○北陸電力火力発電所建設
- 三八豪雪○富山県善意銀行誕生○黒四ダム完成○富山空港開港○県下にスノーバー進出○富山県史編さん事業に着手○富山女子短期大学開学
- 東京オリンピック開催
- 東海道新幹線開通
- 富山・高岡地区を新産業都市に指定○氷見胡桃地区で大地すべり発生○富山県民会館落成○富山金沢間の北陸線電化完成○富山市で県下発のボーリング場開設
- 望ましき富山県民像作成○沖縄に富山県人戦死者慰霊の立山の塔建立
- 県登山届出条例制定○技能オリンピックで県人優勝○タテヤマスキを県木に指定○セーナー苑の開苑○山崎覚太郎、文化功労者に
- 刀利ダム完工○全国初の国立登山研修所、立山町に開設○立山神像百年ぶり帰県
- 富山県公害防止条例施行○富山新港開港○イタイイタイ病を公害病と認定○二上山・雨晴一帯を含む能登一円を国定公園に指定
- アメリカ、月着陸に成功
- 砺波市頼成山で全国植樹祭開催○富山テレビ放送開局○大洪水。富山大橋陥没、愛本橋流失○北陸線全線複線電化成る○富山ヒマラヤ隊グルジャヒマール初登頂○富山大学紛争激化○三・七教育是正運動始まる
- 日本万国博開催
- 黒部市でカドミウム禍発生
- 立山黒部アルペンルート全線開通○富山県議会議事堂完成○第一回青年の船出航○このころから自然保護運動さかん
- 沖縄本土復帰
- 日中国交回復
- 北陸トンネル列車火災
- 立山風土記の丘開設○深夜のサーキット騒動○加越線廃止

建設ブームの到来

このころは、建設ブームがつづき、三十六年には有峰の貯水式ダム、三十八年には、世紀の偉業といわれた黒四ダムが完成し、発電工事が進んだ。また同年富山空港が開設され、東京と定期便が開かれた。四十四年には、北陸線の全線複線工事が完成。また県内の、北陸自動車道の建設工事がはじまり、四十六年には、十年余りの歳月をかけた立山黒部アルペンルートが完成し、富山市から立山の室堂、そしてトンネルで長野県の大町市に至る大観光開発が行われた。



伏木港
近代化の努力が続けられている伏木港



富山港
港湾施設の整備された富山港

YKK吉田工業 黒部工場
ファスナー製造は、世界的に飛躍。
アルミサッシでも大活躍



わが国の工場団地発祥の地の碑
37年、富山機械工業センターとして、一般機械・金属製品製造業などの36社が入り、従業員は1,800人であった。富山市



立山黒部アルペンルート全線開通(46年)
立山の天狗平を行くバス



くりからトンネル開通(37年)
国道8号線の整備進む。



黒四ダムの完成

秘境黒部峡谷に、厳しい自然の中で最新鋭の技術を尽して造られた発電用のアーチダム。この建設にかけられた壮絶な男たちの意気は、小説や映画「黒部の太陽」に示された。



横断歩道橋

自動車の交通量が急増し、歩行者の安全のために、陸橋の建設が進んだ。富山市神通町の歩道橋



有峰ダムと青少年の家

常願寺川支流、和田川に造られたダム。ダムサイドに青少年たちの研修共同宿泊施設が建てられた。

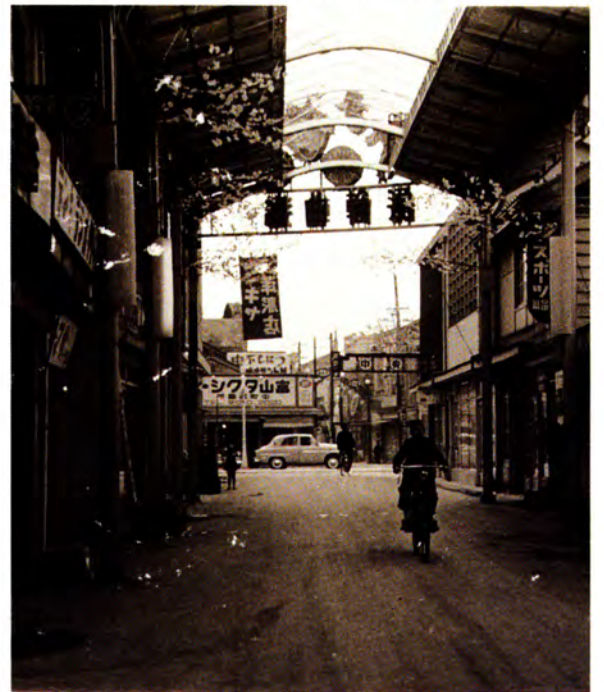


刀利ダムと青年の山研修館

小矢部川上流、福光町刀利に農業用水・発電・洪水調節の多目的ダムとして、42年に完成。近くの山上に、林業後継者育成のための、青年の山研修館がある。

総曲輪商店街

35年、アーケードも整備され、中心商店街づくりが進む。



復興めざましい富山市街

35年ごろは、高層ビルはまだ少なく、整備された都市計画道路がめだつ。

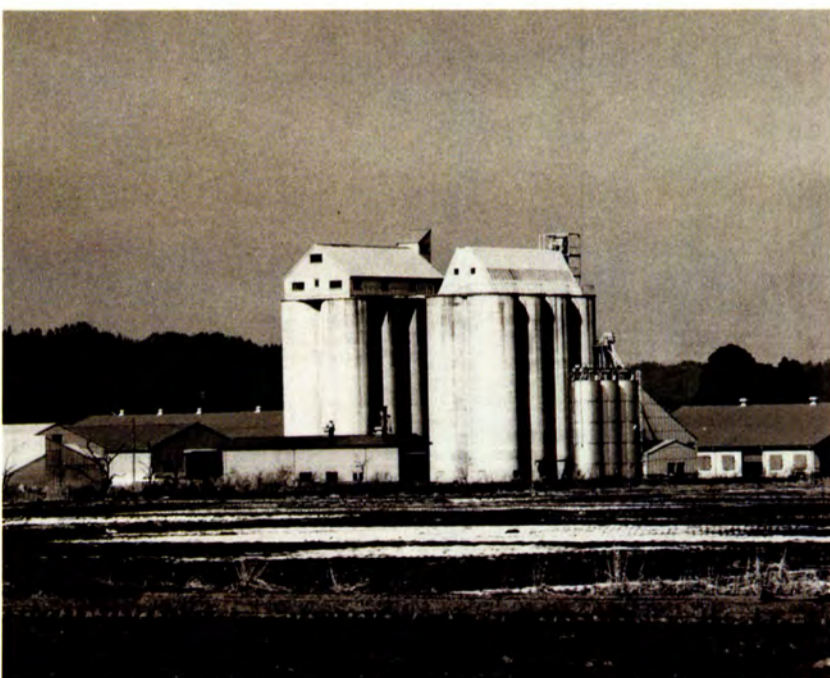


県議会議事堂
46年、県庁舎の西側に完成



38豪雪
38年の豪雪は交通をまひさせ、雪おろし、雪すてに県民は忙殺された。

第20回全国植樹祭
44年、天皇后両陛下をお迎えして、砺波市瀬成で開催。県木のタテヤマスギなどを植えた。このころから、緑化運動や自然保護が進む。



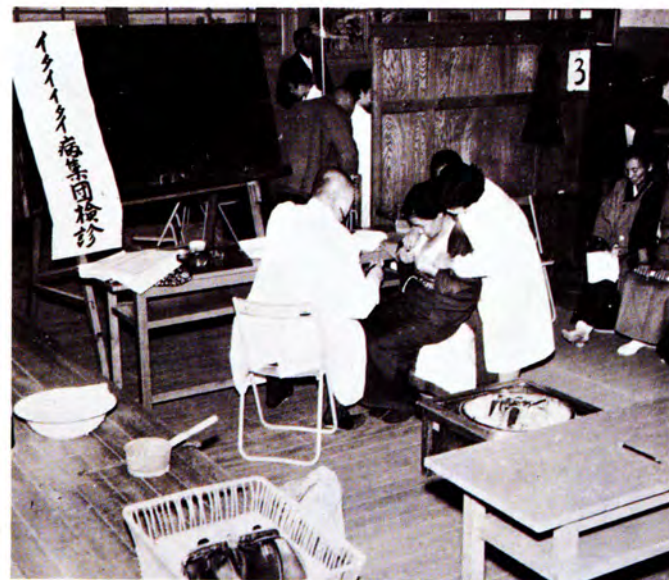
魚津カントリー・エレベーター
42年、県下で最初の設置。農業構造改善事業の一環として、米の品質均一のために設けられたモミの乾燥調整施設。目立って高い塔のような建物は、新しい農村を象徴する。



ボーイスカウト
規律ある団体生活を通して、身体と精神をきたえる。



身障者のスポーツ大会
40年以來、身障者自らの力でスポーツ大会を挙行。社会復帰への努力に拍手を送りたい。



イタイイタイ病検診
43年、公害病に認定され、集団検診が行われることになった。



公害テレメーター
45年、県庁内に設置され、公害発生を予知している。

生活環境の変化

経済の活況のなかで、県民の生活は、急激に豊かになった。自動車や各種電気製品が一般化した。テレビが普及し、このため映画館は衰退した。スーパーが富山・高岡両市に、そしてやがて他の小都市や都市周辺にも、広い駐車場を設けて進出した。また住宅の新材やアルミサッシを使つての、増改築や新築が拡まり、住宅団地が各地に建設された。

しかし、他方では、太平洋側の大都市への人口流出が進み、県内では富山・高岡へ人口が集中した。しかも都心部の人口が減少し、周辺では増加した。また、山間部の過疎化が顕著になった。また、安保闘争が激化し、富山大学では学園紛争が起こった。

さらには、イタイイタイ病をはじめ、大気汚染・水の汚濁などの公害が発生し、深刻な問題になった。環境の浄化や緑化推進運動が進められた。住民の健康、衛生、福祉の重要性が浮かび上がってくるようになった。

県消費生活センター
消費者の保護と安全を守るために、47年、県民会館内に設置



スーパーの進出
流通革命の進展によって、富山・高岡、ついで他の町や郊外にも出現



芸術の百年

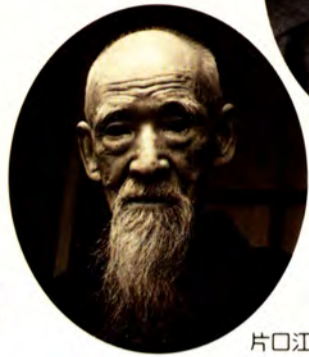
漢学と漢詩人たち

明治の地方文芸の担い手の多くは、豪農豪商層の教養人たちで、土族の多い石川県と対象的である。

その多くは漢学に基礎を置いたので、漢詩人が多かった。富山市宮尾の内山外川（一八六四～一九四五）婦中町鶴坂の岡崎藍田（一八六一～一九三九）高岡市木町の大橋二水（一八五九～一九四〇）らのほか、昭和期にかけては小杉町の片口江東（一八七二～一九六七）らの活躍が目立った。



大橋二水



片口江東



庄川町の「月見草」（3年）
竹久夢二の、ロマン溢れる
口絵が、巻頭を飾る。

大正の地方文芸誌

大正に入ると、文芸活動もデモクラシーの花が咲く。一般大衆にまで文芸愛好の底辺が拡がり、富山・高岡・魚津はもとより、富山市水橋の「東天紅」「水郷」や、庄川町青島の「月見草」、福光町の「青年文友会誌」「きくな」「深林」などの総合文芸誌が発刊される。内容は、文芸評論や、新体詩・短歌・俳句・小説・随想など、極めて多彩だった。



水橋の「瀟」（11年） 「水郷」（13年） 「東天紅」（12年）

夏期大学の開設は、今日の生涯学習のはしりであろう。

福光町の
「青年文友会誌」（2年）「きくな」（11年）「深林」（13年）

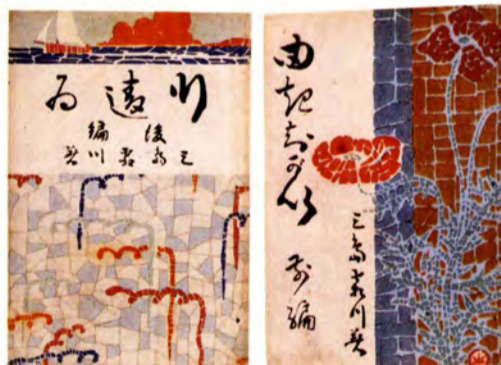
大正作家の双璧

大正期の、郷土出身の代表的作家は、三島霜川と小寺菊子であろう。三島霜川（一八七六～一九三四）は高岡市下麻生の医師の家に生まれた。父の死後、十八歳の時一家をあげて上京。尾崎紅葉に師事した。代表作は「解剖室」。晩年はもっぱら劇評を担当。「大正役者芸風記」などがある。

小寺菊子（一八七九～一九五六）は、富山市旅籠町の売薬商尾島家に生まれた。破産、父の死という悲劇のもと、上京。三島霜川の紹介で金沢出身の徳田秋声に師事し、田村俊子、岡田八千代と並んで「大正の三閨秀」ともてはやされ、「父の罪」などの名作を残した。



三島霜川とその作品「行違ひ」
（明治44年刊）



児童文学

大井冷光（一八八五～一九二二）は、富山市常願寺の生まれ。久留島武彦の童話運動に共鳴し、美しい童話のかずかずを書いた。称名滝を舞台にした「雲の子ども」など、富山の作品が多い。神奈川県の逗子小学校で、子どもたちに童話を語りつつ倒れ、若い生涯を終えた。



小寺菊子と著作のかずかず



伊原宇三郎の描いた「冷光像」。県立図書館蔵

芥川賞・直木賞の作家たち

源氏鶏太（一九二二）は、富山市泉町の売薬の家に生まれた。「たばこ娘」で直木賞。サラリーマン小説の新分野を開く。
 堀田善衛（一九一八）は、高岡市伏木の回船問屋の生まれ。「広場の孤独」で芥川賞。文学に評論に活躍。
 柏原兵三（一九三三〜七二）は、幼いころ父の郷里入善町吉原に疎開。「徳山道助の帰郷」で芥川賞。「長い道」などの、疎開体験からくる富山の風土をテーマにした作品がある。



源氏鶏太



堀田善衛

故郷

柏原兵三

柏原兵三の著書「長い道」と筆跡



「越友会」の百回記念俳句大会
 明治38年10月22日、高岡市の梅松園で開かれた。前列左3人目、寺野守水。中列左1人目、山口花笠。3人目、筏井竹の門。後列右端、寺野竹満

郷土研究雑誌「高志人」

翁久允（一八八八〜一九七三）は、立山町出身。中央文壇で活躍したが、昭和十一年富山へ帰り、郷土研究雑誌「高志人」を創刊。三十七年間も続けて富山文化の振興に尽した。



翁久允と「高志人」



俳諧から俳句へ



寺野守水の句碑
 (高岡市和田 西光寺境内)

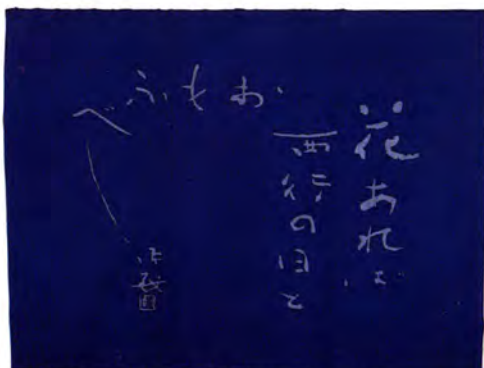
明治前期では、伝統的な俳諧は宗匠を中心にそれぞれ結社をつくり、県下各地で栄えていた。その旧派、一方の旗がしら寺野守水（一八三六〜一九〇七）は、正岡子規の新派、日本派俳句の若きリーダー河東碧梧桐との交友により、筏井竹の門（一八七二〜一九二五）山口花笠（一八七八〜一九四四）らに呼びかけ、明治三十年、日本派の「越友会」を結成。昭和初期にかけて、富山俳壇の発展に大きい役割を果たした。
 高浜虚子の「ホトトギス」派に属した、前田普羅（一八八五〜一九五四）は、大正十三年、報知新聞富山支局長として赴任。退職後も富山に居住。金沢の俳誌「辛夷」を引受け、主宰。橋爪巨籟（一八八七〜一九八〇）、吉沢無外（一八七二〜一九五六）ら、ホトトギス派の俳人を糾合して活躍した。
 水橋（現富山市）も、古くから句作の盛んな所で、金尾梅の門（一九〇〇〜八〇）や、角川書店の創始者、角川源義（一九一七〜七五）らは、この地から誕生した。
 昭和三十年代になると、グループの結成は活発で、発行する俳誌は十指に余る。五十年には、県俳句連盟（会長吉沢卯一）が結成された。

前田普羅と句集



金尾梅の門の句集「鶯」「鴉」「鷗」

角川源義の句と著書



歌壇と詩壇

明治三十四年、富山新報が始めた回覧雑誌、「聚雲」の編集に当たった高田浩雲（一八七八〜一九四五）は、在京中、北原白秋、若山牧水らと交わり、近代詩歌の洗礼を受けた人だった。

浩雲の従弟広井浩風（二八九一〜一九四〇）は、四十四年、富山で最初の詩集だといわれる「猷苑」を出し、さらに歌集「水郷」を発刊。

大正では、片口安之助（一八九四〜一九三三）は、東京歌壇の新風を富山へもたらした英才だった。昭和にかけて、筏井嘉一（一八九九〜一九七一）藻谷銀河（一八九九〜一九四五）らの多彩な作活動が開花する。

昭和歌壇を語る時、高岡高商教授大熊信行、旧制富山高校教授木俣修、専売局幹部の岡部文夫らの影響力も、逸することができない。

昭和二十九年、富山県歌人連盟（会長小又幸井）が結成され、「富山県歌人」「連盟歌集」などを定期刊行している。

詩では大正期、自由詩運動の輪が拡がり、十五年、「日本海詩人」が発行され、県内詩壇の拠点になった。大正から昭和にかけて、山岸曙光（二八九八〜一九六六）、中山輝（一九〇五〜七七）らが民謡詩運動を展開。氷見では佃血秋（一九〇四〜五一）をはじめ、詩人群の活躍がめだち、「聖詩風」「詩華船」などが発行。

昭和三十七年、荻野卓司（一九一九〜）らが、富山県現代詩人会を結成した。



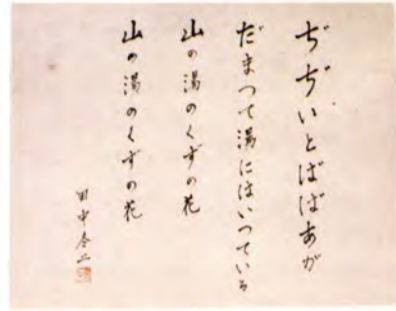
親子文学碑
歌人、筏井嘉一の歌碑(右)は、父の俳人筏井竹の門の句碑と並んで、高岡古城公園にある。



画壇の巨匠ミロと滝口修造(左)
詩人滝口修造(1903〜79)は、富山市大塚の生まれ。美術評論家としても活躍し、幾多の新鋭作家を育てあげた。



北方の詩人 高島 高(1910〜55)
海川の医師だが、ふるさとへのけわしい立山、剣岳を詩集「北方の詩」に清冽に歌いあげた。ほかに詩集「山脈地帯」「北の貌」もある。行田公園の、花しょうぶのなかにある詩碑



富山を愛した詩人
田中冬二(1894〜1980)

父の故郷黒部市生地で少年期をすごしたが、新川地方の風物をこよなく愛し、多くの詩をつくった。「ぢぢいとばあ」の詩碑は、宇奈月町の黒難温泉にある。



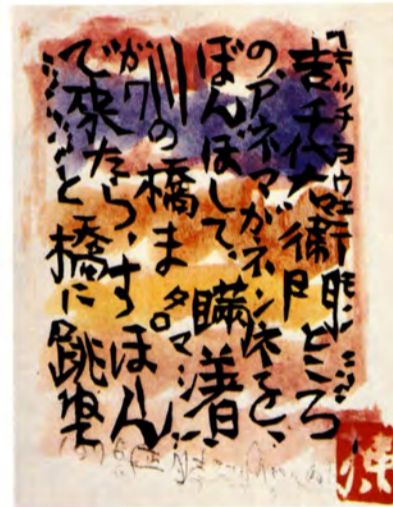
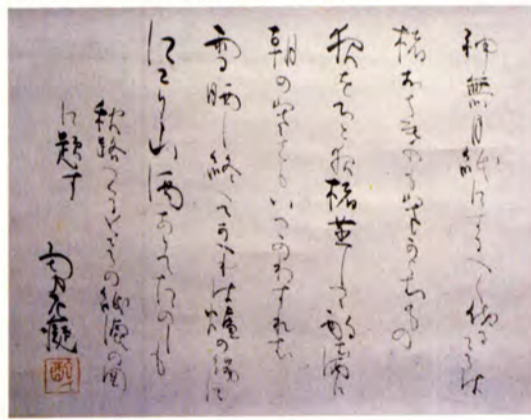
「新日本歌人」渡辺順三追悼特集
渡辺順三(1894〜1972)は、富山市千石町の生まれ。プロレタリア文学運動に参加して、抵抗の歌人として一生を貫いた。



織田一磨の石版画
「福野町吹雪」

ロマンの歌人 吉井勇

夫人と共に八尾町へ疎開して来たのは、昭和20年の2月。「雪いよいよ深く、流離の感もそれと共に深し」と述べている。八尾の知友、林秋路つづくところの紙漉の図に題した3首



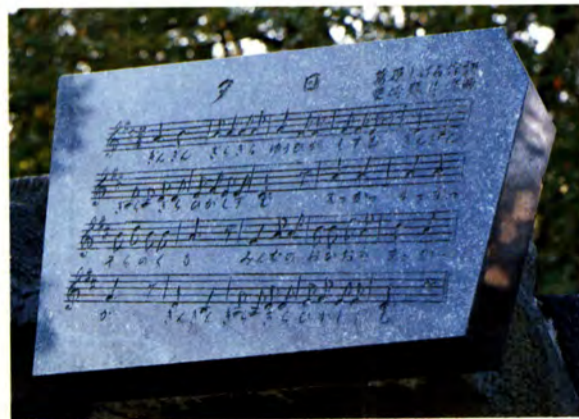
棟方志功の板画
福光の民話をテーマにした「講着川版画巻」

疎開文化

第二次世界大戦の戦禍を避けて、文化人の県内への疎開が多かった。なかでも福光町へ板画家棟方志功、福野町へ石版画家織田一磨、八尾町へ歌人吉井勇らの来住が著名。富山の風物を取りあげた作品を多く作り、富山の芸術によき刺激を与えた。



高階哲夫(1896〜1945)の「時計台の鐘」
滑川市出身。バイオリニストで作曲家。その作詩作曲の「時計台の鐘」にちなんで、滑川市東福寺野自然公園に時計台が建てられた。



室崎琴月(1891〜1977)の作曲譜の碑(高岡古城公園)
高岡市の生まれ。「ギンギンギラギラ夕日が沈む」の作曲で親しまれた。



音楽教育に尽した福井直秋(1877〜1963)
上市町宮川の生まれ。昭和4年武蔵野音楽学校(現武蔵野音大)を創立し、発展させた。音楽教育の先覚者で「初等利声学」などの著作が多い。

絵画



狩野派の木村立嶽

狩野派の四天王の1人として、幕末から明治にかけて活躍した。富山市の生まれで、藩のお抱え絵師。この「郭撲の図」のように、狩野派らしく中国高士を描いたものが多い。

明治前期には、狩野派の木村立嶽（一八二五～九〇）のほか、南画の谷口露山（一八一六～九九）吉田公均（一八一七～八〇）などが活躍。明治二十七年、実業学校令の公布（三十二年）に先がけて設立された、県立高岡工芸学校（現高岡工芸高校）は、県内の美術振興に大きな役割を果たした。名校長納富介次郎のもと、教師には、日本画家として後年名をなした梶田半古などを招へい。卒業生からは、郷倉千鞆（一八九二～一九七五）、山崎覚太郎（一八九九～）などの作家を輩出した。

近年では、日展の下保昭（一九二七～）、院展の郷倉和子（一九一四～）、下田義寛（一九四〇～）らが活躍している。

大正に入ると、学校の美術教師に洋画家が多くなり、洋画がたまねく普及。近くは、人物水彩画の第一人者といわれる荒谷直之介（一九〇二～）や、まんだら絵の前田常作（一九二六～）などが著名。



花鳥画の石崎光瑠（1884～1947）

福光町の豪商の家に生まれた。京都画壇に属して華麗な花鳥画を得意とし、帝展、文展を通じて活躍した。大正7年文展特選作「熱国妍春」（六曲一双のうち半双）



院展の郷倉千鞆

小杉町の生まれ。日本美術院に属し同人となり、さらに芸術院会員となる。富山市立図書館にある、京都東本願寺壁画の天下図「釈尊父王に会いたもう図」



挿絵画家 金森観陽（1884～1932）

富山市出身。尾竹越堂に師事して日本画を学んだが、大阪へ移り、文展等に入選。白井高二の「忍術己来也」、中里介山の「大菩薩峠」などの挿絵を描いた。血のしたたる抜身を片手の剣鬼机竜之助（大菩薩峠）

売薬版画

売薬版画は、売薬さんがお得意先に配ったおみやげ。絵師も、彫り師、刷り師も、版元も、ほとんど地元富山。なかでも藩の絵師だった松浦守美（1824～86）や、尾竹3兄弟の作品はすぐれている。



次兄竹坡(1878～1936) 長兄国一(越堂)(1868～1932) 末弟国観(1880～1945)
尾竹3兄弟



国一の描いた、「水滸伝」の九紋龍

初期県展の目録



伝統ある県展

県展は、昭和21年開催以来、全国でも屈指の伝統を誇り、東京の県展選抜展でも数多く受賞。県作家の登龍門となり、富山美術家集団のエネルギーを物語っている。

昭和56年 第36回県展



富山県立近代美術館
昭和56年、富山市城南公園にモダンな姿をあらわした。



畑正吉の「藤戸」（母校高岡工芸高校蔵）
高岡市湊町の生まれ。東京美術学校や東京高等工芸学校の教授をつとめ、文展で活躍。レリーフ彫刻にすぐれ、勲章・メダルの製作が多い。

横江嘉純（1888～1962）の「祈り」
（高岡市立中央図書館前）
八尾町石戸の生まれ。帝展で「大乗」が特選。日展参事



佐々木大樹の「心象」
宇奈月町音沢の生まれ。日展参与。作品は木彫「心象」。宇奈月温泉の大原台には、原型遺作「平和の像」がそは立っている。

彫刻・工芸

彫刻の鬼才といわれ、渡仏してロタンに学ぶうち、三十二歳の若さで客死した本保義太郎（一八七五～一九〇七）をはじめ、畑正吉（一八八二～一九六六）、佐々木大樹（一八八九～一九七八）、松村秀太郎（一八八八～一九七二）、長谷川義起（一八九二～一九七四）など、高岡工芸卒業者の活躍は目覚ましい。また、富山市出身の松田尚之（一八九八～）は、日展顧問、芸術院会員である。

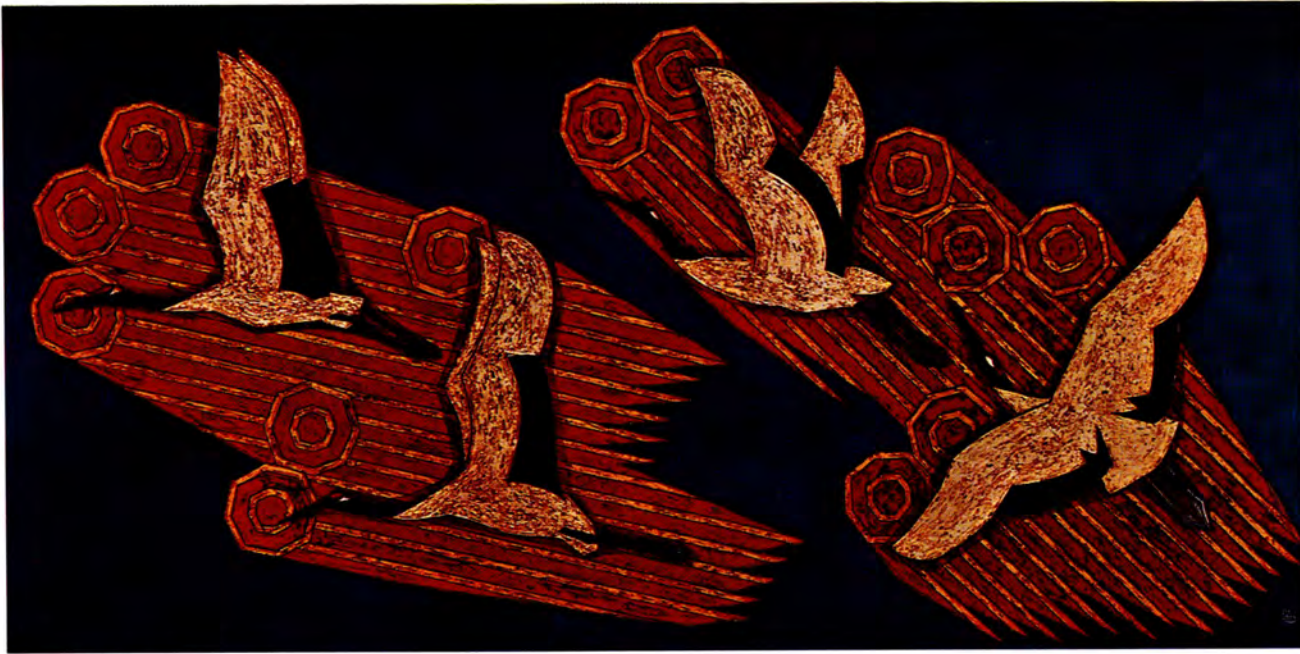
現在は、彫刻の町井波や、高岡に優れた作家の集団が育っている。

伝統を誇る高岡の金工では、蠟型の須賀松園（一八九八～一九七九）など、多くの作家が、銅像、梵鐘や、美術品などを製作。釜師の畠春齊（一九〇八～八一）も逸することができない。

漆芸では、勇助塗の彼谷芳水（一八九九～）、錆絵の高瀬直（一八九八～一九七七）などが、地元で活躍。日展の大御所、山崎寛太郎は、文化功労者。県内作家の育成にも力を注いだ。

木工芸では、中島奎堂（一八八九～一九六八）らの木象嵌は今も富山市で伝えられ、井波では、横山白汀（一九〇〇～七二）ら、多くの作家群を輩出した。

陶芸では、人間国宝石黒宗磨（一八九三～一九六八）の存在は大きい。県内では、古い伝統を持つ、越中瀬戸焼・小杉焼・三助焼・福光焼などがあり、それぞれユニークな作品を焼いている。



文化功労者 山崎覚太郎

富山市東岩瀬の生まれ。日展の理事長・会長を経て、顧問。芸術院会員。作品は、昭和45年日展出品作「飛翔」富山県蔵



蠍型の須賀松園

高岡市の人。蠍型鑄造で県の無形文化財保持者に指定されたが、さらに晩年、国指定の無形文化財保持者になった。作品「ねこ」は、昭和43年日展出品作だが、猫の敏捷でアクション的な特徴を、形象化している。



人間国宝 石黒宗磨

新湊市生まれ。国指定の重要無形文化財保持者（鉄釉陶器）作品は「黄釉刻線人物文壺」富山県蔵

勇助塗の彼谷芳水

高岡市の生まれ。漆工芸・勇助塗で、県の無形文化財保持者に指定された。作品は「敵麗」昭和55年日展出品作。勇助塗の特色である、玉石をちりばめ、青貝で加飾した、仏教的な画面は荘厳で華麗



木象嵌の中島全堂

富山市の人。木象嵌に独得の工夫をこらし、県の無形文化財保持者に指定された。作品は「薬草に薬師岳」。医薬の殿堂、富山医科大学のロビーに掲げてある。



錆絵の高瀬 直

高岡市の生まれ。漆工芸・錆絵の名工で、県の無形文化財保持者に指定された。作品は「鳩図手筈」富山県蔵



文化勲章に輝く

山田孝雄

(一八七三〜一九五八)

独学力行で文学博士となり、文化勲章を受け、富山市名誉市民に選ばれた偉大な学者。富山市総曲輪に生まれ、父の失職で富山県尋常中学(現富山高校)を一年で退学。家計を助けるために小学校教員の検定試験に合格し、草島、上市、下村小学校に奉職。往復二〇キロにも及ぶ道を、通いつめた。「私の健康は、若い時に遠くの学校へ歩いて通ったからです」と晩年に語っている。

さらに中学校、師範学校教員の検定にも合格。兵庫、奈良、高知の中学教諭から、日本大学、東北大学教授となり、「日本文法論」で文学博士。神宮皇学館大学学長、貴族院勅選議員、文化勲章と、努力一筋の人生だった。著書は主なものでも百冊を数える。

その著「芸芸転任日記」(高知県安芸中学の時のもの)によれば「余が性、もと単刀直入的なり。電光石火的なり」「実質を過重するなり。質朴主義の極端なり」と、目標をたてたらやりぬく不退の決意と、質実剛健ぶりを述べているが、また「清濁あわせ飲むの概あらず」「従容せまらざる底の雅量なく」と反省もしている。

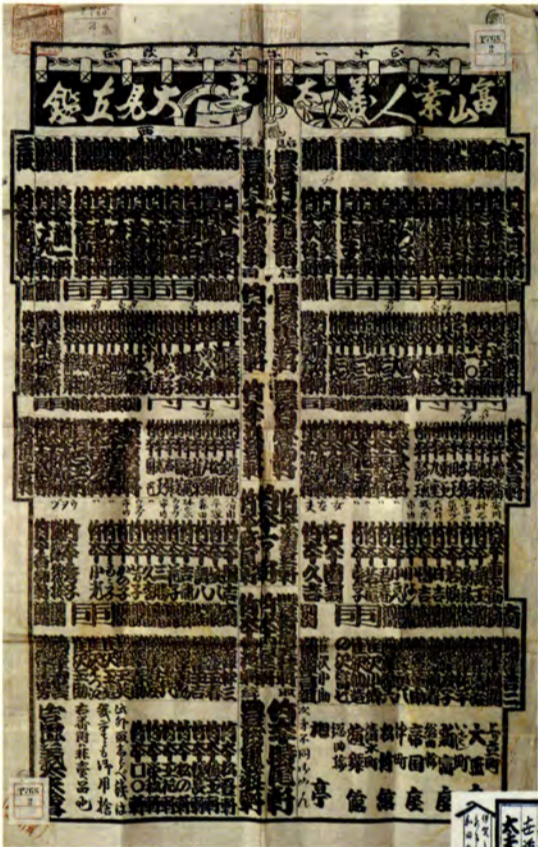
富山市役所の構内に「百千度くりかへしても読毎にこと新なり古之典」の歌碑がある。また人一倍富山を愛し「国めぐり山々見れば古里のこしの立山たぐひなきかな」ともよんでいる。



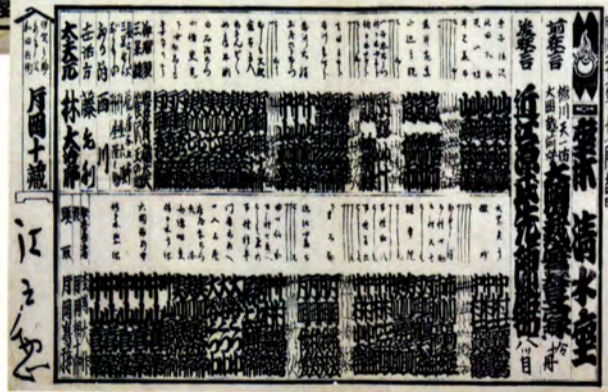
名優の富山来演
6代目尾上菊五郎が、大正4年第三福助座(現 帝国館)で演じた「貞花鳥羽恋塚」の遠藤武者盛遠

越中浄瑠璃

金沢を代表する芸能が、武家文化の宝生流の謡曲であるのに対し、富山の芸能は町人文化の浄瑠璃だったので「加賀宝生に越中浄瑠璃」のことばが生まれた。目の肥えた芝居好きが多く、江戸や上方の名優たちもしばしば来演した。「一口浄瑠璃と親の家を知らぬ者はない」といわれるくらい、明治の若者に親しまれた。他国へ廻る売薬さんにも、達者な人が多かった。



芝居の番付
明治21年、富山市清水座で上演された「近江源氏先陣館」などの番付



富山しろうと義太夫見立鑑 (大正11年)
いわゆるお旦那衆の浄瑠璃語りの番付で、天狗連の一覧表といえよう。



浄瑠璃の見台

多様化する演劇

明治三十一年、富山市の可愛座で「電気現象活動大写真」と銘打って公開された活動写真は大正・昭和にかけて大衆娯楽の王座を占める。従来の歌舞伎を圧迫して、芝居小屋は、多く映画館に転向する。

大正三年、島村抱月・松井須磨子が「復活」をひっさげて来演。富山人士は、赤毛ものといわれた翻訳劇に目をみはった。前後して、チャンバラといわれた剣劇や、新派・喜劇・浪曲劇など、多彩な大衆演劇で賑わった。しかし本流はやはり、旧劇といわれた歌舞伎だった。

レコード・ラジオの普及は、歌謡曲の流行をもたらし、昭和十年富山放送局の開局により、富山放送劇団が誕生。ほかにもアマチュア劇団が活躍。昭和五十二年、文芸座が世界アマチュア演劇祭に優勝した。



文芸座勝てり
昭和22年富山市に誕生したアマチュア演劇団「文芸座」は、52年、アイルランドのダンドークで開かれた世界アマチュア演劇祭にみごと優勝。「文芸座来たり、われら見たり、文芸座勝てり」と富山の名を高からしめた。

能楽の松本謙三 (1899~1980)
城端町の生まれ。能楽の下懸り・宝生流の国指定重要無形文化財保持者。演ずるは「安宅」のワキの富樫



利賀村野外劇場 昭和57年に完成



県獣・ニホンカモシカ

昭和50年10月4日制定(富山県告示第1,133号)。ニホンカモシカは、北海道を除く日本各地に広く生息しているが、立山連峰は代表的な生息地として著名である。昭和30年に国の特別天然記念物に指定され、保護が図られている。ニホンカモシカはウシ科の獣で、主に標高500~2,000mの森林地帯や岩場に住み、木の芽や草を主食としている。山岳地帯の厳しい自然環境の中で、強暴性もなく、もくもくと生息環境に適応し生きぬく姿は、富山県民の姿を象徴するような獣である。なお、昭和38年に県獣として「越の犬」が制定され、広く親しまれていたが、ほぼ絶滅が確認されたため、あたたに、ニホンカモシカを制定したものである。

9 躍進する県勢

56豪雪に活躍した除雪車
38豪雪以来、雪対策が進められ、
道路交通の確保に努めた。



改修中の富山空港
ジェット機の就航のため改修



北陸自動道の夜景 富山インター付近（57年）



北陸新幹線の建設促進運動
富山駅前のアピール塔



富山市のビル街 近年、高層ビルの建築が相継ぎ、都市機能も集積している。

昭和四十八年以降

オイルショックの克服

昭和四十八年の石油ショックによって、とくに電力多消費型産業は、打撃をうけ、省エネの低成長時代に入った。しかしこの中であって、日本海側で工業が最も集積する本県では、非鉄金属・金属製品・化学・一般機械などが比較的活発である。

工業出荷額の対全国比では、四十八年が、一・一五パーセントであったが、五十五年には一・二二パーセントに増大した。ただアルミ精練や素材型産業には、きびしい環境になった。

農業の機械化・兼業化が進んだ。「米作県富山」は、うまい米づくり運動を推進したが、反面、減反・転作が求められた。畜産・果樹・園芸・そ菜の振興がはかられ、経営の多角化が進められている。林業は経営改善が図られた。

水産業も「獲る漁業から育てる漁業」への転換が進められ、栽培漁業センターなどが建設された。

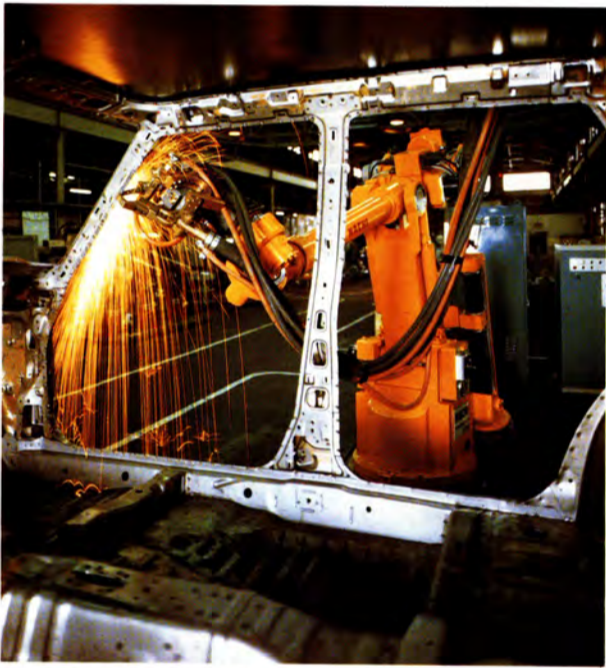
伝統産業では、家庭菓の製造は品質管理の近代化が行われ、銅器も新製品の開発が進んだ。

さらに本県では女性もよく働き、所得水準は、大都市圏に次ぐ広島・岡山・静岡に接近して高い。

雪対策も進み、五六豪雪には、三八豪雪と違って、除雪車が大いに活躍し、道路交通の確保に努めた。道路が五箇山にも整備され、スーパー農道が開通した。北陸自動車道の建設も進み、空港もジェット機化に備えて改修されている。北陸新幹線建設の見通しも明るい。



建設中の小杉流通センター
小杉インター周辺に建設がいそがれる
トラックターミナル



不二越のロボット製造工場
(富山市)



富山家庭薬製造の近代化 品質管理の進んだ製薬工場



スズキ自動車富山工場
北陸自動車道の建設により
小矢部市に進出。2輪車組
立工場。砺波地方の農村か
らの従業員が多い。



高岡問屋センター
43年、銅器を中心として繊維・
雑貨・食料品などの総合卸売団
地として出発

- | | | |
|------|------|--|
| 一九七三 | 昭和四八 | ●石油危機、高度成長時代に終止符
北陸高速自動車道砺波・小杉間開通○住みよい富山県をつくる総合計画策定○富山湾水銀汚染問題○北回り新幹線の計画進む |
| 一九七四 | 昭和四九 | 頼成の森開園○公共料金など諸物価値上げ○富山市杉谷で出雲地方特有の四隅突出型古墳発見○とやま芸芸展開催○八号線パイパス富山・高岡間開通 |
| 一九七五 | 昭和五〇 | 富山医科大学開学○絶滅した越の犬に代わってニホンカモシカを県獣に指定○県人を含む日本女子登山隊、史上初の女子エベレスト登頂に成功○笹津線廃止 |
| 一九七六 | 昭和五一 | 国体冬期スキー競技会(おおよま国体)開催○八月集中豪雨禍 |
| 一九七七 | 昭和五二 | 県営極楽坂 Gondolas スキー場大山町に開設○氷見五十谷地区で大規模地すべり○世界アマチュア演劇祭で富山の文芸座に最高賞○全国野鳥保護の集い開催○県立埋蔵文化財センター開設○岩瀬スポーツ公園竣工○旧十村家内山邸県に寄贈、県民会館内山分館となる |
| 一九七八 | 昭和五三 | 子撫川ダム完成○角川治水ダム竣工○ライチョウ冬の生態調査開始○立山マイカー規制継続を県議会で言明 |
| 一九七九 | 昭和五四 | 県立救命救急センター業務開始○福光町大火○県営弓道場完成○いこいの村富山開設○富山医薬大附属病院開院○北陸科学技術情報センター開設○県栽培漁業センター、氷見市に開設○富山市科学文化センター開設 |
| 一九八〇 | 昭和五五 | 入善沖で一万年前の埋没林発見○中田知事死去○国勢調査で県人口一〇万人を越す○漁業指導調査船立山丸完成○射水線廃止○洗足学園魚津短期大学開学 |
| 一九八一 | 昭和五六 | 五六豪雪○富山県立近代美術館開館○第一回婦人の翼出発○健康増進センター設立○新装の魚津水族館開館○県下全市町村に図書館設置、日本一の設置率を達成 |
| 一九八二 | 昭和五七 | 国際演劇祭利賀フェスティバル開催○旧家金岡家に売薬資料を展示し県民会館金岡分館として開館 |
| 一九八三 | 昭和五八 | 置県百年を迎える |



稲刈りの機械化 生産性を高め、うまい米づくりに励む。



スーパー農道
農業経営の発展をめざして、農村地帯を結んでいる。(入善町)



県栽培漁業センター 54年、氷見市姿に設置



ブリの大敷網の水揚げ 氷見の寒ブリは全国に有名



海岸線の保全
浸しよくから陸地を守るテトラポットの長い列。(朝日町)



新川牧場
47年、黒部市に造成

花と緑の銀行
美しい県づくりをめざす 県緑化センター(婦中町)

健康増進センター
健康増進・総合検診・健康教育の3機能
を完備。56年、富山市越川に設置



立山山麓家族旅行村 大山町粟巣野に建設進む。



ナチュラリストの活躍
立山室堂で、自然保護を指導



岩瀬スポーツ公園
サッカー・ラグビー・テニスなどが
楽しめる。52年、富山市岩瀬に設置

県民公園 頼成の森
フィールド・アスレチックを
楽しむ子供たち



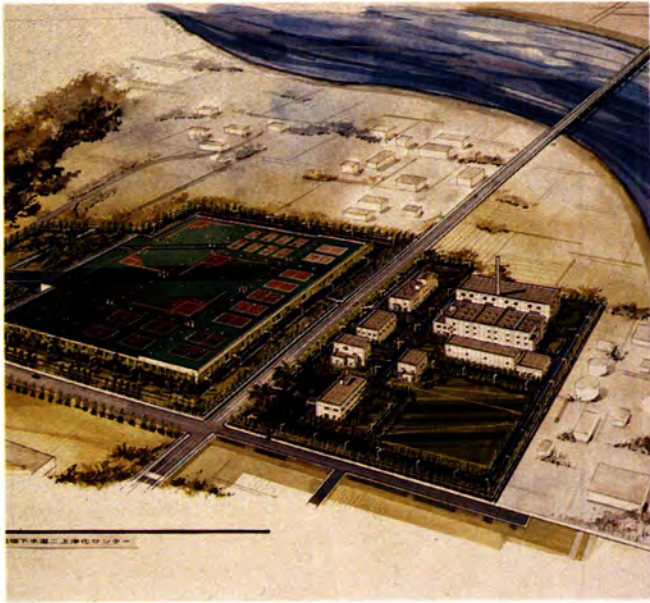
大気汚染の移動観測
検査のため県内を巡回

生活・福祉の充実

住宅水準が高まり、消費水準とくに交際費や教養費の支出が増えている。公民館活動や県民大学など生涯学習が盛んで、また文化施設が逐次整備され、図書館は全国第一の普及率を誇っている。心のゆとりを求めて「芸術文化の輪を広げよう」の合言葉の下に、美術館・ホールなどが整備されている。また「県民ひとりスポーツ」がスローガンとされ、スポーツ公園・運動広場・体育館・プールなどの体育施設の充実がはかられている。また、青少年の家・少年自然の家・健康増進センターなどが設けられた。なお、自然保護も重視されている。観光やレジャー施設も整えられてきた。

身体障害者センターや老人ホームなど社会福祉施設も充実し、ボランティア活動も盛んになってきた。

本県の人口流出は、四十五年ごろから減少したが、青年層の流出が続いたため、年齢構成の老齢化が進み、老人福祉が重視される。



小矢部川流域下水道浄化センター予想図
57年、高岡市二上地区に建設決定

流杉老人ホーム
60歳の手習として書道を楽しむ老人たち



第1回私たちの壁画展（56年）
県内の小・中学生が画いた作品。県立近代美術館



サイクリングロード
レクリエーション施設として富山市～小杉町～大門町のあいだに開通。さらに西は小矢部市、東は魚津市へと延びる。



整備されるレジャー施設
余暇利用は県民生活に浸透。
大山町大川寺公園

ローカル線廃止
マイカー普及のため、利用客が減少し、
50年3月に廃止された笹津線



福光町生まれ。早稲田大学政経科卒業。早大在学中、総長大隈重信の感化を大きく受けた。明治十九年から大正三年まで、報知新聞記者。昭和三年に衆議院議員に初当選以来、連続十三回当選。農政通として名声を挙げた。二十年、厚生大臣兼文部大臣に、同年、農林大臣となり、農地改革の実施に当たった。二十八年に改進黨幹事長、三十年に文部大臣。四十四年に政界を引退した。



日中友好のかけはし
松村謙三
(一八八三—一九七二)



青年の船国際交流
46年以来毎年世界の各国を訪問。上は46年中国へ出発。左はフィリピン・セブ島で歓迎を受けた。



県と遼寧省と友好提携
第12回富山県青年の船の中国訪問の際、団長中沖知事と王光中副省長の固い握手

国際化時代を迎えて

次の世代を担う青年たちの「青年の船」が、四十六年から毎年、韓国・中国・東南アジア・ソ連・ブラジルなどを訪れ、また五十六年には女性たちの「婦人の翼」が初めてヨーロッパに飛んで、国際交流を推進した。

また海外留学生の受け入れも活発で、県や市町では各国都市との友好姉妹提携も進んでいる。

さらに吉田工業・不二越など、企業の海外における工場設置や技術提携も、国際交流の一翼を担っている。

とくに松村謙三が、早くから日中友好関係に尽したことは顕著である。

いま百年をふりかえると、富山県は新しい時代の動きに巧みに取り組んで、躍進に努めてきた。その前半は水害に、後半は戦災に耐えながら、克服、発展に努めて、今日に至ったといえる。この努力の集積の上に成り立つ将来は、極めて明るい。

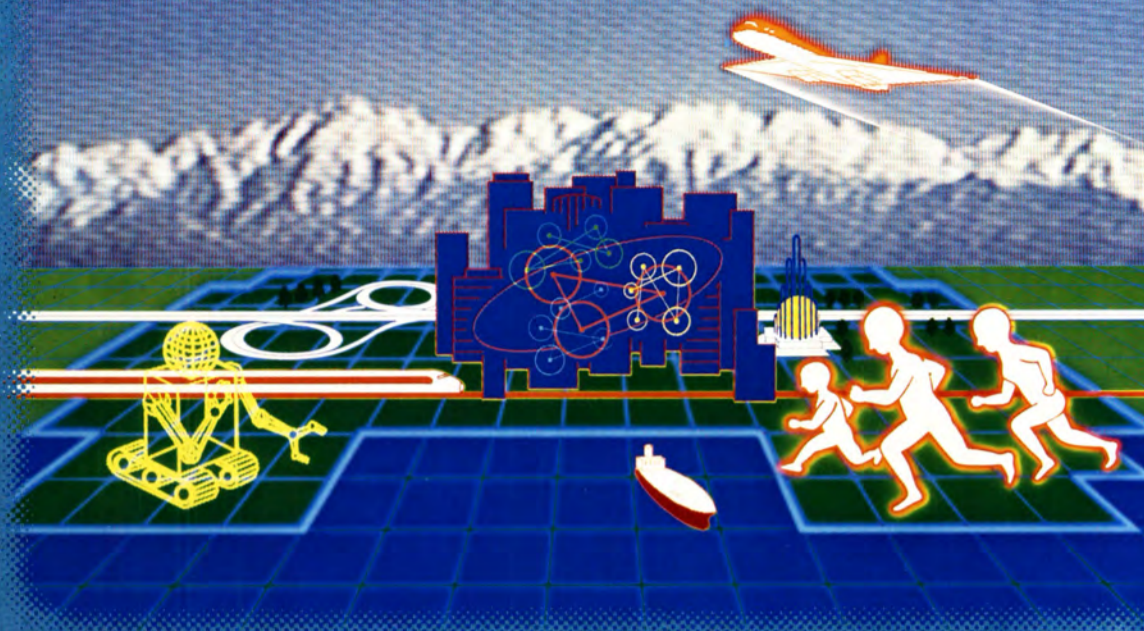


県内に滞りて知識や技術を学ぶ県費留学生たち
47年以来、ブラジル・韓国・アルゼンチンなどから受け入れ



婦人の翼
56年、西ドイツのフランクフルトで老人福祉施設を訪問

この絵は、富山県民総合計画答申に基づいて制作したものです。制作には、コンピュータに数値データを入力して得た図形(ロボット・ジェット機など)、とビデオカメラでとらえた立山連峰の画像、そして線画を基にカラーフィルムを合成して制作したイラストレーションを、一つの画面に特殊合成したものです。



富山テクノポリス

—世界への跳躍をめざす
日本海の技術中枢—

先端技術を中心に、産業部門と学術研究部門、さらに居住部門が有機的に結合した、新しいまちづくり「テクノポリス」建設こそ、21世紀へ向かって富山県がめざす「技術立県」実現の原動力である。

図は、富山テクノポリスの機能配置土地利用構想図



ひらけ 富山 新世紀

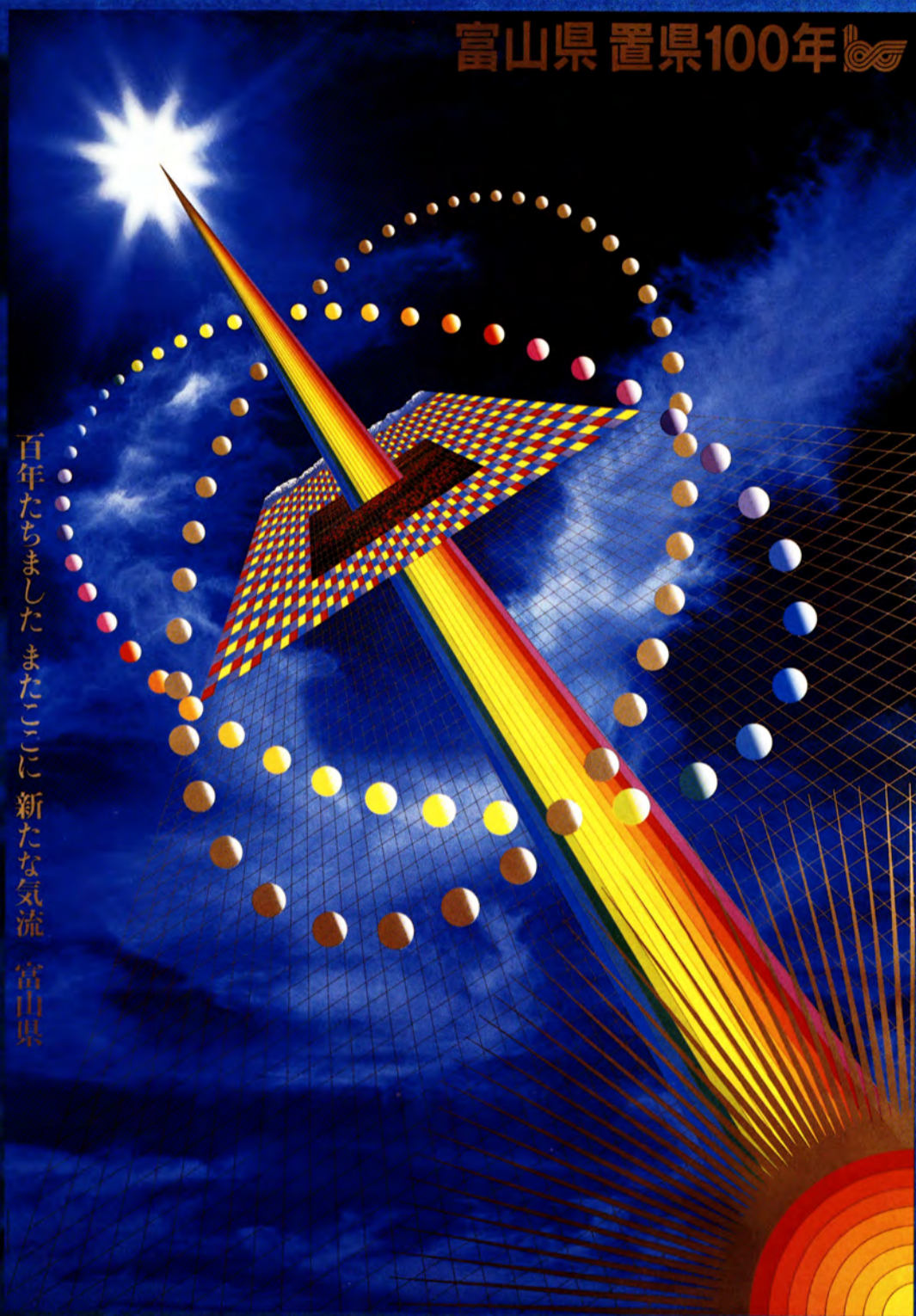
「アフリカン・ナイトの人たちは、
「開けノイマ」の呪文を唱えて、豊
かな幸せの未来を求めた。しかし、
現れたのは蜃気楼のような幻の世
界。私たちの未来は、幻であつて
はならない。

「活力と温かい心に満ちた美し
いふるさと富山県」をめざし、県
民みんなで唱えよう、「開けノ富山
新世紀」と。

(1) 明日を拓く人づくり
楽しい健康づくりに、みんなの
笑顔は絶えない。

全国一を誇る大規模運動公園で
は国体競技が行われ、県シニア
層は次々と記録更新。

県内各地では、国際文化フェス
ティバルが催され、生涯学習に打
ち込む県民の瞳は輝く。



百年たちまちまたここに新たな気流 富山県

充実した医療、温かい福祉に恵まれた地域社会、お年寄りもみんな生き生きしている。
そして実現された「日本一の健康・スポーツ県」

(II) 魅力ある郷土づくり

県内縦横に走る高速交通網、東西大都市間を結ぶ北陸新幹線。ジェット機が飛ぶ、船が走る、全国各地へ世界の各地へ。

まちやむらには、花と緑が溢れ、大自然は、四季の彩りも鮮やかだ。住みよい郷土に働く人々、憩う人々の顔は明るい。

かくて達成された「日本一の花と緑の県」

(III) 活力ある産業づくり

適地適作の農業と、つくり育てる漁業は、富山の味を豊かにし、食膳をにぎわす。

「産」「学」「住」の機能が見事に結合したテクノポリス。創造性と高い技術力に支えられた新しい産業群と、働きがいのある職場。

また、壮大な富山産業展示館には世界各地の物産が。

ここに出現した「日本一の科学文化県」



日本一の花と緑の県へ
58年4月1日県庁前公園内に花時計オープン

置県百年記念事業

●記念事業名、期日、場所、主催者、事業内容の順で紹介

3月・4月

第14回日展富山展

3・26～4・17／富山県民会館／日展・北日本新聞社・県文化振興財団／約413点を展示、日展芸術を広く紹介。

「富山を描く」100人100景展 県立近代美術館参観招待

4・19～6・19／県立近代美術館／富山県・富山県教育委員会・北日本新聞社／日本の代表作家100名による富山をテーマにした作品を展示します。また、この展覧会へ重度身体障害者を招待。

いいい味いいき富山観光キャンペーン

4・25～8・24／全国／いいい富山観光キャンペーン実施協議会／国鉄とタイアップして、全国的な観光宣伝を展開。

グリーンプラン 第34回富山県植樹祭

4・28／滑川市東福寺野／富山県・県緑化推進委員会・滑川市・滑川市緑化推進委員会／タテヤマスキ7,500本を植樹。

いきいき富山大曳山まつり

4・29～5・5／富山県五福公園／富山テレビ放送・富山県・いきいき富山観光キャンペーン実施協議会／県下の曳山や郷土芸能を一堂に集めて公開。

全国伝統工芸品展

4・30～5・5／高岡地域地場産業センター／高岡地域地場産業センター／全国の伝統工芸品を一堂に集め紹介。

チューリップ農業祭

4・28～5・5／砺波市／富山県／チューリップの集団栽培を行い、一般に開放。

県土美化運動

4月～9月／県内全域／富山県／美しい自然の保護と清らかな環境づくり。

5月

グリーンプラン 花と緑の大会

5・7～5・9／富山県民会館・富山県農協協会館／花と緑の銀行／花と緑の展示会や講演、表彰など。

富山のあゆみ展

5・7～5・29／富山県民会館／富山県・富山県教育委員会／「先人の英知と努力のあと」をテーマに開催。

置県百年記念スカウト大行進

5・8／富山市内／日本ボーイスカウト富山県連盟・ガールスカウト日本連盟富山県支部／県下のスカウト約6,000名によるパレード。

富山県置県百年記念式典

5・9／富山県民会館・富山第一ホテル／富山県／置県百年を祝い、誓いを新たに。

グリーンプラン 置県百年記念植樹

5・9／各学校／富山県・富山県教育委員会・各国公立小中高等学校／記念植樹として、各学校でシラカシを植樹。

置県百年記念の日 県花いっぱい運動

5月上旬／富山市内／富山県／式典会場を中心に県花で飾り、県庁前公園に花時計設置。

県民のひろば

5・21／富山県民会館／富山県・富山県教育委員会／「明日の富山を考える」パネルディスカッションなど。

越中だいまん風まつり全国大会

5・21～5・22／大門町庄川左岸／越中だいまん風まつり実行委員会／全国風あげ競演。特別参加27県。

高齢者ゲートボール大会

5・28／北陸電力富山総合グラウンド／富山県・富山県ゲートボール協会・富山県老人クラブ連合会／参加は60歳以上、地区大会と県大会を開催。

明日を拓く青年の翼

5・27～6・10／ブラジル・アルゼンチン／富山県／60名派遣。豊かな郷土を拓く婦人の翼

置県百年記念芸術祭 文化庁移動芸術祭

5月～11月／富山県民会館ほか五カ所／文化庁・富山県教育委員会ほか六団体／歌舞伎、ミュージカル、新劇、交響楽、文楽など8公演。

ナンガバルバット登山隊

5月～8月／パキスタン／富山県山岳連盟／日本人未踏の8,126m峰に、14隊員がアタック。

富山のあゆみ展ポスター



6月

富山県美術展覧会

6・11～6・17／富山県民会館／富山県・富山県教育委員会・富山県芸術文化協会・富山県美術連合会／美術の普及と振興をはかる公募展。

置県百年記念芸術祭 富山県民謡・民舞大会

6・23～6・25／富山県民会館／富山県民謡民舞連盟／県内18団体による伝統民謡の披露。

全日本女子社会人ホッケー選手権大会

6・25～6・27／小矢部市／日本ホッケー協会／参加15チーム。

7月

立山信仰の文化財展(越の至宝シリーズⅢ)

7・15～8・21／富山市郷土博物館／富山市教育委員会／立山信仰に関する貴重な美術を展示。

にほん新世紀博覧会

7・16～9・15／置県百年記念県民公園大岡山ランド／富山県・富山市・高岡市・北日本新聞社・富山地方鉄道・富山県商工会議所連合会／「新世紀への旅立ち」をテーマに、62日間の開催。

第36回富山県民体育大会

7・24～7・27／県宮陸上競技場ほか／富山県／「輝け！スポーツ富山」をテーマに、県民総参加のスポーツの祭典。

とやま国際児童画フェスティバル

7・30～8・4／富山県民会館・大谷和子子ども美術館／大谷和子子ども美術館／世界の児童画展。



日本一の健康・スポーツ県へ



万葉のふるさとづくりシンポジウム

8・5、8・6 / 高岡地域地産産業センター / 高岡市・高岡市教育委員会・富山県・富山県教育委員会・高岡射水モデル定住圏協議会 / 個性豊かな文化づくりをめざし、全国の万葉学習者らも参加。

置県百年記念芸術祭 児童文化大会(母と子のつどい)

8・28 / 富山県民会館 / 富山県児童文化研究会 / 児童劇・人形劇・影絵劇・口演童話など。

立山山麓ヤングジャンボフェスティバル

8・13、8・15 / 立山山麓観光レクリエーション地区 / 北日本放送・大山町 / 音楽イベントやスポーツイベントなどを開催。

第18回全国高等専門学校体育大会

8・19、8・21 / 国立富山工業高等専門学校ほか / 全国高等専門学校体育協会 / 参加選手約800名による陸上競技、バスケットボールなど。

消防祭

8・20、8・22 / 富山県民会館・富山市内 / 富山県・富山県消防協会・富山県消防長会 / 分列行進、記念式典、市中パレード、展示など。

全国ジュニアオリンピック夏季水泳大会

8・24、8・27 / 県営高岡プール・富山市民プール / 日本水泳連盟・富山県・富山県教育委員会・富山市・高岡市・富山市教育委員会・高岡市教育委員会 / 参加選手約2,500名による競泳、飛込、水球など。

JCC丸でゆく夢と冒険の旅

8・26、8・28 / 富山新港・南館 / 日本青年会議所富山ブロック協議会 / 450名の青少年の洋上セミナー。

NHK交響楽団演奏会

8・29 / 富山県民会館 / 日本放送協会 / 日本を代表する本格的オーケストラの演奏会。

グリーンプラン さくら園造成

年間 / 実施市町村 / 市町村 / 県下10カ所で、59年度までに10,000本の桜を植樹。



日本一の科学・文化県へ

老人若返り祭

9・6、9・8 / 富山県民会館 / 富山県・富山県老人クラブ連合会 / 作品展示即売会・健康・生活相談・演芸など。

北陸機械工業展(動くメカトロニクス展)

9・7、9・11 / 富山産業展示館 / 北陸機械工業展実行委員会 / 最新の工作機械・電気・電子機械などを展示紹介。

富岡鉄斎展

9・9、10・10 / 富山美術館 / 富山美術館・北日本新聞社 / 車軒コレクション40点を展示。

置県百年記念芸術祭 全日本吹奏楽祭

9・10 / 富山県民会館・富山市内 / 富山吹奏楽連盟・全日本吹奏楽連盟・朝日新聞社 / 県外4校・県内8校のブラスバンド競演県内30校1,000人によるパレード。

置県百年記念芸術祭 第10回県民劇場音楽祭

9・11 / 富山県民会館 / 富山県芸術文化協会・富山県教育委員会 / 県内音楽5団体による演奏・富山県賛歌制作発表会・青少年による演奏・合唱。

置県百年記念芸術祭 富山県美連展

9・14、9・20 / 富山県民会館 / 富山県芸術文化協会ほか7団体 / 連盟所属作家の成果を集めて展示発表。

第26回全日本花いっぱい富山大会

9・16、9・17 / 富山県民会館 / 第26回全日本花いっぱい富山大会推進実行委員会ほか2団体 / 花と緑の豊かなまちづくりを進める全国大会。

置県百年記念芸術祭 第10回県民劇場舞踊公演

9・22 / 富山県民会館 / 県内作家の創作によるストーリー性のある舞踊。

置県百年記念芸術祭 富山県大華道展

9・23、9・26 / 富山県民会館 / 富山県華道連合会 / 県下の華道人(師範格)による華道展。

置県百年記念芸術祭 富山国際アマチュア演劇祭

9・23、9・27 / 富山国際アマチュア演劇祭実行委員会 / 富山県民会館・砺波市文化会館・早稲田小劇場 / 演劇コンクールとシンポジウム。

置県百年記念芸術祭 野外華展

9・23、9・26 / 県庁前公園 / 草月星秀会 / 代表作家による現代いけばな展。

置県百年記念芸術祭 富山県青少年美術展

9・23、9・27 / 富山県民会館 / 富山県芸術文化協会・富山県教育委員会・北日本新聞 / 青少年の美術作品、約500点を展示。

全国地域 婦人団体研究大会

9・28、9・29 / 富山県民会館・富山第一ホテル / 全国地域婦人団体連絡協議会・富山県婦人会 / 大会・講演・分科会・視察。

10月

ふれあいの日

10・2 / 各市町村 / 富山県社会福祉協議会・市町村社会福祉協議会 / 福祉活動を広める日、毎年10月第1日曜日。

置県百年記念芸術祭 富山県詩吟剣舞大会

10・10 / 富山県教育文化協会 / 富山県詩吟剣舞連盟・富山県教育委員会・富山県芸術文化協会 / 詩の朗詠と剣舞。

富山県南米親善訪問団

10・10、10・28 / ブラジル・アルゼンチンほか3カ国 / 富山県南米協会 / 中南米の県出身移住者を訪問・激励。

婦人と青少年の国際交流のつどい

10・21、10・25 / 富山市内 / 婦人と青少年の国際交流のつどい実行委員会・富山県・富山県教育委員会 / 日本在住の外国人との意見交換会など。

第7回全国育樹祭

10・3 / 立山山麓観光レクリエーション地区 / 国土緑化推進委員会・富山県 / 皇太子ご夫妻をお招きし、「育てる緑に明るい未来」をテーマに開催。

置県百年記念芸術祭 こどもフェスティバル

10・22、10・30 / 富山県教育文化協会・富山城址公園・大和富山店 / 富山県教育委員会・富山県芸術文化協会・富山新聞社 / 童画・児童画・書・演劇・童話など創作活動の成果を発表・展示。

富山県児童クラブ祭り

10・23 / 富山城址公園 / 富山県・県児童クラブ連合会ほか4団体 / パレード・式典・アトラクション・絵画展示など。

富山県農林漁業祭

10・27、10・30 / 富山県民会館・富山城址公園 / 富山県農林漁業振興会・富山県・富山市ほか3団体 / 功労者の表彰・農業100年の歩み展示など。

県内一周駅伝競走大会

10・29、10・30 / 28市町村 / 富山県・富山県教育委員会・富山県体育協会・読売新聞社・北日本放送 / 都市対抗で参加選手約1,500名。78区間、275.4kmを競走。

富山県菊まつり

10・30、11・6 / 福野町 / 富山県菊花連盟・福野町菊振興協議会 / 富山県菊花展・全日本菊花連盟北陸大会などを開催。

11月

富山県私学の祭典

11・5、11・13 / 富山県民会館・高岡市民会館・太閤山ランド / 富山県私学振興会ほか6団体 / 式典・演説・展示・体育祭。

置県百年記念芸術祭 富山県文芸展

11・23、11・27 / 富山県民会館 / 富山県芸術文化協会・富山県教育委員会・富山新聞社 / 明治から現代までの富山県とのかかわりのある文芸作品と作家の業績を紹介。

12月

第31回近畿東海北陸連合肉牛共進会

12・6、12・8 / 富山県運動教育センター空地 / 近畿東海北陸肉牛協会 / 1府10県、110頭出品。

富山県高等学校生徒海外派遣

12月下旬、59 / 1月上旬 / イギリス・スイス・フランス / 富山県・富山県教育委員会 / 基金1億円。約18名を派遣。

1月(59年)

高松宮賜杯第34回中部日本スキー大会

1・29、1・31 / 大山町 / 中部7県スキー連盟・富山県教育委員会・中日新聞社・北陸中日新聞社・大山町 / 中部7県の競技会。

記念施設

高岡地域地場産業センター

4・26完成／高岡地域地場産業センター／常設展示場・大・小ホールなど4、687㎡。

立山山麓家族旅行村

7月2次オープン／富山県／芝生広場・キャンプ場・ケビン18棟・フィールドアスレチックなど30ha。

置県百年記念県民公園太閤山ランド

7・16一部完成／富山県／シンボルゾーン・こどもの国ゾーンなど博覧会と同時開園。

置県百年モニュメント「百年の泉」

7月完成／置県百年記念県民公園太閤山ランド／富山県／池・噴水・造形物・光など組み合わせた17mの立体造形。

国立立山少年自然の家

9月一部開所／立山町芦崎寺／文部省／小・中学生が集団生活を通じて、心身ともに健康でたくましく育てるための施設。

タイムカプセル

8月予定／未定／富山県／未来の人々へのメッセージとして。

富山産業展示館「テクノホール」

9月完成／富山市友杉／富山産業展示館／総合的な見本市などが開催できる大展示場など7、077㎡。

富山県食品研究所

9月中旬完成／富山市吉岡／富山県／新製品の開発試験研究・分折検定・技術指導・情報提供を行う。

北陸自動車道

12月完成／滑川市／朝日町／日本道路公団／滑川市から朝日町までの27・6kmを延長。

富山空港ターミナルビル

59年3月完成／富山市秋ヶ島／富山空港ターミナルビル／空の玄関口として5、119㎡の空港ビルがオープン。

富山県総合体育センター

59年3月完成（第一期分）／富山市秋ヶ島／富山県／日本海側随一の大体育館。大アリーナ完成。

新富山空港

59年3月完成／富山市秋ヶ島／富山県／滑走路2、000mで中型ジェット機が就航できる空港。



置県百年モニュメント「百年の泉」(模型)



新富山空港と富山県総合体育センター(完成予想図)

につぼん新世紀博覧会場(模型)



記念出版・制作

航空写真大集「富山百年を翔ぶ」

発刊中／富山新聞社／空から見た街並みや自然を収めた写真集。

統計100年の歩み

3月発行予定／富山県／置県以降の県勢に関する統計を時系列的に集大成。

置県百年記念誌 当誌

5月9日発行／富山県／郷土の歴史を振りかえり、第2世紀への発展を願う記念誌。

置県百年記念映画

5月完成予定／富山県／県勢発展の契機をさぐり、21世紀へ伸びる郷土を描いた映画。

富山県業史

5月発行予定／富山県／貴重な資料によって、富山県業史の発展過程を編集。

富山県賛歌

5月完成予定／富山県芸術文化協会ほか3団体／公募した歌詞で、新世紀への躍進を歌う賛歌を制作。

「富山県の住まいと街なみ百年のあゆみ」

6月発行予定／富山県／住まいの歴史などを写真・図面により収録。

県民のくらし100年のあゆみ

7月発行予定／富山県／県民生活の移り変わりを紹介。

富山県議会百年のあゆみ

9月発行予定／富山県議会／県民の意見を反映する場としての県議会史。

農業百年誌

10月発行予定／富山県／農業の移り変わりを写真・グラフ・年表などを中心に収録。

民謡をあなたに

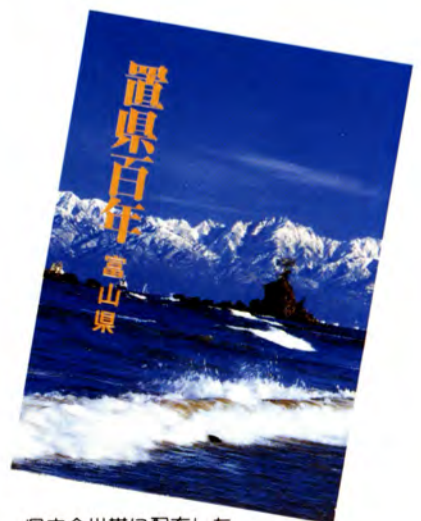
11・10／NHK富山放送局／公開録画 地元出演者約120名。

無雪害都市への提言

12・14完成予定／北日本放送・富山県／雪対策を比較研究したテレビ番組の制作と公開シンポジウムを開催。

富山県史

59年3月完成予定／富山県／原始・古代から現代まで、歴史を総合的に編さん。



県内全世帯に配布した置県百年記念誌(表紙)

歴代知事

氏名	就任年月日
国重 正文	明治16.5.9
藤島 正健	21.10.29
森山 茂	23.7.25
徳久 恒範	25.8.20
安藤 謙介	29.4.11
石田貫之助	30.4.7
阿部 浩	31.2.5
金尾 稜巖	31.8.3
松垣 直右	33.1.19
小倉 久	35.2.8
李家 隆介	35.12.30
川上 親晴	38.12.14
宇佐美勝夫	41.3.28
浜田恒之助	43.6.14
木間瀬策三	大正4.8.12
井上 孝哉	6.1.29
東園 基光	8.4.18
信太 時高	10.12.24
伊東喜八郎	11.9.26
岡 正雄	13.7.23
白上 佑吉	15.9.28
白根 竹介	昭和2.5.17
山中 恒三	4.2.6
鈴木 敬一	6.4.15
齊藤 樹	7.6.28
土岐銀次郎	10.5.25
矢野 兼三	13.4.18
町村 金五	16.1.7
坂 信弥	18.4.23
西村 彰一	19.2.25
岡本 茂	19.7.25
吉武 恵市	20.10.27
田中 啓一	21.1.25
石丸 敬次	21.7.9
羽根 盛一	22.2.28
(これ以後公選知事)	
館 哲二	22.4.19
高辻 武邦	23.11.23
吉田 実	31.10.1
中田 幸吉	44.12.27
中沖 豊	55.11.11

歴代議長

氏名	就任年月日
武部 尚志	明治16.8.17
南 兵吉	17.6.20
米沢紋三郎	18.3.10
米沢紋三郎	18.12.10
島田 孝之	19.10.11
島田 孝之	21.3.24
石坂専之介	23.3.22
谷 順平	23.11.26
堀 二作	25.7.25
金岡又左衛門	27.7.25
竹脇茂三郎	27.9.28
大矢四郎兵衛	28.2.12
堀 二作	29.9.18
上埜安太郎	31.9.21
関野善次郎	32.10.12
菅野 新作	33.12.17
岡本 八平	34.12.16
大橋十右衛門	36.10.14
大橋十右衛門	40.10.8
森丘 覚平	41.12.15
根尾宗四郎	42.12.21
吉田久兵衛	44.10.13
浅野 長保	大正2.11.22
野島茄三郎	4.7.1
荒井 健三	4.10.9
藤田 久信	5.11.14
高桑 直助	6.11.10
野松 以寛	7.12.15
佐々木平兵衛	8.11.15
橋 林太郎	9.11.19
角島 吉明	10.11.17
谷 龍蔵	11.11.25
佐々木平兵衛	12.10.15
長谷川庄蔵	12.11.24
米沢 元健	15.6.22
大西 篤示	15.11.25
根尾長次郎	15.12.23
金山米次郎	昭和2.10.15
飯倉平兵衛	2.12.25
大西 篤示	3.11.23
藤田 義為	5.11.18
片口安太郎	6.10.16
吉田 清平	6.12.19
鹿熊 久安	7.12.1
砂土居次郎平	8.12.5
高広政之助	9.12.7
片口安太郎	10.10.16
森丘 正唯	11.11.28
飛見 丈繁	12.11.30
吉田 清平	13.11.26
五十嵐為太郎	14.10.14
堀田 勝文	15.11.26
野上 資良	17.11.24
武部 毅吉	19.11.29
前田 治吉	22.5.31
高原 耕造	24.7.2
須河 信一	26.5.12
湊 栄吉	27.11.30
養 恵作	29.12.23
岩川 毅	30.5.14
舟橋 順治	31.10.28
分家義八郎	32.3.26
栗田 吉郎	33.3.25
古市繁太郎	33.11.8
中嶋 栄次	34.5.11
金厚 伴二	36.12.21
桜井 与蔵	37.12.15
宇於崎章吉	38.5.8
柚木 栄吉	39.6.26
藤井 兼久	40.12.20
和田 泰三	41.7.14
和嶋 栄次	42.5.18
高野 由郎	42.12.16
玉生 孝久	43.12.18
広井 文作	44.12.1
谷原 理一	45.9.28
山田 伊作	46.5.10
松沢 六郎	47.3.22
高平 公友	48.3.23
中橋 甚一	49.3.25
鹿熊 安正	50.5.7
大沼 勝二	51.6.29
伏脇松太郎	52.7.20
笹島 太一	53.3.20
上銘 政雄	53.9.18
石沢 義文	54.5.2
浅地 央	55.7.5
川田 謹治	56.3.20
黒田安之丞	57.3.20
島田 英治	57.9.22

あとがき

記念誌「置県百年富山県」は、当誌(保存版)と、三十万世帯への配付版の二種類が作られた。

企画にあたっては、県内外八社による企画コンペが行われ、「見やすく、わかりやすく、親しみやすく」の条件にかなった(株)チューエツの企画が、記念誌企画編集委員会において選ばれた。

それは、昨年の七月であった。

編集方針など決められ、全委員の中から五人の専門委員が選ばれて、編集にあたることになった。

専門委員は、それぞれ執筆分担を決め、収集された写真の選択、デザインや色彩にいたるまで注意をはらい、熱心に編集を進めた。

数回にわたって、全体委員会に諮り、合意を得たことはもちろんである。

記念すべき置県百年を迎える五月九日を、心待ちにしておられる県民のみなさんに、すばらしい富山県の百年の歴史を、一日も早くお届けしたいと、五十回に近い会合を開くという、ハードなスケジュールとなったが、遂に、完成へこぎつけることができた。

それは、運よく百年記念にめぐり会えた歓喜と、期待に応えるべき責任感からであったかとも思う。

ここに、この記念誌完成にあたって、貴重な資料や写真などを提供された方々や、優れたご高見をいただいた方々に、深く謝意を表するものである。

また、各委員の方々、そして、県立図書館の広瀬、太田の両氏。県知事公室広報課の各位からは、献身的なご指導、ご協力を賜わった。厚くお礼を申したい。

富山県置県百年記念誌
企画編集委員会委員長 植村元覚

写真・資料提供

富山県
富山県警察本部
各市町村
各市町村教育委員会
富山県立図書館
各市町村立図書館
富山県立近代美術館
富山県民会館
富山県農業試験場
富山市郷土博物館
水橋郷土史料館
富山県教育記念館
高岡市立博物館
氷見市立博物館
滑川市立博物館
魚津市歴史民俗資料館
魚津鮭鱒組合
南米移住協会
各学校
国立公文書館
金沢市立図書館
電気通信学園
大阪経済大学図書館

不二越
佐藤工業
安田生命
東洋紡績
富山地方鉄道
大和
スズキ自動車
永安寺
源
扇友会
文芸座
青木義治
赤羽一男
天野俊子
池田太吉
石崎直義
金森己一
北村洋誠
木津富佐
笹倉長平
沢崎 寛
島田友啓
神保成倍
表 しず子
折橋礼一
柿沢キヌエ
片口淑子
彼谷芳水
磯野百合子
海内志郎
大田栄太郎
小沢栄造
篠井忠一
須賀正佐
杉林信義
杉原節夫
石戸貞太郎
前仏 勇
高柳勝正
竹久不二彦
田中清一
田中忠一
谷田忠雄
中村太一路
中島奎石
永田幹雄
西田康之助
能沢岩雄
原 玄一
浜野善二
林 淑子
広田寿三郎
堀田佐一郎
丸田次子
水間直二
宮 長慎
村上岳雄
村 昌史
家森建一
八尾正治
山口 宏
山崎俊昭
山下留吉
吉田義夫
平尾旨剛
福井博史
藤原幸雄
堀田宏典
松田富雄
松永公英
松村 博

(敬称略)

置県百年記念誌 企画編集委員会

青柳正美
石上英将
○石崎直義
岩林 昭
○植村元覚(委員長)
○漆間元三
奥田淳爾
金岡とも子
小浜喜一
新村義孝
須山盛影
高井 進
長井真隆
広田寿三郎
堀田 良
○八尾正治(委員長代行)
○山口 博
○印は専門編集委員

協力者
太田久夫
広瀬 誠
・氏名は五十音順(敬称略)

置県百年 富山県

発行日/昭和58年5月9日 発行/富山県 富山市新総曲輪1-7

企画/富山県知事公室広報課 製作・印刷/株式会社チューエツ 富山市上赤江町2-8-6